

会津坂下町郷土学習副読本

— 坂下学のおすすめ —



会津坂下町教育委員会

会津坂下町郷土学習副読本

—坂下学のすすめ—



もくぞうせんじゅかんのんりゅうぞう

木造千手観音立像(国指定重要文化財)

所在地／会津坂下町大字塔寺えりゅうじ(恵隆寺)

表紙写真しょうかい

右上：かめがもり ちんじゅもりこふん 亀ヶ森・鎮守森古墳（国指定史跡）

所在地／会津坂下町大字青津

右下：もくぞうやくしによらいざぞう 木造薬師如来坐像（国指定重要文化財）

所在地／会津坂下町大字大上（上宇内薬師堂）

左上：きゅうい がら し けじゅうたく 旧五十嵐家住宅（国指定重要文化財）

所在地／会津坂下町大字塔寺

左下：すぎ いとざくら 杉の糸桜（町指定天然記念物）

所在地／会津坂下町大字船杉

中央：はついちおおだわらひ 初市大俵引き 毎年1月14日に行われる行事。

東西にわかれた引き手が俵を引きあう。

まえがき

わたしたちが住んでいる「会津坂下町」は、会津盆地の北西部にあります。この盆地のなかにはたくさんの川が流れており、これらはすべて会津坂下町の北部で阿賀川と合流し、越後山地をこえて日本海に流れていきます。この川による豊富な水のおかげで、わが町は、米、やさい、くだもの、酒・しょうゆなどの産地として有名です。しかし、この川は多くの恵みをもたらす一方、台風などで洪水がおこると、多くの集落や田畑が浸水する被害をもたらしました。このような災害の歴史は古文書から知ることができます。

みなさんは、自分の住んでいるわが町の自然、歴史、産業などを学ぶことにより、この地域の様子やくらしがどのようにうつり変わり、発展していったかを正しく知ることができます。

会津坂下町では、わたしたちの郷土を親しみながら学ぶことを「坂下学」と呼ぶこととしました。この本をもとにして、なぜ、どうしてという疑問をもちながら、さまざまな角度から町のいろんなことを調べ、わかったことをまとめ、みんなに伝えてください。

そして、わが町を深く知ることで、郷土に誇りをもち、郷土の一員であることの自覚を養うことができると願っております。この本は、そのための「道しるべ」となるものです。

会津坂下町教育委員会教育長 鈴木 茂雄

会津坂下町郷土学習副読本

—坂下学のすすめ—

も く じ

1.わたしたちの会津坂下町

- (1) 会津坂下町の自然^{しぜん} 7 ページ
- (2) 学校とまわりの様子 16 ページ

2.町全体の様子

- (1) 会津坂下町の位置^{いち} 20 ページ
- (2) 土地利用^{りよう}の様子 24 ページ
- (3) 気候^{きこう}の様子 29 ページ
- (4) 人口のうつり変わり^か 30 ページ

3.町の人々の仕事と暮らし

- 町の人たちの仕事 31 ページ
- (1) 商店の仕事 33 ページ
- (2) 農家の仕事 43 ページ
- (3) 工場の仕事 57 ページ
- (4) わたしたちの暮らしを守る 63 ページ

4.住みよいくらしをつくる

- ごみと水について考えよう 80 ページ
- (1) 上水道と下水道 82 ページ
- (2) ごみのしよりと再利用^{さいりよう} 87 ページ

5.人々のくらしをゆたかにする

- (1) 町にあるいろいろなしせつ 95 ページ
- (2) 人々のくらしとコミュニティセンター ... 97 ページ
- (3) 公園と人々のくらし 99 ページ

6.町のうつりかわり

- (1) かわってきた人々のくらし 100 ページ
- (2) 町に残る古いもの 109 ページ
- (3) 残したいもの大切なもの 116 ページ
- (4) 昔からの産業 120 ページ
- (5) 昔さかんだった産業 121 ページ

7.郷土を開く

- (1) かんがい用水を開く 123 ページ
- (2) 新しいダムを造る 128 ページ
- (3) 町にゆかりのある人々 130 ページ

8.地いきに伝わる伝統

- (1) お祭り 140 ページ
- (2) 伝統芸能 143 ページ
- (3) 伝説・伝承 146 ページ

9.これからの会津坂下町とわたしたちの心がまえ

- * 会津坂下町の原始～近世のあゆみ 151 ページ
- * 会津坂下町の近代・現代のあゆみ 153 ページ
- * おもな見学しせつ 161 ページ

会津坂下町民憲章

会津坂下町民憲章

わたくしたちは、美しい自然のなかにはぐくまれ、
未来に向ってたくましく生きよう。会津坂下町民です。
わたくしたちは先人のすくんだ心をうけつぎ、町民
としての自覚と誇りをもつて協力し、平和で希望に
みちたまちづくりのために町民憲章を定めます。

一 自然を愛し、緑豊かな美しい
まらをつくりましょう。

一 互いに助けあい心のふれあう
まらをつくりましょう。

一 健康で働き、活力ある
まらをつくりましょう。

一 きまわりを守り、明るく住みよい
まらをつくりましょう。

一 教養を深め、文化の香り高い
まらをつくりましょう。

昭和六十年八月一日制定 藤園書

町章



昭和40年10月に会津坂下町章が制定されました。大きな円は地域の和、小さな円は家庭の和を、たての線はそれを有機的に結び明日への発展をめざすことを表しています。

バンビィ



平成13年、第4次振興計画のイメージキャラクターとして作成されました。坂下の頭文字「B」をモチーフに擬人化し、未来に向けて躍進する姿を可愛く親しみやすいデザインで表しています。

会津坂下町の花木鳥

町の花「菊」



古く中国から渡来したキク科の多年草で、梅、竹、蘭とともに四君子とよばれ、気品高く長寿の美しい花として親しまれている。

町の木「桜」



落葉高木でバラ科に属し、春一斉に白色または淡紅色の五弁の花を開き、昔から美しい花木として愛好され、春の若葉と秋の紅葉もまた趣がある。

町の鳥「うぐいす」



ウグイス科の小鳥で、こまどり、めじろと共に三名鳥とよばれ、背は緑褐色、腹は灰白色で目は細く、春をつげる「ホーホケキョ」の鳴き声はみんなに親しまれている。

会津坂下町民歌

会津坂下町民歌

堀 新三郎 作
たなか ゆきを 補作詞
渡部 實 作曲
山田 年秋 編曲

一、緑なす 山裾の

会津盆地は 風薫る

平和を誇り 希望に燃えて

我等町民 幸せつくる

ああ、ふるさと 会津坂下町

二、うまや路の 面影浮かべ

阿賀の流れは 水清し

瑞穂の波も 黄金に揺らぎ

我等町民 豊かに栄ゆ

ああ、ふるさと 会津坂下町

三、歌声は 高らかに

響く磐梯 飯豊山

自然を愛し 融和を胸に

我等町民 未来を語る

ああ、ふるさと 会津坂下町

いっしょに学ぶお友だち



けんくん



ふみちゃん



よしくん



みっちゃん



ながたか先生



れいこ先生



いっちゃん



としくん



けいちゃん



ひでくん

(イラスト：やないふみえ)

1.わたしたちの会津坂下町

(1) 会津坂下町の自然

① 縄文人が見ていた会津坂下町

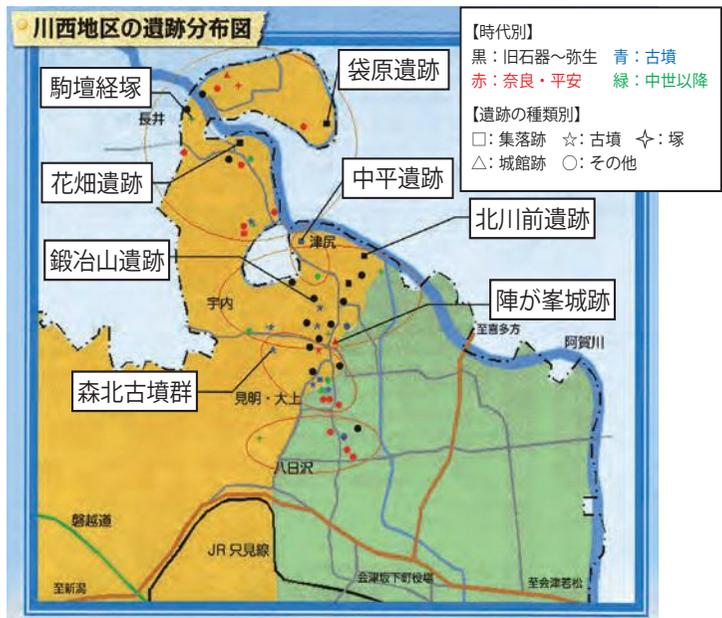
湖・海

下の写真は、高寺地区にあった山砂さい取場です。砂をさいくつしてあります。この砂は、沼沢火山のふん火（約5500年前）によってできた火山灰です。洲走では、20～30メートルもたい積している場所もあります。



高寺地区洲走周辺の山砂さい取場
(撮影年：平成17年頃)

縄文時代（約1万3000年～2400年前）のころ、川西地区には、縄文人が生活していました。多くの遺跡に、その生活のあとが残っています。5500年前、沼沢火山のふん火により、空は黒くおわれ、大地には火山灰がふり積もり、そして、川がせき止められて大きな湖ができるという様子を、縄文の人々はきょうふをいだきながら見ていたのかもしれませんが。



②ふしぎなしまもよう発見！ これってなあに？

右の写真は、会津坂下町片門^{かたかど}の只見川ぞいに見られる地層^{ちそう}です。地層とは、流れる水のはたらきで運ばんされたどろ、砂、小石、生き物などが、時間をかけて海や湖の底でたい積^{そこ}してできたもので、しまもように見えます。写真の地層の大部分は、七折坂層^{ななおれざかそう}といます。七折坂層の厚さは、300メートルもあります。この地層をよく観察^{かんさつ}すると、小石が入っているのが見えます。



只見川ぞいに見られる七折坂層

山からたくさんの小石が流れてたい積したものです。また、地層の中からは、少し寒い気候^{きこう}で育つ松や杉の仲間^{なかま}の葉や実の種^{たね}が見つかります。このことから、この地層は湖の中でたい積したものであることがわかります。今から180万年前～70万年前のことです。

会津坂下町の地層から、会津盆地^{ほんち}の地面は、湖の中でたい積してできたもので、1000メートルの厚さがあるといわれています。

会津坂下町の地層から、会津盆地は、昔は湖だったんだことがわかるんだ！



③七折坂層よりさらに昔の地層^{ちそう}

会津坂下町が、昔は湖だったことを知る手がかりは、地層にあります。本来ならそうした昔の地層は、地面のおく深くにあるはずですが。しかし、それらが、地殻^{ちかく}の変動^{へんどう}や水面^{へんか}の変化などにより、地表に出ていることがあります。それらは、昔のかんきょうを知る上で重要^{じゅうよう}な手がかりとなります。

会津坂下町の東松峠の洞門下の谷川ぞいには岩山があります。この岩山の石をわって化石をさがすと、巻貝や二枚貝が見つかります。巻貝や二枚貝は、海水に生息する貝です。この地層を塩坪層しおつぼそうといいます。およそ1000万年前にたい積した地層で、アイツタカサトカイギウ・クジラなどの化石や、浅く寒い海に生そくしていたと考えられる貝の化石が発見されています。他にも、サメの歯やウニの化石なども多く発見されています。つまり、会津坂下町は、昔は、海であり、長い年月をかけて湖となり、そして陸地りくちになったと考えられます。



サメの歯の化石

(写真提供：喜多方市カイギウランドたかさと)



二枚貝

巻貝

(採取地：東松峠周辺)

喜多方市漆窪から西会津町軽沢さわに向かう林道ぞいには、海底の水流のあとが石化した模様せきか（漣痕れんこん）が道路の横にあらわれている場所があります。今から1000万年前にたい積したもので、その当時、ここが深さ10メートルほどの浅い海であったと考えられています。



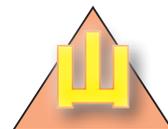
西会津町軽沢の林道ぞいに見られる漣痕れんこん

現在、みんなが生活してる大地が、昔は海や湖の底でできたものだったとは、おどろきましたね。みなさんのお家の近くにも、地層が見える場所はありませんか？調べてみると、そこからいろいろな発見があるかもしれませんね。



④会津盆地^{ほんち}の中の会津坂下町

まわりを山で^{かこ}囲まれた平地を盆地といいます。



まわりの山を見てみましょう。会津坂下町からは、どんな山が見えるのでしょうか。



<北>^{いいでさん}飯豊山



<西>^{たかてらやま}高寺山



<東>^{ぼんだいさん}磐梯山

ひとこと

<高寺山の^{おうごんでんせつ}黄金伝説>

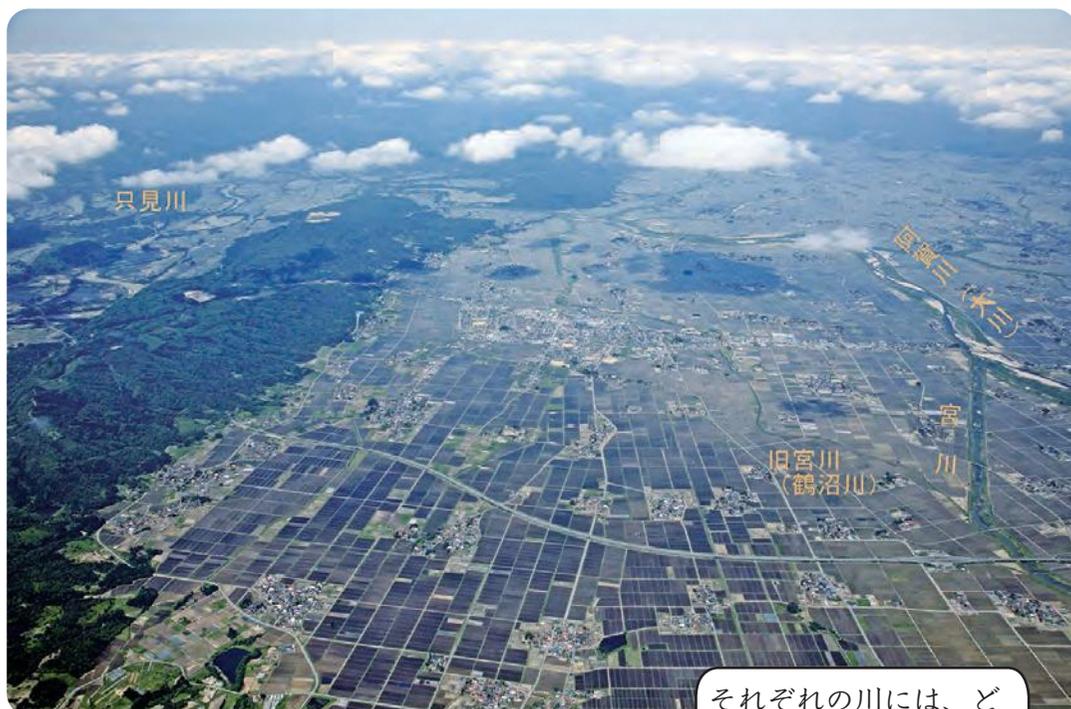
^{かわにし}川西地区と^{たかてら}高寺地区にまたがる高寺山には、^{おうごん}黄金伝説があります。

「立てば前^{すわ}座ればうしろ山吹の^{やまぶき}黄金千杯^{こがね}朱千杯^{ばい}三つ葉^{しゅ}うつぎのしたにある。」この歌には高寺山にねむるたから物のひみつがかくされているといわれています。

⑤会津坂下町の河川を見てみよう



会津坂下町には、いくつかの川が流れています。
どんな川があるのでしょうか。そして、そこには、どんな生き物がいるのでしょうか。



【只見川】延長 145 キロメートル
水源は尾瀬沼です。伊南川、野尻川、滝谷川が合わさり、只見川となって、喜多方市山都町で阿賀川に合流します。

【阿賀川】延長 210 キロメートル
阿賀川が会津盆地を流れる間では大川とも呼ばれます。水源は福島県の荒海山で、新潟県から日本海に注ぎこみます。

それぞれの川には、どんな生き物がいるのかな？



人と川とは、どんな関わりがあるのかな？



⑥会津坂下町で見られる代表的な花・木

花・木

会津坂下町には、とても貴重な花や木があります。これらを大事にして、次の世代へと残していかなければなりません。



ヒメサユリ
町の西部地域の日当たりのよい山地に自生する淡紫紅色のゆり。



アワガタケスミレ
とてもまれなスミレで、東松崎の頂上近く
に少し分布している。



すぎ いとざくら
杉の糸桜
薬王寺の境内に植えられたシダレザクラで、石部桜（会津若松市滝沢）、薄墨桜・虎の尾桜（会津美里町）、大鹿桜（猪苗代町）とともに、会津五桜のひとつ。



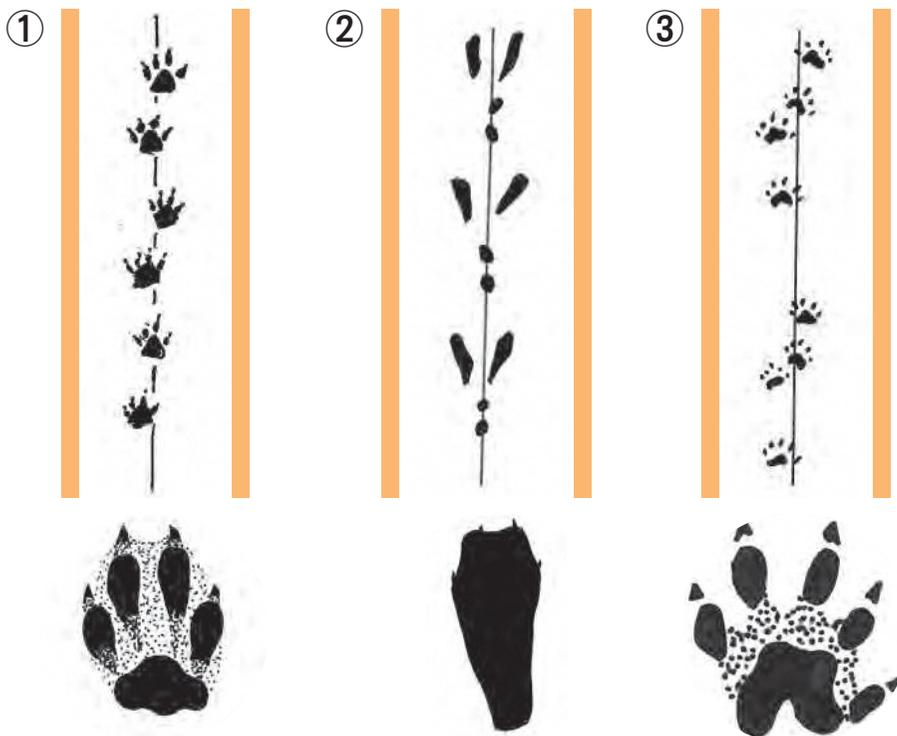
だいのみや
台ノ宮のケヤキ
周囲8メートルの、町で一番大きいケヤキの大木。

⑦会津坂下町にすむ動物

会津坂下町には、多くの生き物たちも生息しています。自然がゆたかなのですね。



どの足あとがどのどうぶつのものかあててみよう。



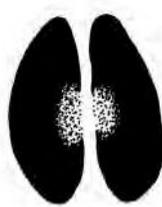
④



⑤



⑥



(カモシカ写真提供:長尾修氏)

答えは19ページにあります。

モリアオガエル

すぎやましゅうらく ぬま おおぬま かみぬま どう いり かしわばらぬま
杉山集落には、大小4つの沼（大沼、上沼、堂の入、柏原沼）があ
ります。昔はもっと沼がありました。げんざい すぎやましゅうらく かしわばらぬま
耕地せいりなどで残念ながら
なくなっていました。なくなった多くの沼には、昔からモリアオ
ガエルが生息していました。現在、げんざい すぎやましゅうらく かしわばらぬま
杉山集落では柏原沼が生息地です。
ぬましゅうへん きちょう
沼周辺には、ヒメサユリ、リンドウ、キキョウなどの貴重な野草もさ
いています。杉山集落が町内で希少な生息場所の一つです。



かしわばらぬま
モリアオガエルが生息する柏原沼

<モリアオガエル>

モリアオガエルは本州や四国の低山^{ていさん}
地^ちの林などに多く生息しています。体
長5～9センチメートル、せなかは緑
色で、黄緑から暗い青緑色にまで体
の色^かを変えることができます。岸
辺のえだや草などに卵を産む、めずら
しいカエルです。岸辺のえだや草な
どにあわ状にかたまりとなった卵を
産み、オタマジャクシになると水中
に落ちます。



リンドウ



キキョウ

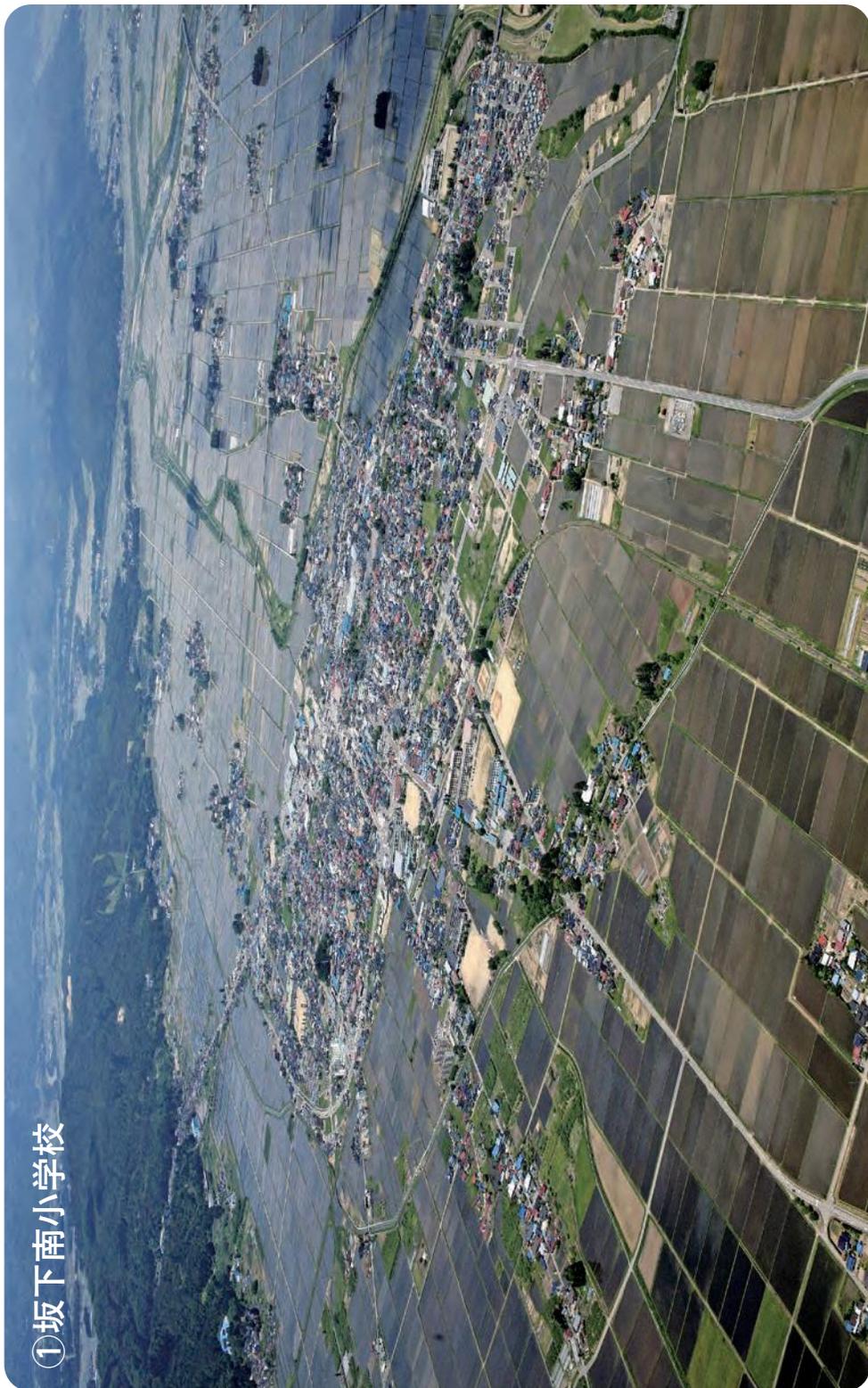


モリアオガエルの産卵のようす

(モリアオガエル写真提供：会津若松ザベリオ学園高等学校教諭 岩崎雄輔氏)

(2) 学校とまわりの様子

①坂下南小学校





②坂下東小学校

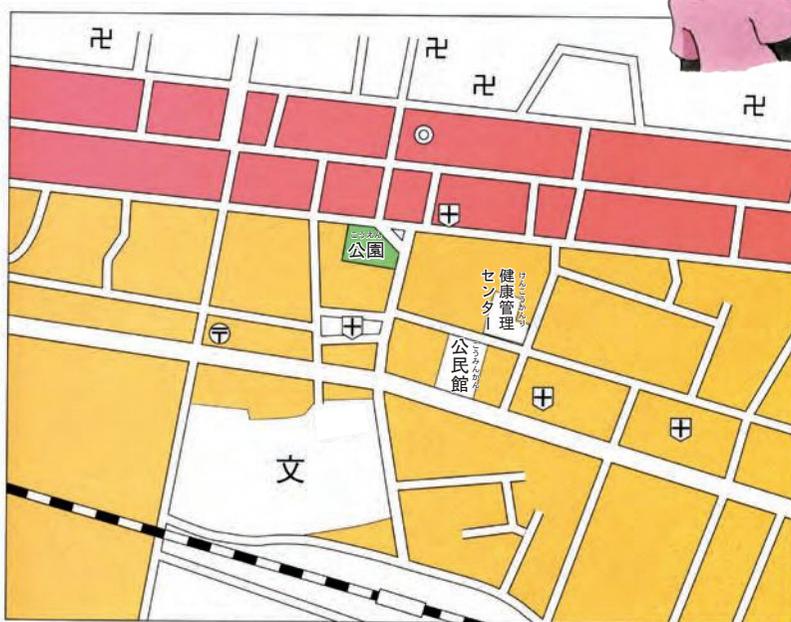
③絵地図作り

自分たちの学校のまわりの様子を、絵地図にまとめてみましょう。

絵地図にまとめるときのポイント

1. 広い道路を書きこむ。
2. 大きな建物や目立つ建物を書きこむ。
3. 川や用水路などを書きこむ。
4. 公園、役所、公民館、駅など町や県・国のしせつを書きこむ。
5. 地図記号を使う。
6. たんけんしたときに気づいたことを書きこむ。

これは坂下南小学校のまわりだね。
坂下東小学校のまわりはどうか？



文 学校 ⊙ 町役場 ⊕ 病院 卍 寺 ⊕ 郵便局
■ 店の多いところ ■ 家が多いところ

④通学はんい

■…坂下南小学校区

■…坂下東小学校区



通学はんいは2つにわかれているんだね。



13・14ページの答え：①キツネ ②ノウサギ ③イタチ ④ツキノワグマ ⑤ニホンカモシカ ⑥タヌキ

2.町全体の様子





(1) 会津坂下町の位置

会津坂下町は福島県の北西の位置にあります。下の地図で位置やまわりの市や町をたしかめてみましょう。



会津坂下町の位置



会津坂下町とまわりの市や町と村



けいど いど
 経度や緯度を使うと
 地図上の位置を正しく
 表すことができます。



とうけい
 東経 139 度 43 分

ほくい
 北緯 37 度 33 分

東西 11 キロメートル

南北 14 キロメートル



(2) 土地利用の様子

① バスや列車の通るところ

会津坂下町は、会津盆地の西の中心として昔からさかえてきました。そのため、多くの道路が作られ、まわりの市や町、村と結ばれています。

また、会津若松市と新潟県の魚沼市を結んでいるJR只見線やいわき市と新潟県を結んでいる国道49号線や磐越自動車道が通っています。

バスや列車、高速道路は、町のどんなところを通っているのか調べてみましょう。



JR 只見線 会津坂下駅



磐越自動車道 会津坂下インターチェンジ



下校でバスを利用する子どもたち

②田や畑の多いところ

会津坂下町の東の平らな土地には、水田が広がっています。会津坂下町は、福島県の中でも、たくさん米のとれるところです。



田が広がっている様子

<田や畑の広がっているところ>



たても
③建物が集まるにぎやかなところ

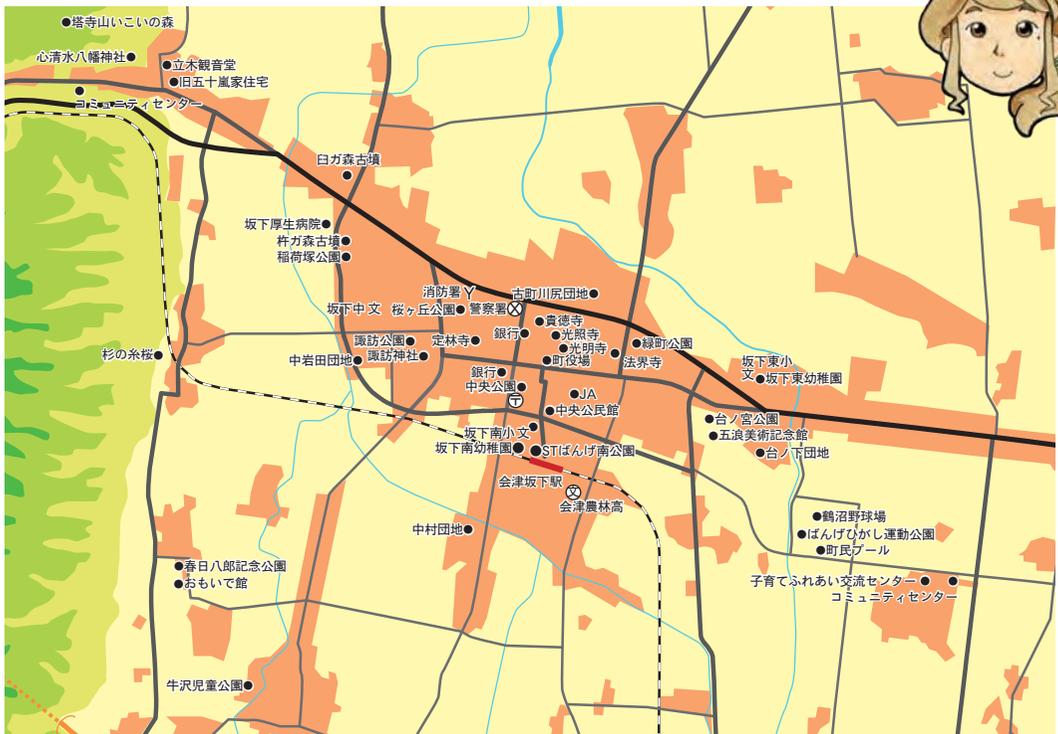
役場前の通り（前はライヴァン通りとよばれていました）の近くには、みんなが使うしせつが多く集まっています。また、こくどう 国道49号線や安兵衛通りごうせん やすべえどおの近くには、大きな店が多く集まっています。古い道路が広げられたり、新しい道路が作られたりすると、建物が集まるにぎやかなところも少しずつか変わっていきます。



空から見た建物が集まっている様子

どんな場所にどんな建物が多くあるか調べてみましょう。

<建物が集まっているところ>



④工場の多いところ(八幡地区)^{やはた}

会津坂下インターチェンジの近くにある坂本工業団地^{さかもとこうぎょうだんち}には、多くの工場が集まっています。発泡スチロールを作っている工場やドリルやネジを作っている工場のほか、再生可能な資源^{さいせいかのう しげん}を使った「バイオマス発電所」もあります。町の中にも、みそやお酒を作っている工場がたくさんあります。



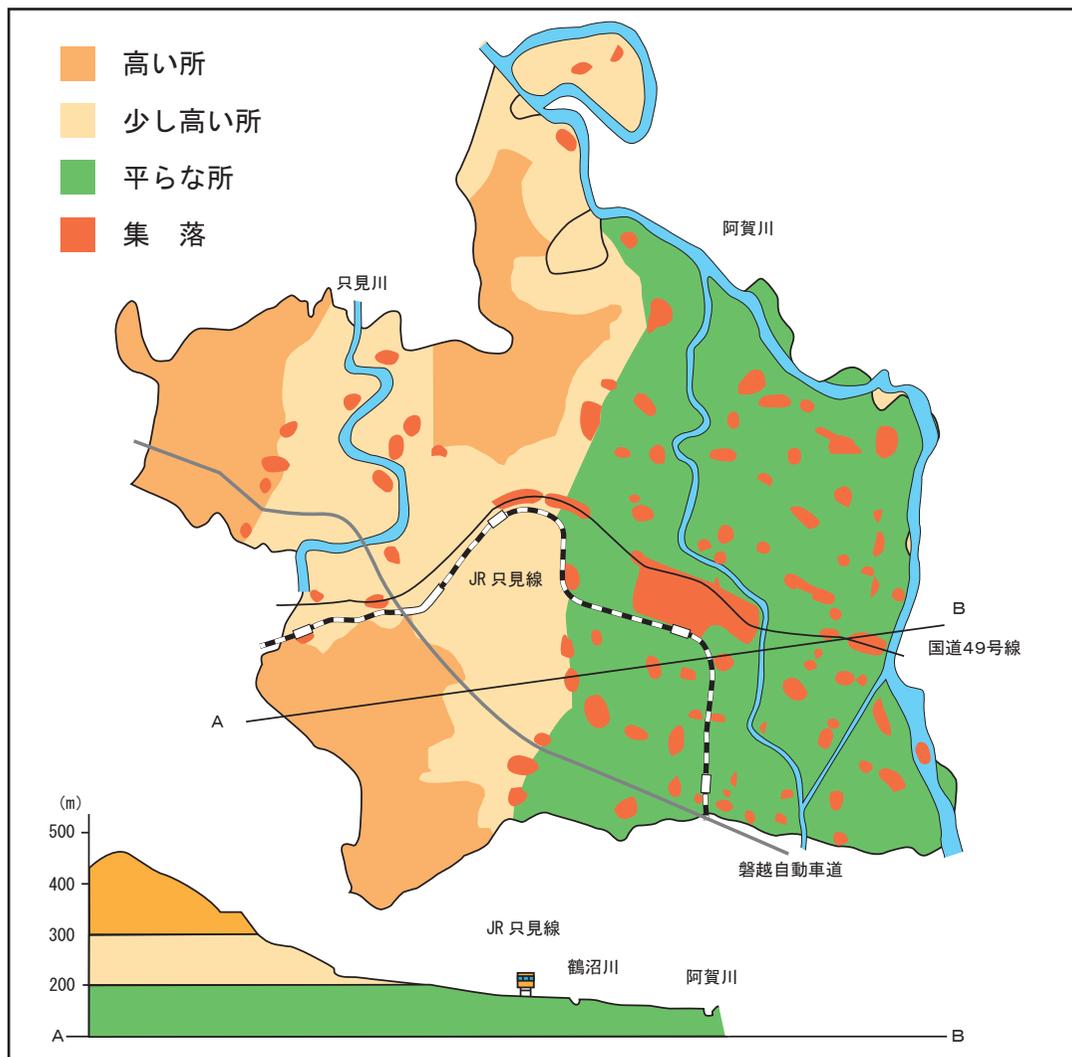
⑤緑の多いところ(町の西と北)

町の西や北には低い山々^{ひく}がつらなっています。八幡地区には山林を利用した「いこいの森」があります。また、川西地区・高寺地区では、4月に「高寺山山開き」がかいさいされます。



緑の多いところの様子

<会津坂下町の土地の様子>



土地の様子のちがいに合わせて、使われ方もちがっていることに気がつきましたか。

みなさんも、学校の近くから、どんなところがどのように使われているか調べてみましょう。

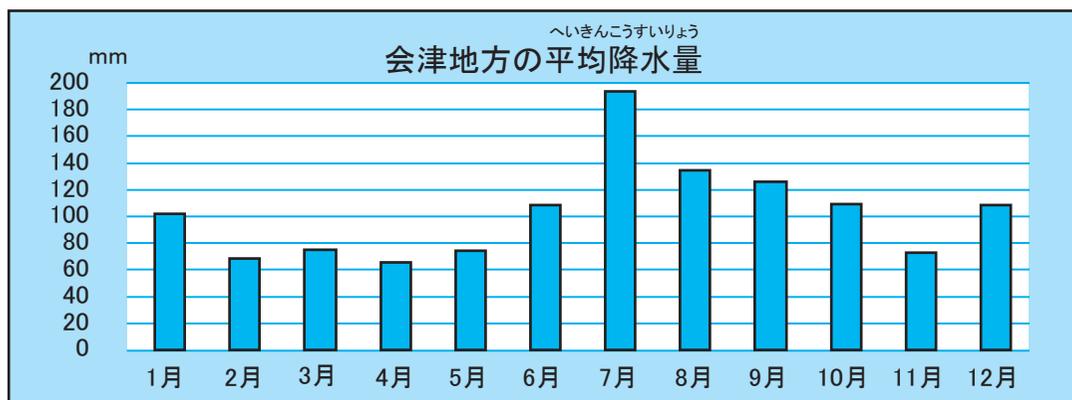
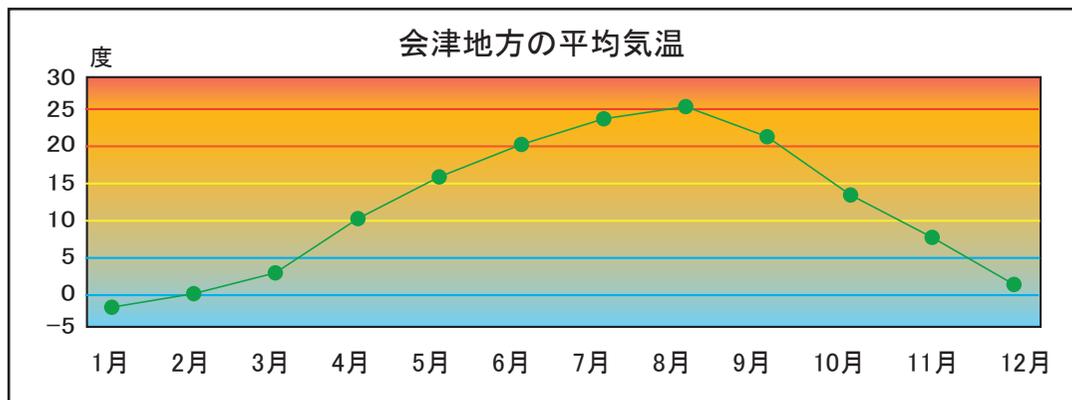
(3) 気候の様子

福島県でも、会津・中通り・浜通り地方では、気候がたいへんちがいます。

中通り地方は、日本海がわと太平洋がわの気候の中間の気候です。盆地では夏はむし暑く、冬は冷たい風がふき雪もふります。

浜通り地方は、太平洋がわの気候で、梅雨の時期と秋に雨が多く夏もそれほど気温が上がりにません。冬は県内で一番あたたかく雪もあまりふりません。

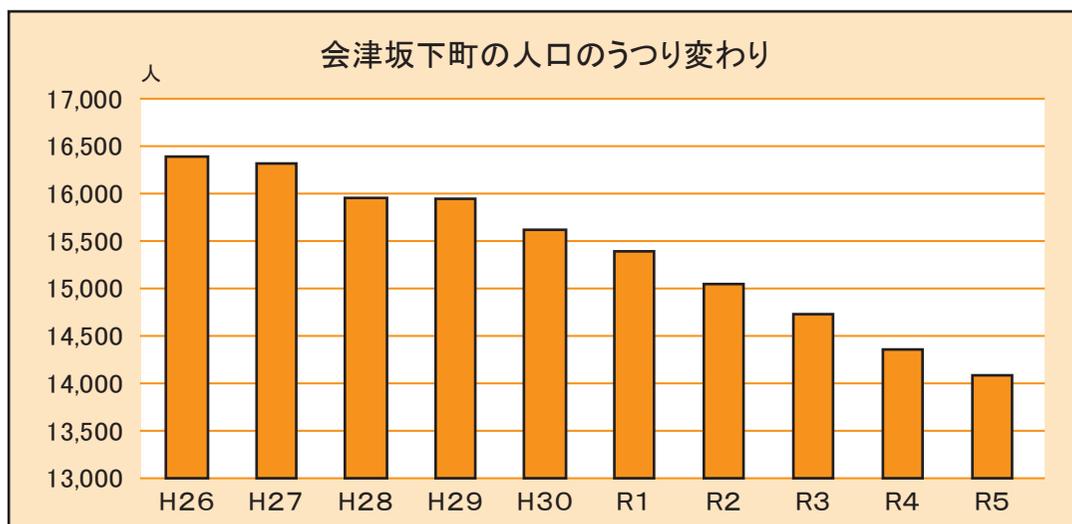
会津坂下町などの会津地方は、日本海がわの気候で、夏は山地ではすずしくなりますが盆地ではむし暑くなります。冬はたくさんの雪がふり気温も低くなります。



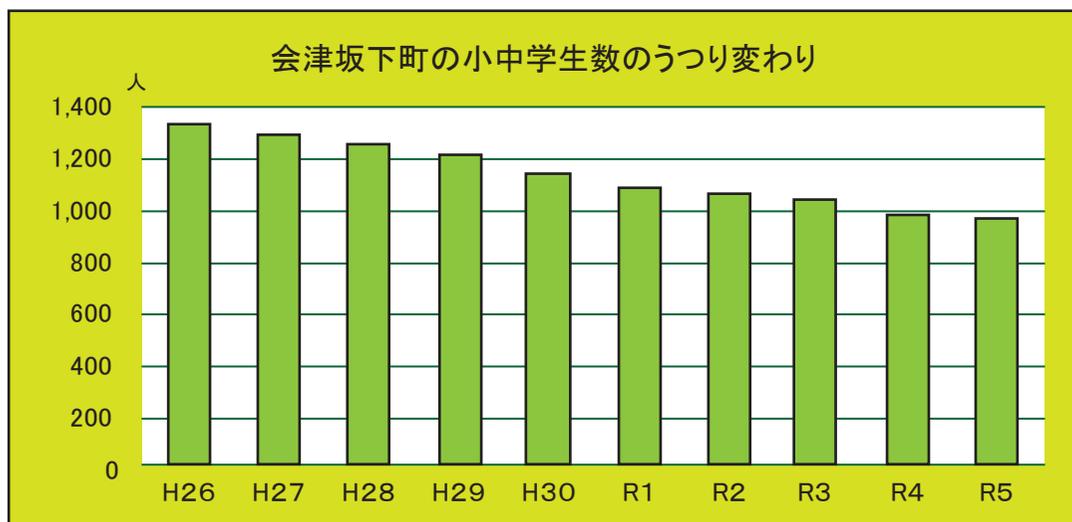
上・下ともに (若松測候所 過去 30 年の平均降水量・気温/令和 5 年度作成)

(4)人口のうつり^かわり

会津坂下町の人口は、1965（昭和40）年には23,694人でしたが、2020（令和2）年には15,068人となり、55年間で約3分の2にへっています。



(会津坂下町/令和5年度作成)



学校基本調査より

また、小中学生の数もへってきており、全体の人口が少なくなっていることとともに、若い人が少なくお年よりの多いという問題もでてきています。

3. 町の人々の仕事とくらし

○町の人たちの仕事

町を歩いているとおおぜいの人に出会います。

みなさんのお家の人たちと同じように、たくさんの人たちがいろいろな仕事をして働いています。会津坂下町にもたくさんの商店や会社、工場などがあります。

みんなどんな仕事をしているのでしょうか。

さあ、町に出て、出会った人たちの仕事についてインタビューをしたり、じっさいに買い物をしたりしてみましよう。



やさい
野菜売り場で働く人



お店のレジの様子



ふじんふく
スーパーの婦人服売り場



おかし屋さんの店内



米作りの仕事



ガソリンスタンドで働く人

町でいろいろな働く人たちに会いましたか。

では、働く人たちとわたしたちのくらしは、どんなところでつながっているのでしょうか。

じっさいに仕事をしているところに見学に行ってみましょう。

そして、働く人たちの様子について調べましょう。

見学するときの注意

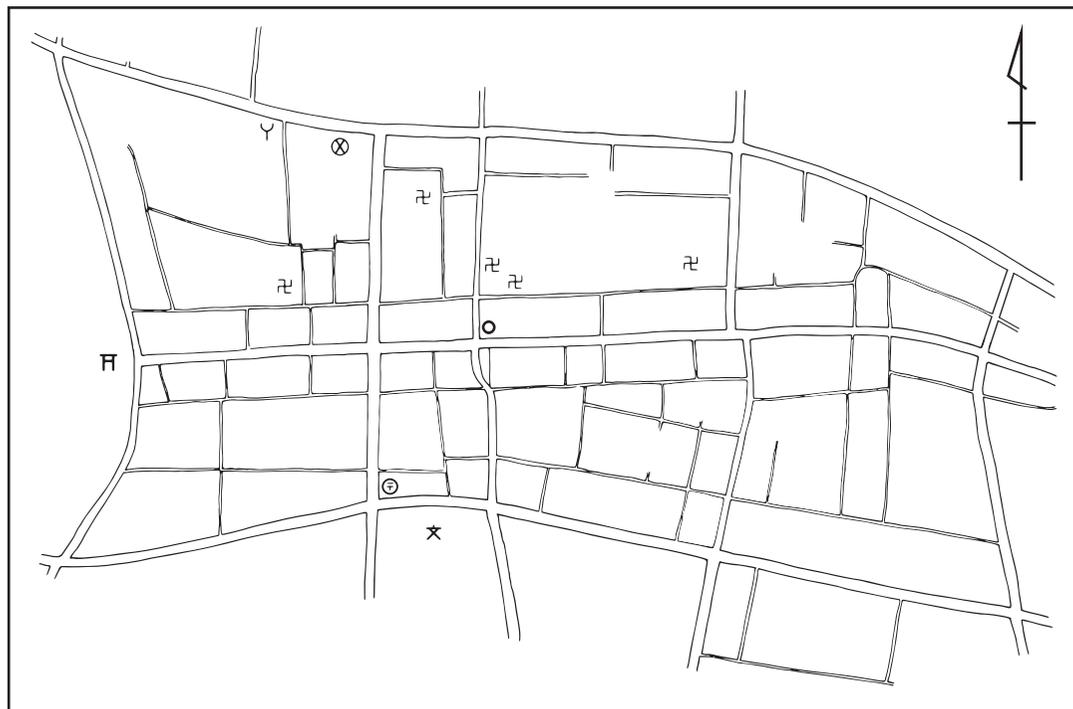
- あいさつを、しっかりとしましょう。
- お店や工場は、仕事をする場所です。
次の約束を守りましょう。
 - ・走り回ることはしません。
 - ・大声を出したり、さわいだりしません。
 - ・勝手に物にさわったり動かしたりしません。



(1) 商店の仕事

① 町にある商店

みんながよく買い物に行く店はどこかな。みんなで話し合っ^て白地図に印をつけてみましょう。



町にはいろいろな商店がありましたね。

その中でも、家の人に、よく行く店についてくわしく聞いてみましょう。

- 1、よく買い物に行くお店はどこのお店ですか。
- 2、なぜそのお店に行きますか。そのお店に行くわけを教えてください。

会津坂下町にはいろいろな種類しゅるいのお店があります。



さんじょ
近所の店



コンビニエンスストア



農家の人たちの直売所



いどうはんばい車

どの店もそれぞれ特色とくしよくがあって、わたしたちの暮らしをささえています。どんな店があって、どのように利用りようしているのか、お家の人に聞いたり、店に出かけたりして調べてみましょう。

また、お店の人は地元のお店をたくさんの方が利用するように協力きょうりよくしあっていろいろな工夫くふうをしています。どんな工夫があるか、お店の人に聞いてみましょう。



それぞれのお店の工夫しているところや便利べんりなところを話し合ってみましょう。

②スーパーマーケットに行こう

みなさんがよく行くスーパーマーケット。そこではたくさんの人が働いています。

どんな仕事をしている人がいるのでしょうか。

また、どのような工夫くふうをしていると思いますか。

みんなで話し合っ、見学けんがくの計画を立てましょう。

どんな仕事をしているのかな。



どんな工夫があるのかな。



スーパーマーケット

○スーパーマーケットのひみつを見つけよう！

見つけたことをメモしましょう。

(例)

発見メモ

たくさんの野菜やさいがきれいにならべられていました。産地さんちや食べ方も書いてあります。

くだものは、いろいろな大きさに切ったものが売られていました。

○お店の人にたしかめたいことは？

○お客さんに聞いてみたいことは？



たくさんの^{しなもの}品物がならんでいるね。



何をする場所なのかな。



品物をさがすのに便利だね。^{べんり}



何か作っているよ。



地元の^{やさい}野菜がならんでいるね。

○働く人にインタビュー

いろいろな仕事をしている人がいます。

働く人はどんな工夫をしているか、聞いてみましょう。



はたら **働くおじさんの話**

「安心・安全で、せん度のよい^{かかく}ものを安い価格で」をめざしています。みなさんのくらしを守り、^{てつだ}お手伝いをしていきたいという願^{ねが}いを持って仕事をしています。また、地元の農家やメーカーで作られたものを売ることも心がけ、地いきのみなさんといっしょに、くらしがよくなることを願ってがんばっています。



「品物の売れ具合や数をたしかめて注文しています。」



「お客さんが買い物をしやすいようにならべています。」



「えいせいに気をつけながら、必要ひつような分だけ買えるように切っています。」



「お客さんを待たせないように、まちがいのないように気をつけています。」



「コンピュータで品物の売れ具合を調べています。」

売り場の外でもたくさんの人が働いていました。それぞれちがう仕事をしながら、お客さんに来てもらうくふう工夫をしています。



○品物はどこから

たくさんの種類しゅるいの品物は、どこで作られているのでしょうか。もちろん会津坂下町で作られたものもありますが、そればかりではありません。

では、どこから会津坂下町に来ているのか、調べてみましょう。

○品物がどこから来ているか、わかるものをさがしてみましょう。

○品物がつくられる場所がどこにあるか、地図で調べてみましょう。



いろいろな所で作られていますね。

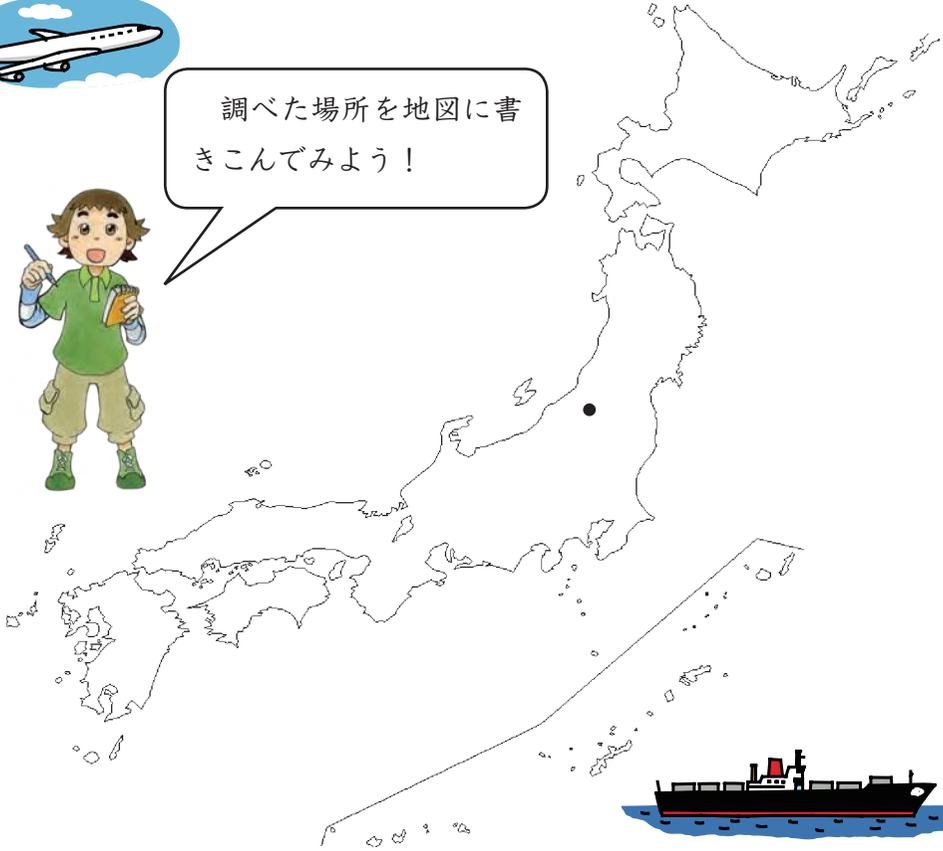
会津坂下町だけでなく、ほかの市や県などで作られているものがたくさんありますね。遠く外国から運ばれてくるものもありますね。



品物が運びこまれる様子



調べた場所を地図に書きこんでみよう！



○たくさんのお客さんが来るひみつ

見学をしている間にも、たくさんのお客さんがやってきます。たくさんのお客さんが来るひみつを調べてみましょう。

お客さんにインタビュー

- どこから来たのですか。
- どうやって来たのですか。
- このお店のお気に入りを教えてください。

インタビューした結果^{けっか}について話し合ひましょう。お客さんの願^{ねが}いと店の工夫^{くふう}がわかりそうですね。

お客さんは遠いところからでも車で買い物に来ています。ちゅう車場が広くてゆっくりと買い物ができたり、たくさん^{たくさん}のしゅるいの品物^{しゅるい}があって必要^{ひつよう}な物をまとめて買うことができたりと、便利^{べんり}だからです。また、地元で作られたものを売るコーナーがあったりして安心して買うことができることもよいところです。



③町の商店街の様子

しょうてんがい
スーパーマーケットの他にも、わたしたちはいろいろなお店を利用
しています。

どんなお店があって、どんな工夫くふうをしているのか調べてみましょ
う。

○商店街の工夫

たくさんのお店が
ならんでいるね。
どこにあるのかな？



酒屋さんの話



品質^{ひんしつ}のよいものを生かし、お客さんが求^{もと}めているものを考えて新しいものをてい案^{あん}していきたいと思っています。人とのつ

ながりを大切にして、作る人、売る人、買う人が、おたがいに満足^{まんぞく}できるようによい商品をあつかっていきたいと考えています。



やおや 八百屋さんの話



新せんな野菜^{やさい}、おいしくだものを選び、品質のよいものをできるだけ安くはん売したいと思っています。電話で注文を受

けたり、配達^{はいたつ}したりといったサービスも行っています。学校給食センターや病院などに品物をおさめたりもしています。

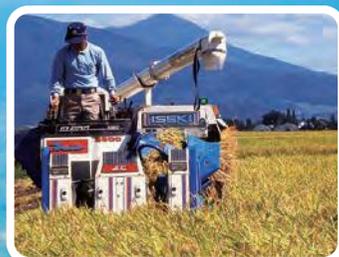


(2) 農家の仕事

会津坂下町には田や畑がたくさんあり、^{しほう}四方に広がっています。そこで働く人もおおぜいいます。



米を作る人（田植え）



米を作る人（いねかり）



きゅうりを作る人



花を育てる人



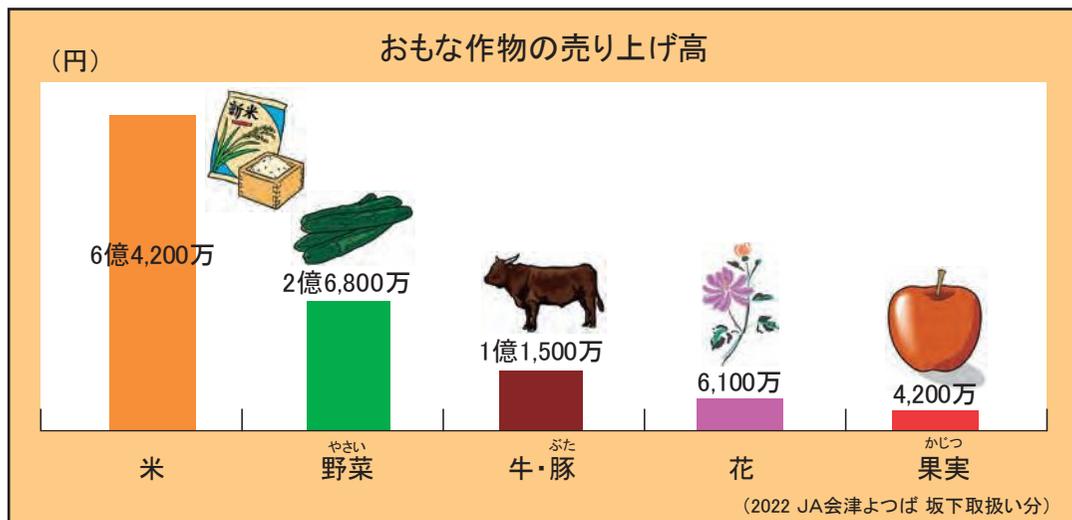
りんごを作る人



牛を育てる人

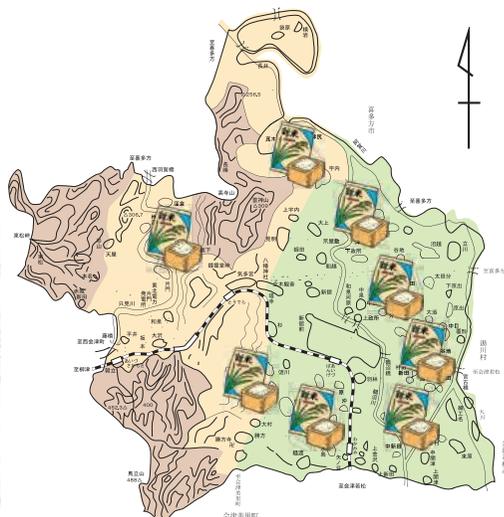
どのようなものが作られ、売られているのでしょうか。

何が多く作られているか、次のグラフを見て調べてみましょう。



この中で一番多く作られているものは米です。みなさんの家で作っている人もいるでしょう。

会津坂下町で米作りをしているところ



会津坂下町では、全ての地区で米を作っています。米作りがさかんですね。



①米作り

< 1年間の仕事 >

月	3月	4月	5月	6月	
米	種 ^{たね} もみを水にひたす ハウスのじゅんび	種まき たいひをまく くろつけ	田おこし しろかき なえを育てる	田植え 草かり 水の管理 ^{かんり} じよ草作業 ^{そうさぎょう}	草かり 中ぼし いねの生長 ^{せいちよう} を調べる

おいしいお米ができるまでは、たくさんの手間がかかっています。
どんな仕事をするのでしょうか。



くろつけ



田おこし



種もみ

種まき



しろかき



なえ

田植え



草かり

7月	8月	9月	10月
農薬をまく ・ 草かり ・ 生育調査	穂が出る 水をぬく 機械整備	稲かり、だっこく かんそう もみすり	来年へむけての準備



穂が出始める



間もなくいねかり



稲かり



もみすり

農家のおじさんの話



1年間かけて米作りのじゅんびをします。どんな種類の米をどのくらい作るかを決めて種もみを注文します。3月から仕事がいそがしくなります。なえは、ビニールハウスで大切に育てます。春は、気温が不安定なので、何度も様子を見てハウスの温度を調節します。

共同での米作り

農家のおじさんの話



年々、米を食べる人が少なくなっています。しかし、米を作るために必要なひりょうや機械の燃料などは値上がりしているの

で、もうけが少なくなっています。そのため、作業効率をあげるために「株式会社若宮ばくさく」という会社をせつ立しました。

1人で多くの機械を持つより、何人かで共有した方が費用がかかりません。田の面積もかく大しやすくなります。何よりも、多くの人といっしょに作業することはとても楽しいことです。

今までの農業は、農家の長男が後継ぎになり受けついできました。それでは発てん性がありません。これからは、農業をやりたい人がやる、そんなしくみが必要だと思います。それを「若宮ばくさく」で実せんしています。

米作りにかかる費用の例



会津坂下町には、「若宮ばくさく」以外にも共同作業を行っている地区があります。

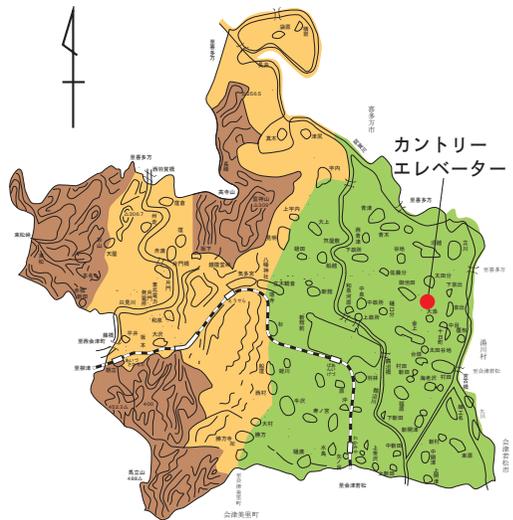


きょうどうさぎょう 共同作業

たとえば、農薬をそれぞれの農家が自分の田だけでまこうとすると、農薬をまく機械を全ての農家が持たなくてはいけないなど、効率がよくありません。ですから、共同で機械を持つほうがよいのです。

カントリーエレベーター

しゅうかくした米をかんそうしてほぞんするしせつです。広瀬地区にあります。地いきの農家が共同で利用・管理していて、カントリーエレベーターの中は、それぞれの農家で育て、しゅうかくされた米がいっしょになります。



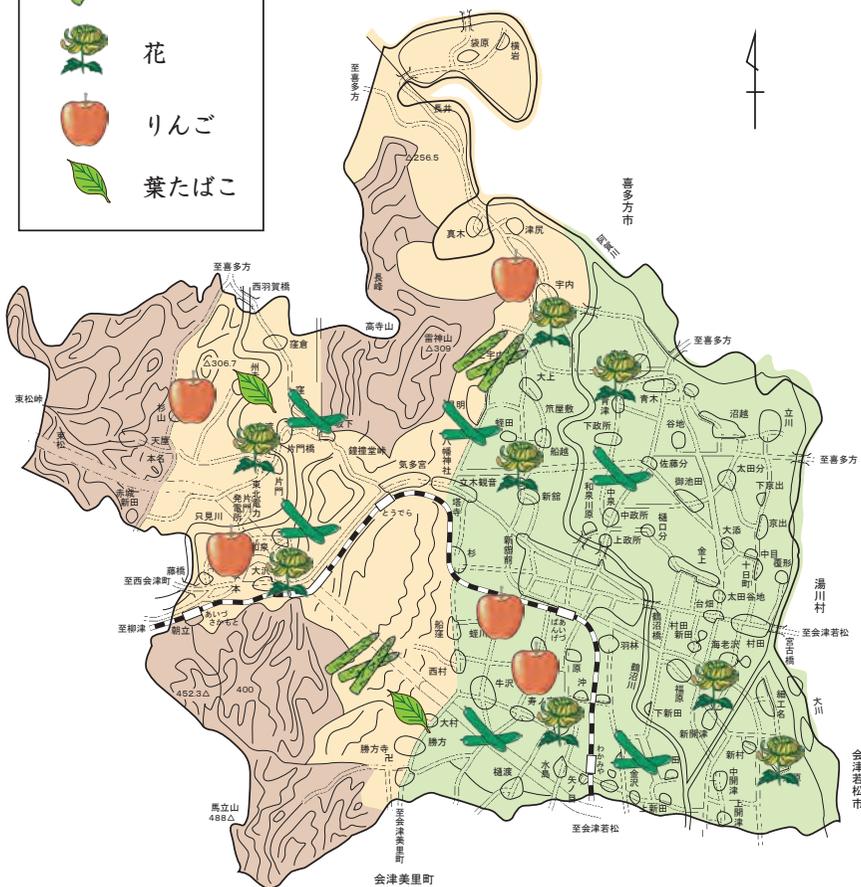
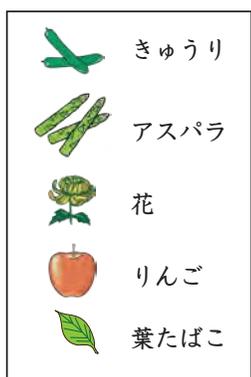
カントリーエレベーター



かり取ったもみを運び入れる

町で作っているおもな野菜 やさい

みなさんの家の近くでは、どのようなものが作られていますか。次の絵地図をみて調べましょう。

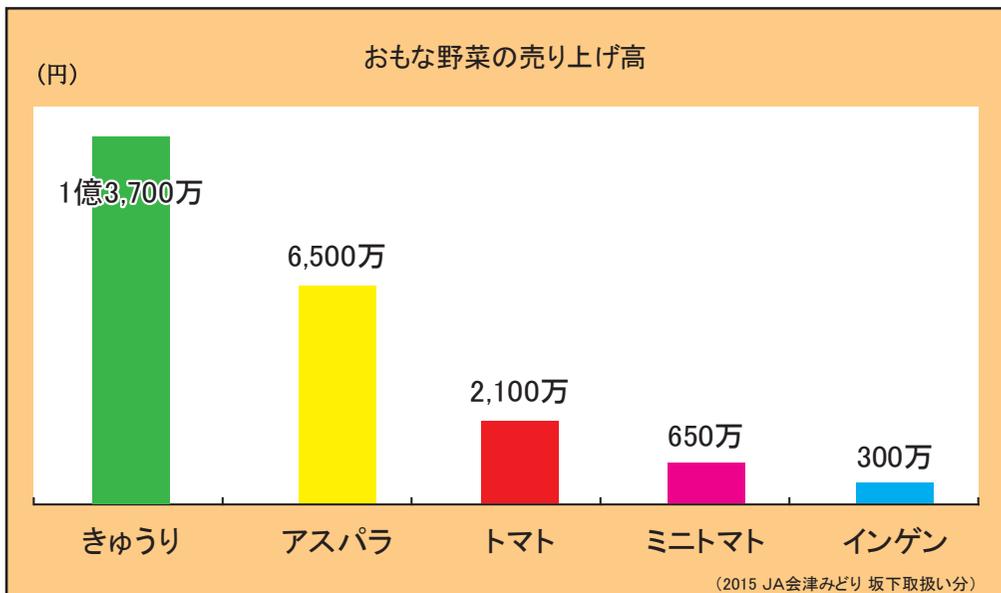


わたしたちの町では、野菜、くだもの、花などいろいろなしゅるいのものが作られています。

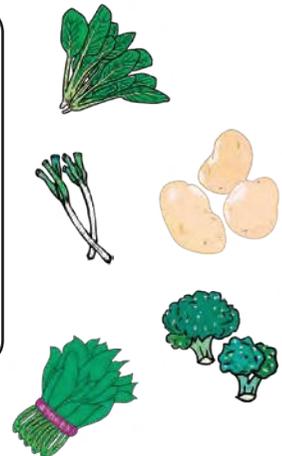
②野菜作り

下のグラフは、町で作られているおもな野菜の売り上げ高を表したものです。

グラフを見て気づいたことを話し合ってみましょう。

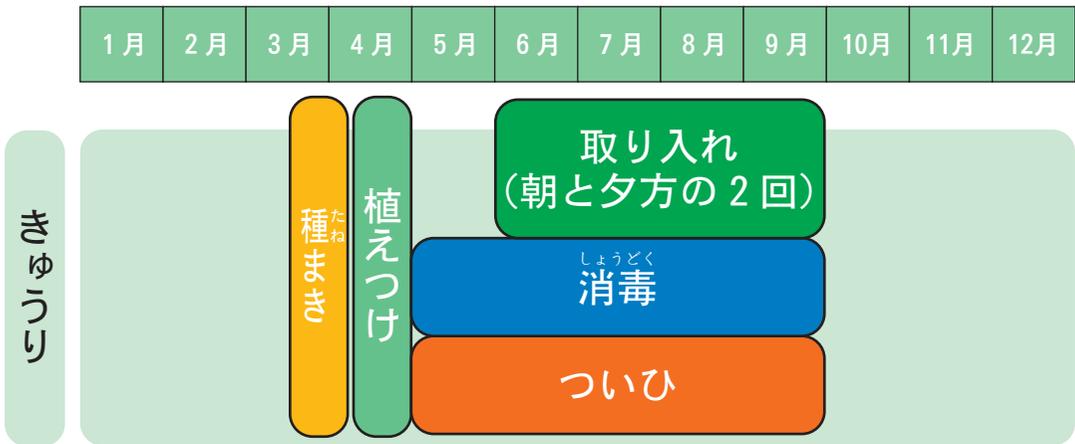


そのほかにも、会津坂下町では、ばれいしょ（ジャガイモ）、サヤエンドウ、グリーンピース、ねぎ、ほうれん草、こまつな、ブロッコリーなどが作られています。



きゅうり作り

<1年間の仕事>



農家のおじさんの話



きゅうりの品種ひんしゅにより作業が少しずつちがいますが、種苗メーカーしゅびょうのカタログさんこうを参考にして作業を進めています。

最近さいきんでは、きゅうりを見ただけで消毒をする時期、ついひの時期などが分かるようになってきました。しかし、分からないことも出てきます。その時には、いろいろな人に聞いてよりよいものを作るようにしています。きゅうりに使う農薬にも気をつけています。みんなに安心して食べてもらうためです。しゅうかく時期になると家をはなれることができません。

夏休みに出かけることもできません。家族きょうりょくの協力つづがあってこそ仕事を続けることができます。わたしたちが作ったものを食べてくれる人がいる、それが一番大切だと思っています。





はさみで取り入れ

きゅうりの取り入れは、1日に朝と夕方の2回行います。大きなはさみを使い、同じ長さのきゅうりを見つけて切り取ります。このはさみは20センチメートルぐらいあって、取り入れのめやすになります。

取り入れたきゅうりは箱にきれいにそろえて入れます。きずの様子や大きさに分けて箱に入れ、JA会津よつば坂下総合支店に運びます。



箱づめをする

運ばれたきゅうりは、けんさをしたあと、トラックに積みこんで東京、横浜方面に運びます。

<JA会津よつば坂下総合支店での様子>



きゅうりをJAに運ぶ



けんさをする



トラックに積みこむ



農家で作られたきゅうりはJAからどこへ運ばれるのかな？



会津坂下町での利用のされ方

会津坂下町で作られた野菜やくだもの、花などは町民の人たちにも買われています。

農家の人たちは、自分の作ったものを農産物直売所「うまかんべ」に持ちこむことで、多くの人たちに野菜などをていきょうしています。



農産物直売所「うまかんべ」



多くの人が利用している

お客さんの話



よく利用しています。新せんな物が安いねだ
んで売られているので助かります。無農薬で作
っているものもあるので安心して買うことがで
きます。夏のお盆ぼんのころには、欲しいものがすぐになくなってし
まうので、早い時間に来るようにしています。



新せんな野菜がならぶ



しゅんな物がならぶ

③花作り

会津坂下町で作られている花は、トルコキキョウやストック、カスミソウ、^{きく}菊などです。

<1年間の仕事>

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トルコキキョウ	①				種まき		定植		ピンチ	収穫			
	②			仕立て			収穫						
ストック	①	収穫											
	②												

シェード：光の通らないビニールシートをなえにかけて、夜の時間を長くすることによって開花をおそくすること。
 ピンチ：開花直前のつぼみを全部切り取ってわきのえだから花をさかせること。
 仕立て：数本出たえだを整理して1本にすること。
 ※冬の間もハウスをつかってさいばいしています。一年中花づくりの仕事をしているのです。



シェード



ピンチ



仕立て

農家のおじさんの話



花作りは1年間休みなしの仕事です。田植えやいねかりの時期はいそがしくて大変です。同じ日に種をまいてもしゅうかく時期がかさならないように工夫をしています。花は1本1本ちがいます。人間と同じです。理想の形や色にはなかなか育ってくれません。失敗してやめたいと思う時もありますが、自分の理想に工夫や努力で少しずつ近づいていくところは、やりがいのある仕事です。

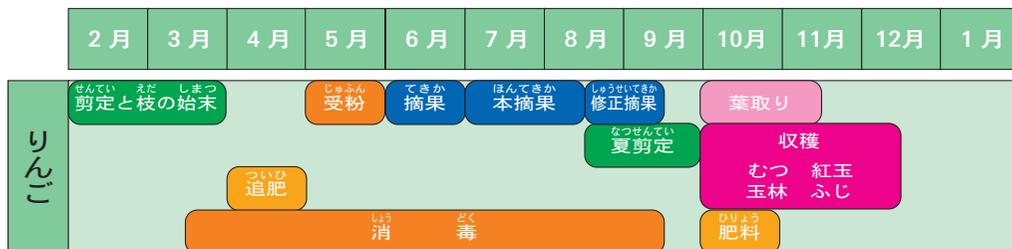
④くだもの作り

会津坂下町では、くだものもたくさん作られています。その中でも一番多く作られているのは、りんごです。



<1年間の仕事>

りんごの木



てきか
摘果：実がつきすぎた時によぶんなものを小さいうちにつみ取ること。
せんてい
剪定：生育や実りをよくするために木のえだの一部を切り取ること。

農家のおばさんの話



わたしのりんごの木は、45年も生きています。5月に花がさくころミツバチを使って^{じゅふん}受粉をします。1つの花に5こ実がついた中からよいものを1こだけ残し、その後は、1700この中から500こくらいに^{ほんてきか}本摘果します。^{がいちゅう}害虫や病気にならないように1年に15回の^{しょうどく}消毒もします。10月中ごろになるとりんごに太陽の光がたくさん当たるように実のまわりの葉をとるのですが、1枚ずつ取るのでとても大変です。しかし、それが買ってくださるみんなに喜んでもらえるおいしいりんごになるのです。

雪がふった後は、よいえだを^{のこ}残す^{せんてい}剪定をして次の年に備えています。おいしいりんごと言ってもらえるようがんばっています。



⑤ 畜産の仕事

会津坂下町には、牛やにわとりなどを育てる仕事をしている人もいます。

<1年間の仕事>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
牛	20ヶ月ずつ牛の出荷、導入（牛の入れかえ）											
	朝、夕方に餌やり（一年中休みなし）											
	月に1～2回敷料交換、堆肥作り、牛舎消毒											
	堆肥散布						わら集め					

堆肥散布：牛舎から出た堆肥を田や畑へまくこと。

わら集め：いねかり後のいなわらを集め、一年間の飼料にする。

農家のおじさんの話



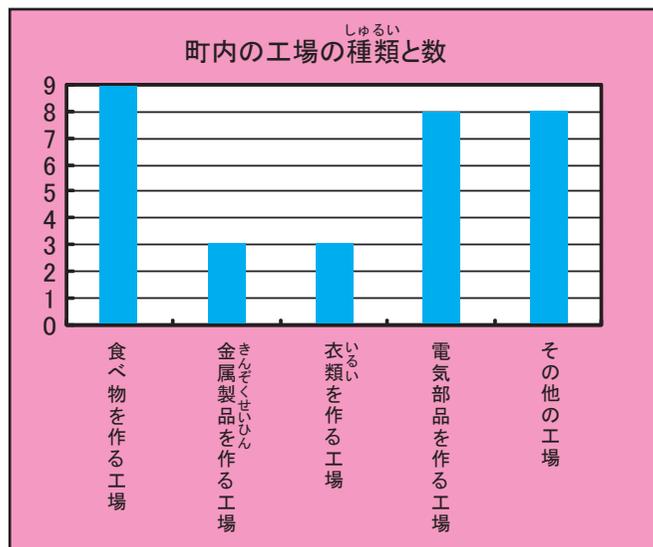
生後約9ヶ月の子牛を導入して、約20ヶ月肥育します。肥育期間中の牛は、毎日70リットルの水を飲み、約12キログラムのえさを食べます。えさは、トウモロコシや麦などの穀類を中心とした濃厚飼料といねわらです。毎日の仕事は、えさやりのほかに、敷料の交かんや病気になった時のちりょうなどです。特に、一年間のえさとなるいねかり後のわら集めは大変です。肥育が終わるころは体重が800キログラムにもなり、おもに関東方面へ出荷し、肉屋や飲食店へいきます。

牛舎から出る堆肥は、田畑に有機質肥料として利用されています。命を預かる仕事なので人にせつする時と同じように、愛情を持って育てています。



(3) 工場の仕事

会津坂下町には、たくさんの工場があります。



(会津坂下町／平成 27 年度作成)

お酒を作っている工場を知っているよ！



家の近くに電気の部品を作る工場があるわ。



たくさんの機械がなっているわ。何を作っているのかな？いろいろ調べてみたいわ。



(写真提供：(株)彌満和製作所会津工場 やまわせいさくじょ)

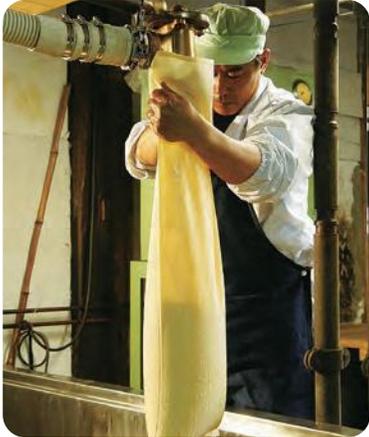
身近な工場をたずねて、いろいろ調べてみましょう。

- * 工場で作っているものとなかの様子。
- * 働く人の様子。 はたら
- * 原料は、どこからくるか。 げんりょう
- * せい品は、どこに行くのか。





きかい
医りょう機械の工場（茶屋町）



しゅぞう かみちょう
酒造工場（上町）



こうぎょうだんち さかもと
工業団地にある工場（坂本）

工場見学をする前に

- たくさんの機械や道具がある工場内を見学するときに、気をつけることはどんなことでしょう。
- みんなで約束ごとを決めましょう。
- はたらく人から聞くことをたしかめましょう。

工場見学のポイント

- あいさつを必ずしましょう。
- 話は、最後までしっかり聞きましょう。
- 聞いたことは、必ずメモしましょう。
- 終わったら、お礼をしっかり言いましょう。

学習が終わったら、
お礼の手紙などもわすれずに！



①牛乳工場の見学

町にある牛乳工場の様子を調べてみよう。

牛乳工場見学の計画を立てましょう。

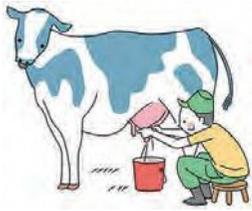
わたしたちの給食に、牛乳はかせません。みんなが大好きな牛乳は、どのようにしてつくられるのか、調べてみましょう。



工場見学の計画

- 原料の牛乳は、どこからくるのか。
- 工場の中は、どうなっているのか。
- 働いている人はどのくらいいるのか。
- できたせい品は、どこに出荷されるか。

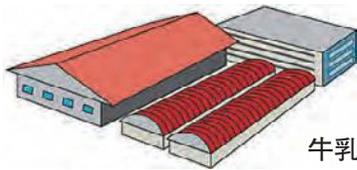
牛乳ができるまで



しほる



集める (集乳)



牛乳工場

- | | |
|-------------|------------|
| 1、受け入れ検査 | 4、殺きん・冷やす |
| ↓ | ↓ |
| 2、冷やす・たくわえる | 5、パック・びんづめ |
| ↓ | ↓ |
| 3、均質化 | 6、検査 |
| ↓ | |



出荷



工場の人のお話



牛乳は、いつもしんせんな原料げんりょうを使うようにしています。

その日しぼった牛乳は、すぐ冷たく冷やして工場かこうに運び、加工するようにしています。

よりおいしく、品質ひんしつのよいせい品せいひんにするために、中温殺きんちゅうおんさつという方法ほうほうで作っているものもあります。

食べ物をあつかっているので、わたしたちはえい生面せいめんに一番気をつけています。

※中温殺きん（85度で15分間殺きんする方法。ふつうの牛乳は、超高温殺きんちようこうおんさつという120度で2秒間加熱かねつする方法をとっている。）



わたしたちが安心して飲めるように、ほかにはどんなところに注意しているのかしら？



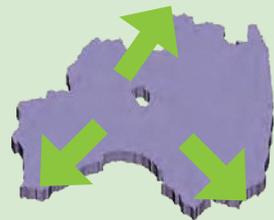
みなさんにおいしく飲んでもらうために、いろいろと努力どりよくしています。牛乳だけでなく、いろいろな乳せい品にゅうせいひんもよろこんで食べてもらえるように、工夫くふうしています。

おかげで、県内だけでなく、全国

各地にも出荷しています。



最近さいきんでは、地元の酒屋さんと協力きょうりよくして新しい商品も開発しています。



②日本酒づくりの工場見学

町にある^{しゅぞう}酒造工場の仕事の様子を調べてみよう。

町内には、酒造工場が^{げんざい}現在3けんあります。

会津坂下町や会津地方でお酒づくりがさかんなのは、どうしてなんだろう？



酒造工場



町内には、^{あががわ}阿賀川と^{ただみがわ}只見川が流れていて、昔から水しげんにめぐまれています。また、このゆたかな水を利用して、米作りがさかんに行われてきました。



空から見た会津坂下町

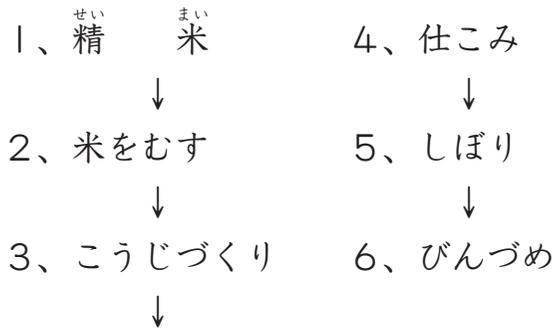
米どころ会津坂下町は、広い平らな土地に水田が一面に広がっています。





さかばやし
酒林

日本酒ができるまで



仕こみの様子



しぼり



びんづめ

工場の人のお話

よい酒づくりに必要なものは、

- よい水
- よい米
- 杜とうじ氏とよばれるすぐれた職しよくにん人さん

と言われます。会津坂下町にはこれらがそろっています。

できたお酒はひょうばんがよく、福島県内だけでなく、全国各地に出荷しています。

また、国内外の鑑かん評会びようかい（コンクール）で、数多くの入賞にゆうしょうをしています。



(4)わたしたちのくらしを守る



消火活動



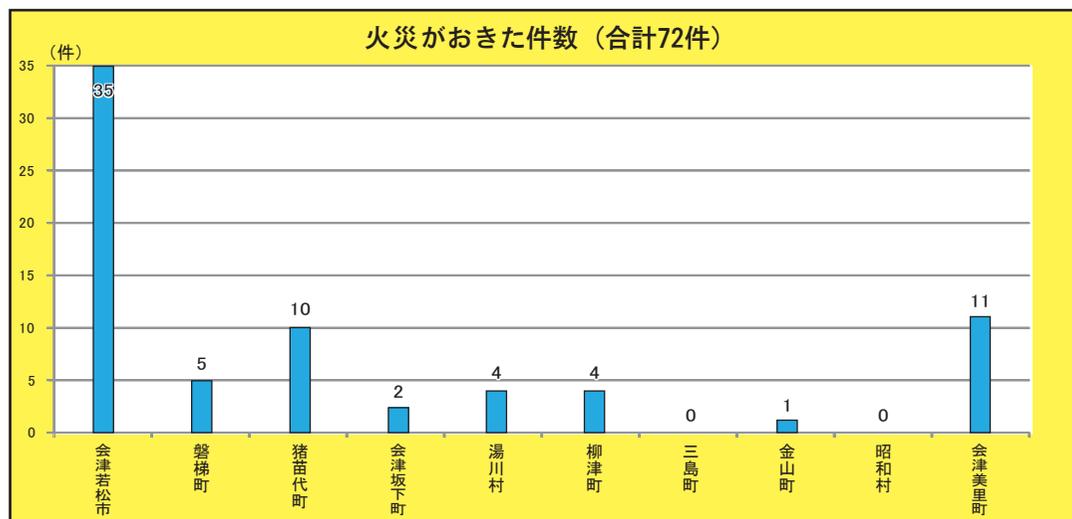
じこしょり
事故処理

①火事がおきたら

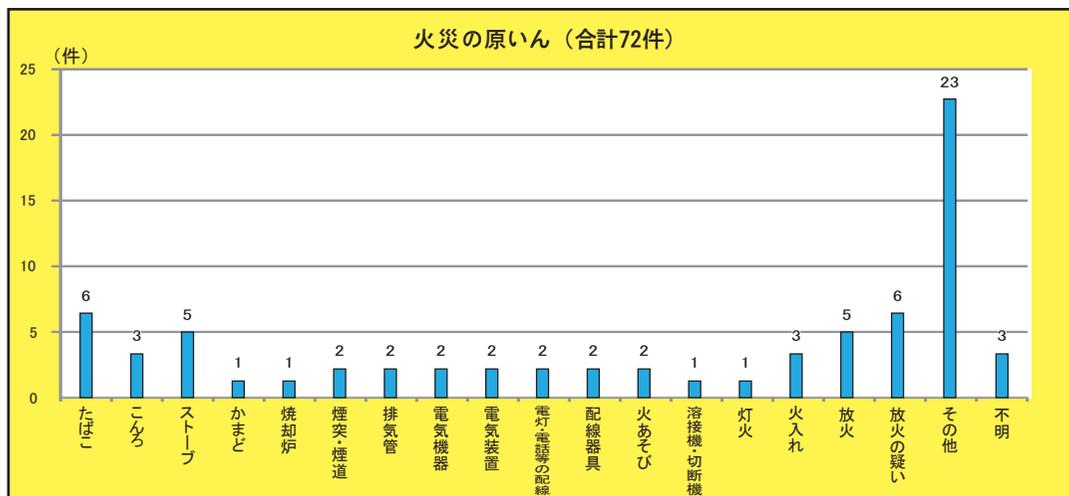
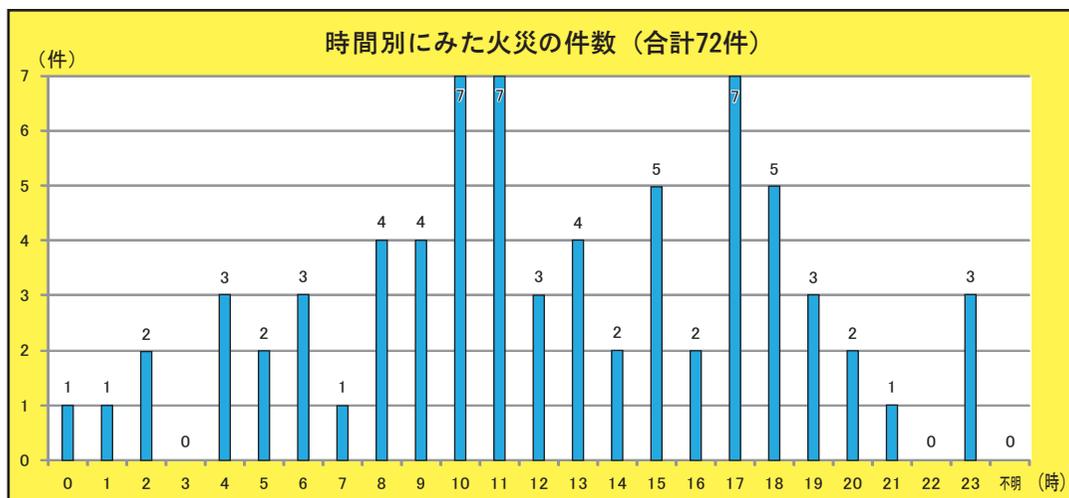
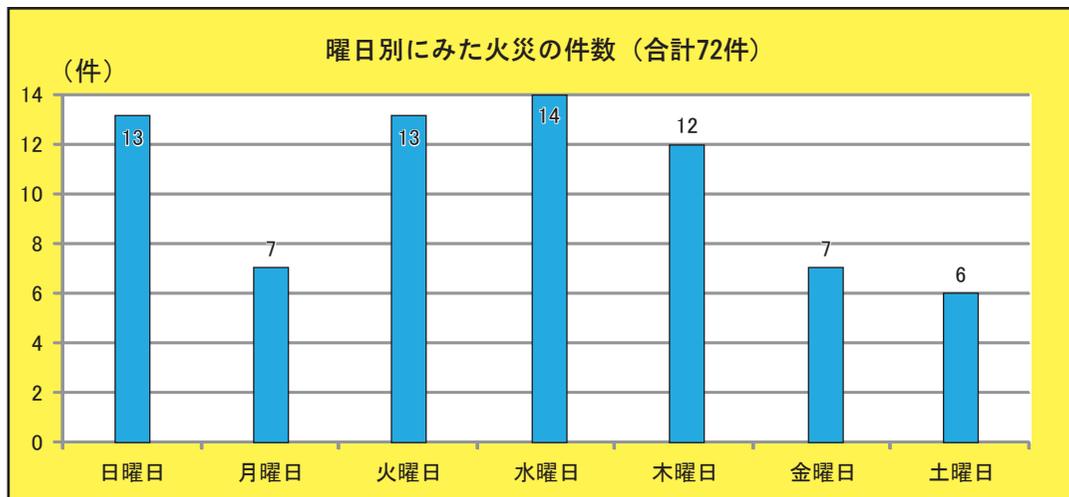
火事は、わたしたちの大切な^{せいめい}生命や^{ざいさん}財産を一しゅんのうちにうばい
とってしまいます。こんなにおそろしい火事をふせぐために、会津坂
下町ではどのようなことが行われているのでしょうか。また、わたし
たちはどのようなことに心がければよいのでしょうか。

こわい火事

次の4つのグラフは、令和4年中に[※]あいづわかまつちほうこういさしちょうそんけん
会津若松地方広域市町村圏で
おきた火事の件数や原いんをあらわしています。気づいたことを話し
合ってみましょう。 ※会津若松市を中心としてまわりの町村が合わさった地いき。



(会津若松地方広域市町村消防年報より)



全て（会津坂下消防署資料）

火事を消したり、火事がおこらないようにしたりするのが消防署や消防団の人たちです。

消防署では

会津坂下町をふくめた1市7町2村に消防署や分署、出張所がおかれています。これは、いつでもどんな場所でもすぐに火を消せるようにしておく必要があるからです。また、その中心となる消防本部は会津若松市にあります。



消防本部通信指令センター

消防本部から会津坂下消防署へ



会津若松地方広域市町村圏整備組合会津坂下消防署



仮眠室

119番通報は消防本部へ

会津坂下消防署内のようす



火事の現場をたしかめる事務室



出動時の消防服

くんれん
<訓練の様子>

訓練は、少しでも早く

火を消したり、人を助けたりするためにとても大切です。

しょうぼうしょ
 消防署の人たちはどんな訓練
 をしているのかな。



消火訓練



きゅうめい
 救命訓練



きゅうきゅうしやない
 救急車内での訓練

<火事がおきたら>



おちついて119番
 をしましょう。

119

- 電気
- ガス
- 水道
- 警察署
- 役場
- 消防団

の
 関
 連
 係
 す
 る
 と
 こ
 ろ
 へ

消防本部
 (会津若松市)

出動指令

**会津坂下消防署
 など、近くの消防署**

119番通報メモ

1 火事ですか・救急ですか?

火事です・救急です

2 住所

市・区・町・村 町 丁目 番号

建物(ビル)の名称・階数・店名は…

3 何が燃えていますか (出火箇所はどこですか?)

4 目標となるもの

近くにある目標となるものは…

5 通報者の氏名

あなたの氏名…

6 通報者の電話番号

電話番号

この公衆電話の番号は…

()

< 消火のための協力 >

けん いき ず
圏 域 図



あいづばんげしょうぼうしよ 会津坂下消防署の人のお話



会津坂下消防署では、28人が交たいしながら24時間体制で働いています。いつ通報が入るかわからないので、消防署から外出することができません。ポンプ車や救急車は毎日点検し、いつでも出動できるように準備しています。消火する時に不便なことはないかなどたしかめたり、消火や人を助ける訓練を毎日行っています。

わたしたちの仕事はきけんなことも多くありますが、みなさんの安全を守りたいという強い気持ちをもって毎日仕事をしています。

- ・各家庭では一人一人、いつも防火に心がけてください。
- ・火あそびや外でたき火などはしないでください。

この2つのことを守り、火事をおこさないようにしましょう。

火事にそなえて

<消防団>

じゅうみん

住民の安全を守るために会津坂下町では次のようなくみになっています。本部は役場にあり、団員は500人です。

ぼくのお父さんも消防団員だよ。
どんな仕事をしているのかな？



しょうぼうとんしょ
消防屯所

- だんちよう ふくだんちよう
団長 — 副団長(2人)
- 第1分団(坂下地区)
 - 第2分団(若宮地区)
 - 第3分団(金上地区)
 - 第4分団(広瀬地区)
 - 第5分団(川西地区)
 - 第6分団(八幡地区)
 - 第7分団(高寺地区)
 - …(ラッパ隊)~団員と兼務
 - 女性班
 - (各分団から2人ずつ)

かく 各集落には消防屯所があり、消火活動に必要な機械器具が置いてあります。

団長さんのお話



消防団のおもな活動は、消火、防火の呼びかけ、消火訓練、夜の見回り、機械器具の手入れ、そうさく活動です。団員はみんな別の仕事を持っていますが、住民の生命や財産を守るために活動しています。一人一人が火事を起こさないように心がけてほしいものです。

しょうぼうだん

消防団では次のような活動をしています



きかいきぐてんけん
機械器具点検



ポンプの点検



けんえつしき
検閲式 (4月)



検閲式 (10月)



でそ
出初め式 (1月)



ぼうか
防火訓練

〈消防せつび〉

早く消火するために必要なものです。会津坂下町の消防せつびです。



しょうかせん
消火栓



防火水そう

②雪害をふせぐ

雪国では雪による災害さいがいがあります。会津坂下町では、どのように雪害をふせているのでしょうか。

大雪の時、道路の雪はどうしているのかな？



1. 消雪道路

道路の中央から地下水が流れ出るように工夫されています。地下水を道路に流すことで、雪をとかして雪による交通障害しょうがいをふせています。

2. 防雪さく

吹雪で雪が道路をうめつくさないように、道路わきには、「防雪さく」とよばれるさくを11月下旬げじゅんに組み立てます。3月になるとさくをもとにもどします。

このさくがあることで、吹雪による雪害をふせています。

3. 除雪車による除雪

道路に雪が積もったままだと車が雪に乗り上げたり道はばがせまくなったりして交通事故げんいんの原因になってしまいます。

人や車が安全に通行できるように、除雪車を使って早朝から除雪作業をします。

4. 歩道の除雪

たくさん雪が積もると歩道が歩けなくなるのできけんです。歩道の除雪は小型こがたの除雪車を使います。除雪は早朝に行いますが、雪がふりきけんときはいつでも行います。機械きかいに近づくと、とてもきけんなので近づかないようにしましょう。



消雪道路



防雪さく



除雪車による除雪



ロータリー除雪車による除雪

③こう水をふせぐ

会津坂下町は阿賀川^{あががわ}をはじめ多くの川があります。河川^{かせん}のそばの土地が低い地いきでは、大雨のたびにこう水にみまわれてきました。会津坂下町ではどのようにこう水をふせいでいるのでしょうか。

<こう水のひ害>

大雨がふってこう水になると川から道路や家に水が流れ出してしん水します。また、田や畑^{さくもつ}の作物がとれなくなったり橋がこわれ道路が通行できなくなったりすることもあります。



ゆかうえ
床上までしん水した家

<こう水のひ害を防ぐために>

1. 河床掘削^{かしょうくっさく}と川の修ぜん工事^{しゅう}

大雨がふっても川の水が流れるように川の底^{そこ}を掘^ほって川を深くして水位を下げる工夫

こう水のひ害をふせぐにはどんなことをしているのかな。



をしています。川の形が曲がっていると流れにくく、また、川の流れる力^{たいがん}で対岸をけずってしまいます。

そこで、川の流れをまっすぐに直して、土手^{どて}をコンクリートで固め^{かた}る工事もしています。

2. 堤防^{ていぼう}をきずく

大雨が降った時に川の水があふれ出ないように堤防をきずきます。堤防でかべを作って水が道路や家にあふれてこないようにふせいでいます。



低い家を守る堤防



川の水をふせぐ堤防

3. 土のうを作る

大雨で水があふれそうな時には土のうを作っ^とてこう水をふせぎます。土のうを積み上げる^{ていぼう}ことで堤防^{やくめ}のような役目をします。



スコップ6〜7は^おいの土を入れる^おと、ふくろの約7〜8割^おになります。その重さは、およそ30〜50キログラムです。

4. 情報を提供^{じょうほう ていきょう}してひなんの指示^{しじ}を出す

大雨でこう水になり^{まちやくば}そうな時は町役場で住民^{じゅうみん}に川の水位^{すい}の情報を提供^{じょうほう}して、きけん^{ていきょう}などときにはひなんの指示^{しじ}を出します。命を守るために、各地区^{かく}の消防団員^{しょうぼうだんいん}が家を回^かってひなん所^{あんない}へひなんする手伝い^{てん}をしています。



お年より^{あんない}をひなん所へ案内

5. 排水ポンプ車^{はいすい}で水をくみ上げる

出水^{しゅつすい}時には、排水ポンプ車^{はいすい}を使って、排水^{はいすい}します。また、夜でも活動^{かつどう}できるように照明車^{しょうめいしゃ}も活やくします。



排水ポンプ車で水を排水する



作業を照らす照明車

こう水の^{がい}ひ害から命や生活を守るために、会津坂下町ではさまざまな工夫^{くわ}をしているのです。

④ 事件や事故がおきたら 会津坂下警察署の仕事

会津坂下警察署は、会津坂下町に警察署があり、会津坂下町のほか、3つの町（柳津町、三島町、金山町）と2つの村（湯川村、昭和村）にあわせて7つの駐在所があります。

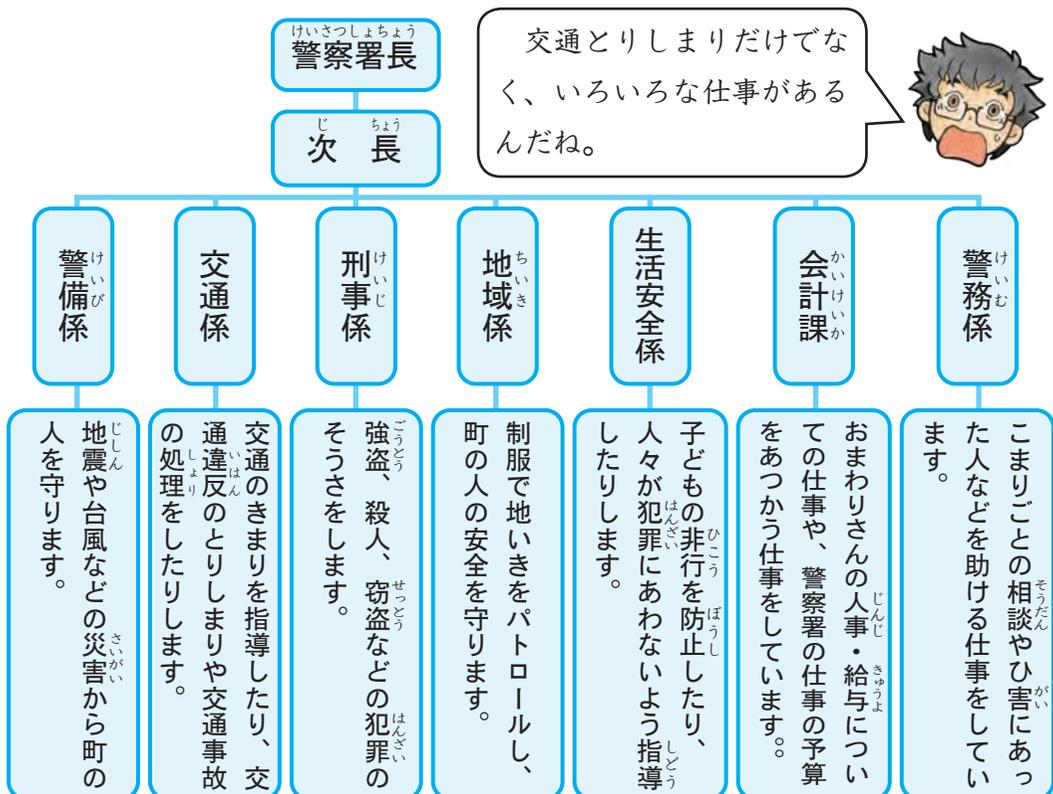
警察署管内のあわせて約2万5,000人の安全を守るために24時間体制で働いています。



会津坂下警察署

警察署にきんむするおまわりさんは、次のような係にわかれて仕事をしています。

会津坂下警察署の組織と各係の役割





いろいろな係にわかれて仕事をしています。



お年よりの方々の交通安全教室を開いています。

あいづばんげけいさつしよ

会津坂下警察署のおまわりさんのお話



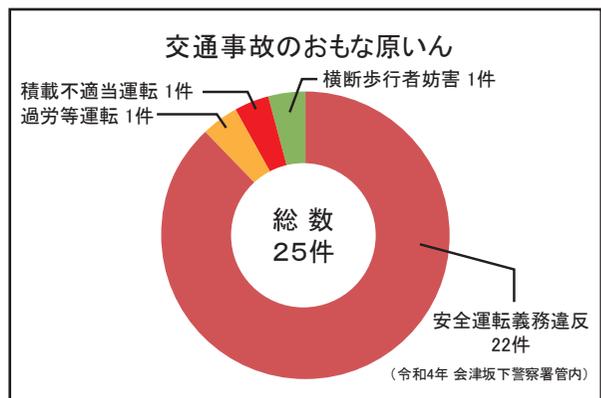
会津坂下警察署が受け持つ4町2村は、お年よりが多く、およそ42パーセントが65さい以上の高れい者の方です。そういった方々が、事件や事故にあわないようにパトロールをすることも、わたしたちの大切な仕事です。お家をほうもんして様子うかがったり、お年よりを対象にした交通安全教室を開いて、事故がおきないようによびかけたりしています。小さな子どもからお年よりまで、みんなが安心してくらせる町、それがわたしたちの願いです。

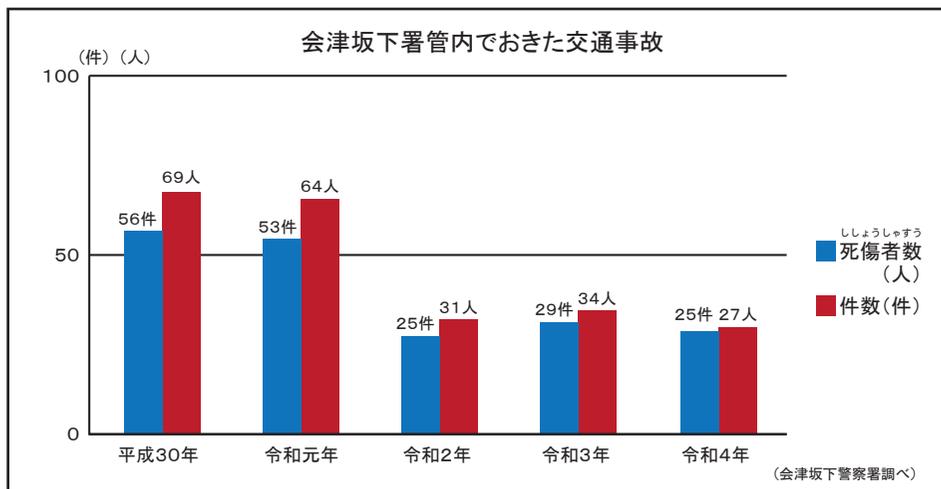
交通事故からくらしを守る

会津坂下町でも毎年たくさんの交通事故が起きています。



交通事故のげん場





交通事故から人々のくらしを守るために、おまわりさんは、どんな仕事をしているのでしょうか。

事故をふせぐ

交通係では、事故をふせぐためにいろいろな活動を行っています。学校や地いきでの交通安全教室、交通いはんの取りしまり、街頭でのよびかけなどは大切な仕事です。



交通いはんの取りしまり



お年よりの交通安全こう習



街頭指導



学校での交通安全教室



シートベルト着用や安全運転のよびかけ

これらの活動は警察の人たちだけではなく、さまざまな人たちと協力して行われています。町には、交通事故から人々のくらしを守るために、警察署のほか、次のような組織が作られています。

- 会津坂下地区交通安全協会
- 会津坂下地区安全運転管理者協会
- 会津坂下地区安全運転管理事業主会
- 両沼地方交通安全対策推進協議会
- 会津坂下地区交通安全指導隊
- 会津方部交通連絡協議会

こんなにたくさんの人たちが、交通事故をふせぐ仕事をしてくれているんだね。



わたしたちも交通のきまりをきちんと守り、正しい歩き方、正しい自転車の乗り方をしっかり身につけ、ヘルメットを着用して事故にあわないようにしなければなりません。

交通係のおまわりさんのお話



会津坂下町は、国道49号線や高速道路が通り、交通量の多い町です。また、見通しの悪い峠道も多く、冬になると雪がふったり路面がこおったりしてすべりやすくなり、事故がおこりやすくなります。わたしたち交通係は、毎日変わる交通量や道路のしょうたいにも注意して、みなさんの安全を願いながら、パトロールをしています。

じけん じこ
事件や事故がおきたら

事件や事故がおきたら、1秒でも早く現場にかけつけられるように、無線むせんを使って連らくします。



スリップによる事故

110番

110番通報つうほうは、全て、福島市にある「福島県警察本部通信指令室つうしんしれいしつ」につながります。



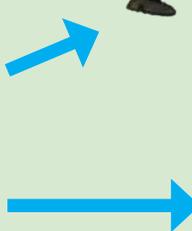
福島県警察本部通信指令室



あわてずに、
落ち着いて話し
てください。



あいづばんげけいしつしょ
会津坂下警察署



くらしの安全をまもるために

事故や事件をふせぐために、町にはいろいろなひょうしきやしせつがあります。みなさんも町に出て調べてみましょう。



道路ひょうしき



道路案内



道路ひょうしき



電光式のひょうしき



カーブミラー



二輪車用押ボタン



ぼうはんれんらくしょ
防犯連絡所



けいさつかんたちよりしょ
警察官立寄所

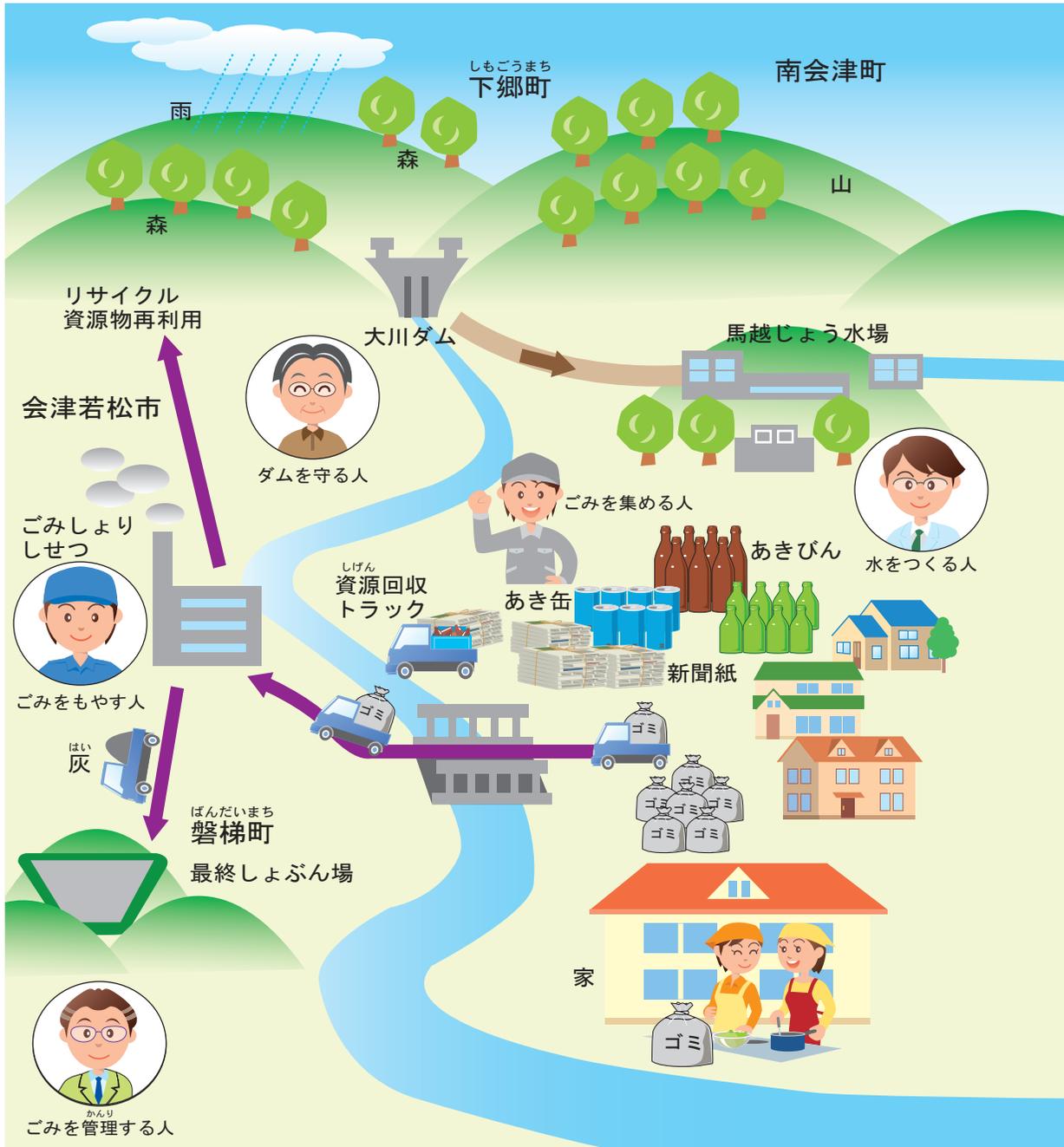
このほかにもたくさんあります。
見つけたものの写真やスケッチをしましょう。

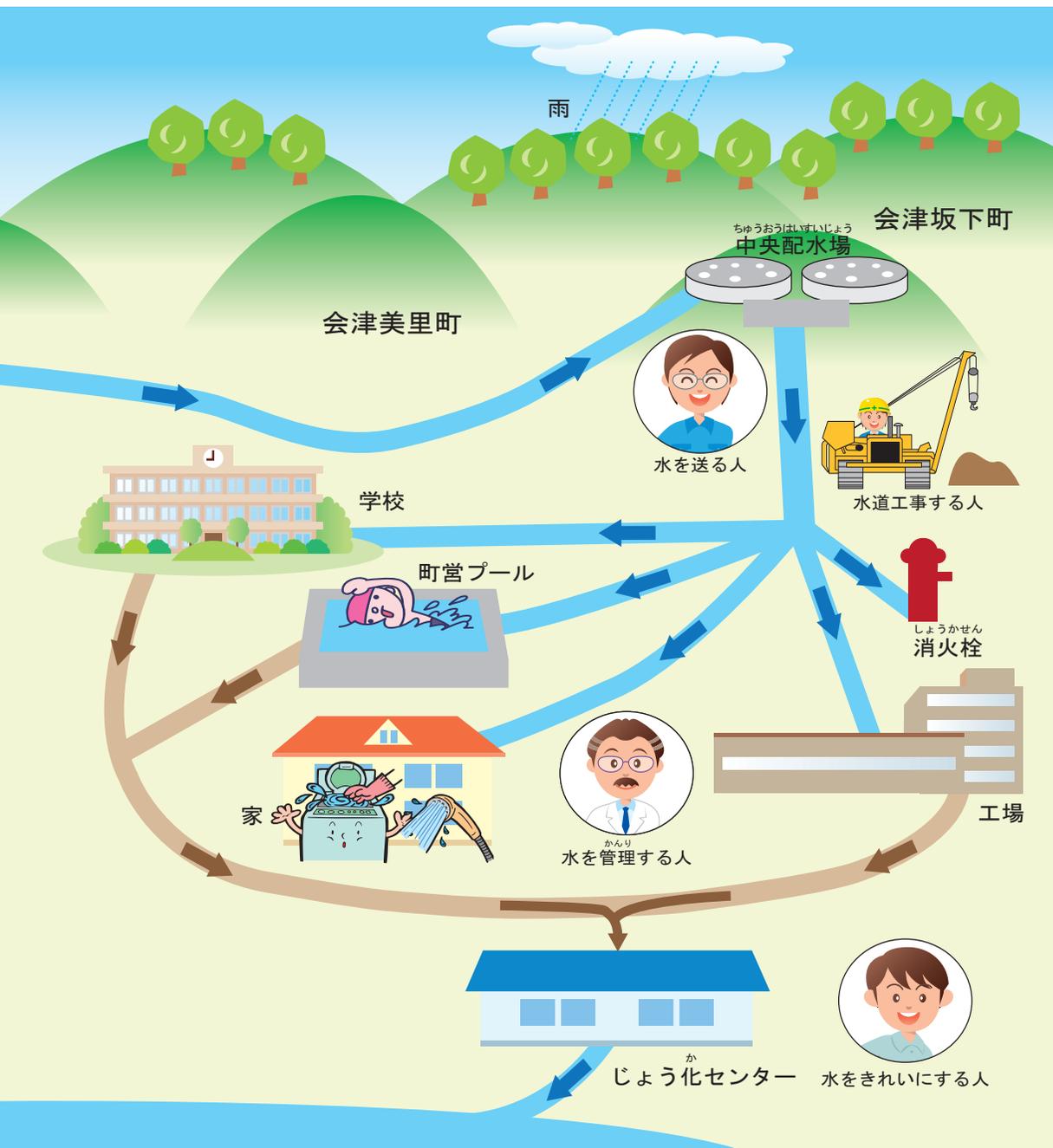


A large, empty rectangular area with a double-line orange border, intended for drawing or writing.

4. 住みよいくらしをつくる

○ごみと水について考えよう





(1) 上水道と下水道

① 上水道

地下水が飲み水として使いにくかったため、わたしたちの町の水道は

わたしたちが生活するうえで、水はなくてはならないものです。上水道とは、わたしたちが生活に使うための水の通り道のことで、ふつうは水道とよんでいます。



今から約100年前に、県内では郡山市・いわき市について3番目にできました。

わたしたちが使う水は、どこから送られてくるのかな？



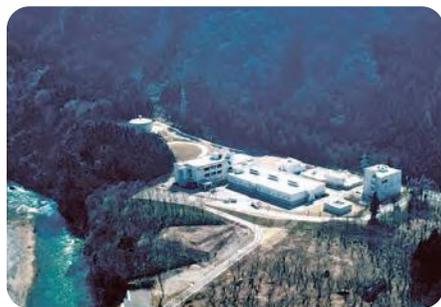
みなみあいづ
南会津の山々にふった
雨は、おおかわ
大川ダムにためら

れあいづみさと
会津美里町にあるまこし
馬越じょう水場で
きれいにされます。

きれいになった水は地面の下にうめられた太い水道管すいどうかんを通して、会津坂下町に送られます。町では計画的けいかくてきに水道を広げる努力どりよくを続け、今では、ほとんどの地区に水道がひかれるようになりました。



大川ダム



馬越じょう水場

じょう水場のおじさんのお話



いつでも安心して水がのめるように、昼も夜も夏も冬も、24時間交代しながら水を作り続けています。ですから、川にごみなどをすてたり、川の水をよごしたりしないでほしいと思っています。

馬越^{まこし}じょう水場^{すいじょう}で作られた水は、
 若宮^{わかみや}地区の中央配水場^{ちゅうおうはいすいじょう}におくられます。
 ここは、役場のある所より約70メートル高く、その高さを利用して工場や家庭へ水を送り出します。

中央配水場



塔寺^{とうてら}ポンプ場



気多宮^{けたのみや}配水池



八幡^{やはた}地区の一部

高寺^{たかてら}配水池



高寺地区

中村減圧場
いきおいを弱くするしせつ



坂下地区と、若宮、広瀬、川西地区の一部

金上地区と若宮、
広瀬、川西地区の一部

町役場の建設課^{けんせつか}の上下水道班^{じょうげすいどうはん}の人々は、中央配水場にためられた水が安全で、かくじつに町の人々に送られるよういろいろな仕事をしています。

いつでも安心して水が飲めるように中央配水場などのしせつ^{てんけん}を点検、しゅう理をしたり、水が



けんさをしているところ

よごれていないかばいきんなどはないかなどのけんさや消毒しょうどくもしています。

水はお金をかけて作られ守られています。そのため、使った分だけお金をはらわなければなりません。水の使用量しょうりょうを計算しお金を集める仕事もあります。

また、町の水道管すいどうかんは全部で約160キロメートルあり、水道管の中には古くなって水もれをおこすものもあるので、計画的けいかくてきに交かんする仕事もしています。



水道管を交かんしているところ

②下水道

下水や雨水あまみずがそのまま川に流れると、こう水になったり、川がよごれ魚などがすめなくなったり、人間の病気げんいんの原因にもなったりします。

町では次の5つのことを目標もくひょうに考え、下水道をととのえていこうとしています。

1. 生活かんきょうをよくする

トイレが水洗化されるだけでなく、汚水おすいをすぐにきれいにするため、せいけつでよい生活ができるようにします。

下水とは、トイレやお風呂や台所など家庭生活上で使い終わって出されたよごれた水や、工場から出されるよごれた水、雨水などです。下水道とは、これらの水の通り道ということになります。



2. しん水^がひ害^{がい}をふせぐ

雨水をすぐに流して家に水が入るのをふせぎ、私たちの生命やざい^{さん}産を守ります。



3. 川・湖・沼^{ぬま}や海^{すいしつ}の水質をたもつ

川や海^{はい}のよごれのもとになる生活排水などをきれいにします。



4. 下水道^{ゆうこうりょう}しげんおよびせつの有効利用

下水道がもっているしげん（しよりした水やどろなど）をいかして使うことを考えています。



5. 水をくりかえし使うサイクルをつくる

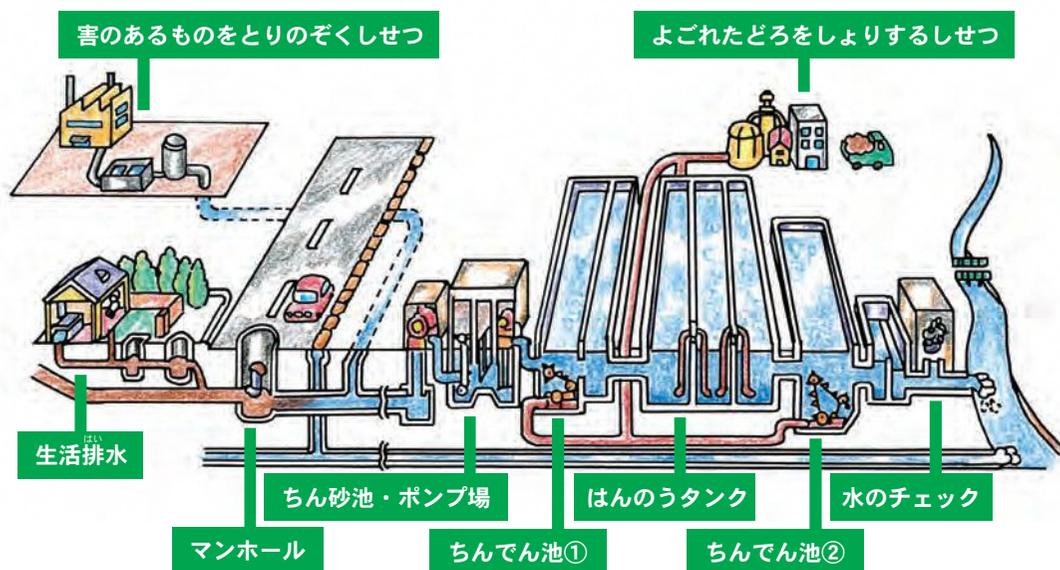
排水^{はい}を集めてきれいにしよりして流したり、しより水^{すいせん}を水洗^{りょう}トイレに利用するなど、水をくりかえし使っていくようなサイクルをつくることができるようにします。



じょう化センター ～下水をきれいにするしくみ～

家庭や工場からの排水^{はい}は、下水道を^{はい}通ってじょう化センターへと送られ、川に流しても安心できる水になるまできれいにします。

また、町では「合併^{がっぺい}処理^{しよ}浄化^{じょうか}槽^{そう}」という、家庭で下水をしよりできるせつ^{きん}びをつけるためほじよ金を出したりしています。



水をきれいにするしくみ

- ① ちん^さ池・ポンプ場
よごれた水をゆるやかに流し、大きなゴミや砂^{すな}を取りのぞき、ポンプでちんでん池に送ります。
- ② ちんでん^ち池①
しずみやすいよごれを取りのぞきます。
- ③ はんのうタンク
び生物をふくんだどろに空気を送り、よごれを分かいます。
- ④ ちんでん池②
しずみやすくなったよごれをもう一度しずめて、きれいな水と分けます。あまったどろは、しよりするしせつに送られます。
- ⑤ 水のチェック
川に流す前に、水^{すい}しつをけんさします。

(2)ごみのしよりと再利用^{さいりょう}

①ごみを集める

わたしたちが生活していく中で、たくさんのごみが出てきます。紙などのもえるごみ、^{きんぞく}金属やガラスなどのもえないごみ、ほかにも、生ごみやプラスチックなど、ごみの^{しゅるい}種類はさまざまです。

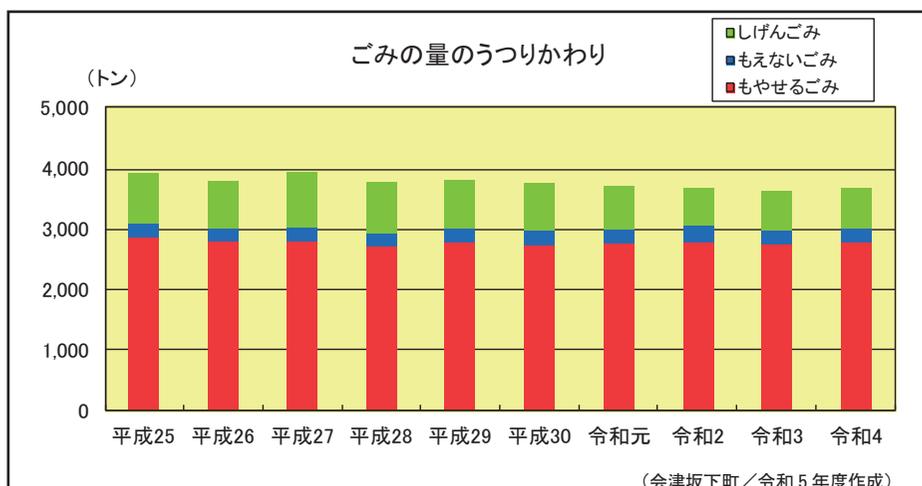
たくさん出てくるごみは、家庭ではしよりにすることができません。そこで、町ではきまった曜日に、ごみをしゅう集車で集めています。町の人たちは朝8時00分までに、ごみの分け方のルールにそって、ごみステーションなどの決められた場所に出すようになっていきます。



ごみステーション



ごみしゅう集の様子



②ごみをもやす

集められたごみは、^{あいづわかまつ こうざしまち}会津若松市神指町にある会津若松地方広域市町^{あいづわかまつちほうこういきしちょう}村圏整備組合のごみしよりしせつに運ばれます。もえるごみは、このしせつでもやされます。しせつの人^{はたら}は、8時間ずつ3交代で働き、^{しょう}焼きゃくろでは、休みなくごみがもやされています。

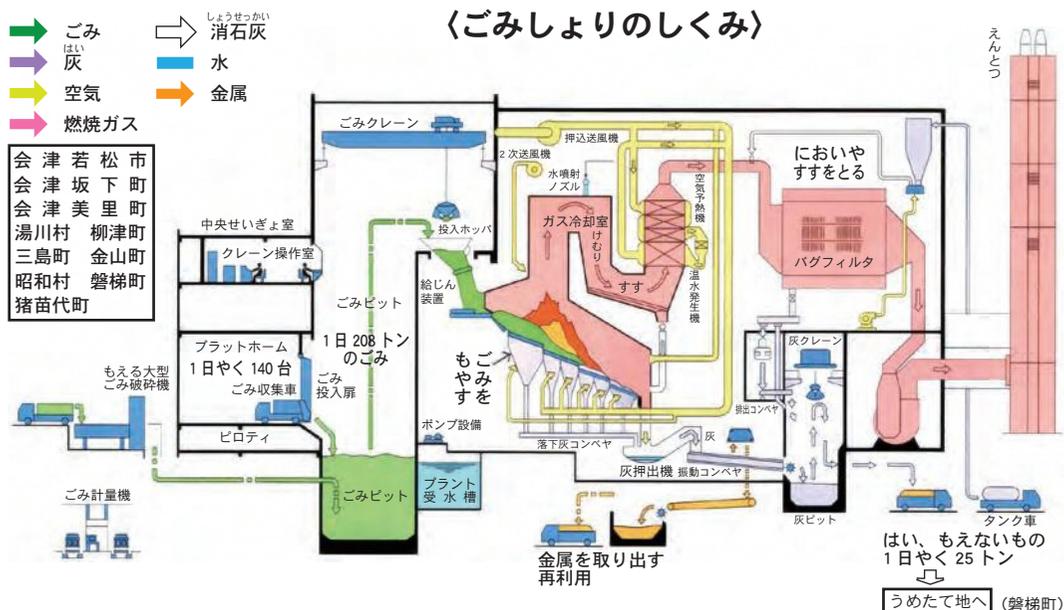
ここでは1日に、ごみしゅう集車 100 台以上のごみをしよりすることができ、いやなにおいやよごれたけむりを外に出さないようなせつびがとどのえられています。



ごみしよりしせつ



ごみをピットに投入している車

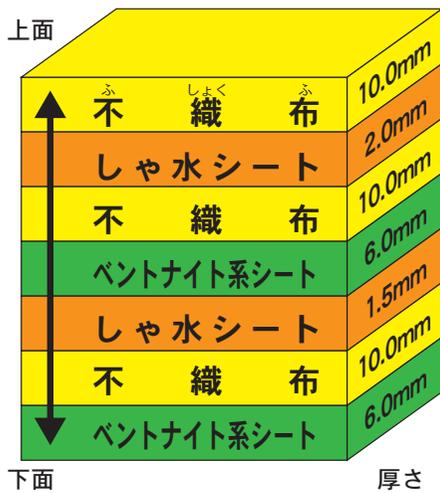


③最終しょぶん場(磐梯町)

ごみしよりしせつでは、われたガラスや使えなくなったガラスや陶器などのもえないごみは機械きかいでくたいて、もえるごみの灰はいといっしょに磐梯町の最終しょぶん場に運ばれうめ立てられます。

最終しょぶん場は、住宅地じゅうたくちからはなれた山を切りくずしてつくられました。観光地かんこうちでもある磐梯町ばんだいの自然しぜんを守るために最新技術さいしんぎじゆつを使って安全管理あんぜんかんりをしています。

しょぶん場のうめ立て地では、はい液えきがもれないようにし、はい液は集められてきれいな水にしてから外に流しています。



はい液をもらさないしくみ

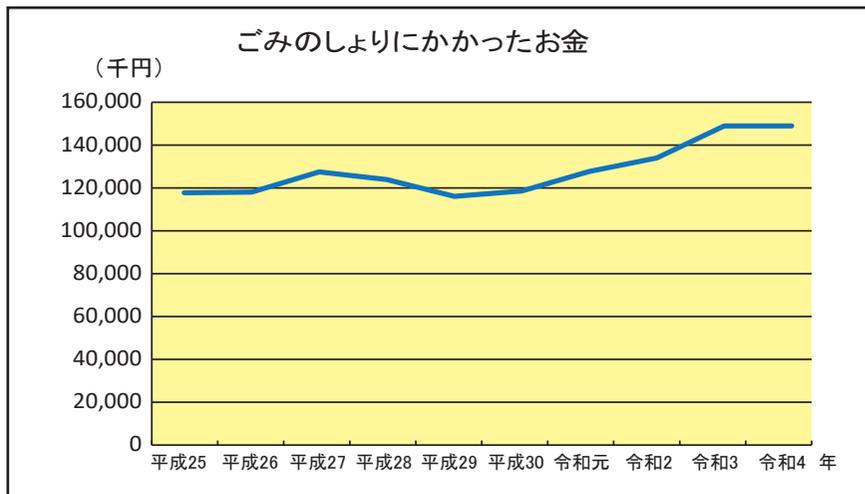


最終しょぶん場



うめ立ての様子

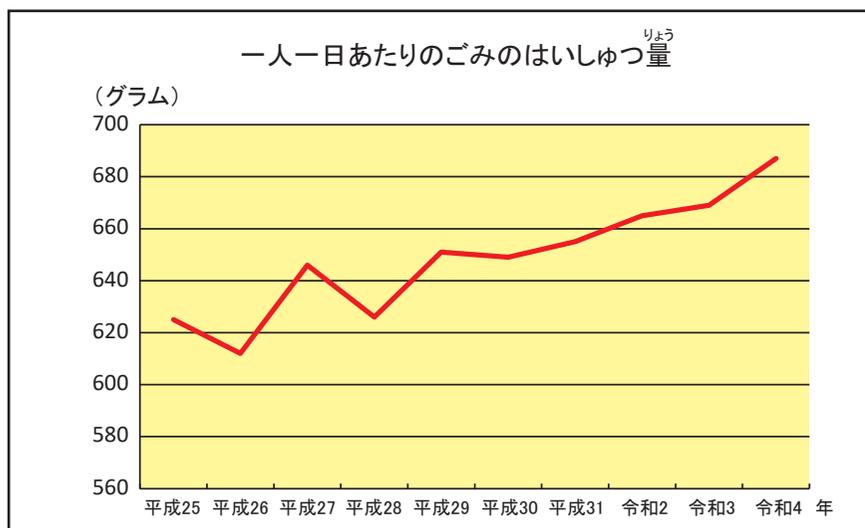
④生まれかわるごみ



(会津坂下町/令和5年度作成)



ごみのしよりにかかったお金は、グラフを見ると少しずつふえてきています。そのわけはなぜでしょうか。



(会津坂下町/令和5年度作成)

上のグラフは、一人一日あたりのごみのはいしゅつ量のグラフです。ここからどんなことがわかるでしょう。



ごみのしよりにはお金がかかります。会津坂下町では、平成7年度からごみの分別しゅう集ぶんべつをはじめました。生ごみをひりょうかに変えるような容器ようきやせつびを持ちたい人にほじょ金を出したり、平成19年度からは、有料ゆうりょうのごみぶくろを指定したりして「ごみをへらし」「リサイクルする」ことをよびかけてきました。

しかし、前の2つのグラフでわかるように、ごみしよりにかかるお金や、ごみの量はふえていて、へらす取り組みがひつようです。ごみは分けられてしげんとして生まれかわりリサイクルされています。



かいしゅうされたペットボトル



つぶして整理されたペットボトル

しげんごみは、どのようにしよりされるのかな。



⑤しげんごみのゆくえ

おもなしげんごみは、古紙こし、かん、びん、牛乳パックぎゅうにゅう、ペットボトル、プラスチック製容器包装せいようきほうそうなどです。しげんごみは、工場**で**べつのせい品に生まれかわります。マナーを守ってきちんと分けてごみを出すことが大切です。

紙

ダンボール・新聞・ざっしは
べつべつに。



クリップ類や
テープ類などは
きちんと取りの
ぞいてね。

びん

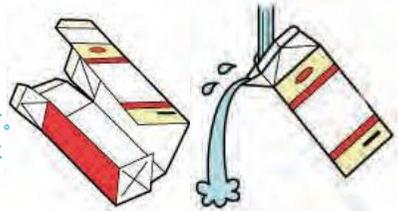
リサイクルできるもの
色べつに集めます。



王かん・キャップ
などを取って
中をゆすいでね。

牛乳パック

水でゆすいで、切り開いて
よくかわかしてから出します。
中が茶色や銀色の紙パックは
出してはいけません。



かん

なかみをカラにして洗って
からスチールとアルミとに
分けます。



軽く
つぶしてね。

ペットボトル

ふたととり、ラベルを
はがし、なかみをよく
洗いましょう。



足で
つぶしてね。



しげんごみ回収ボックス

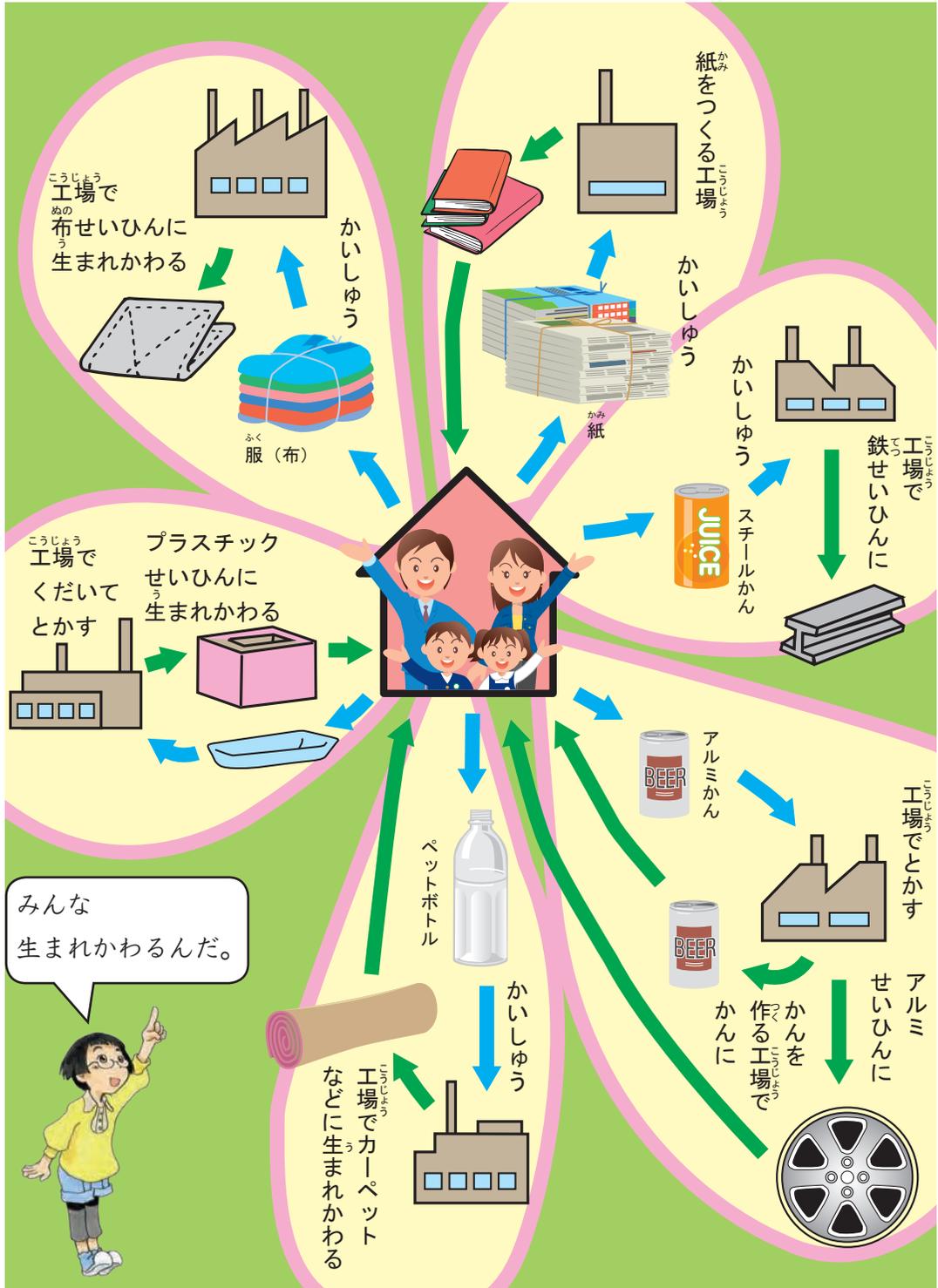
しげんごみには、リサイクルマークがついています。



身のまわりの物には、どんなリサイクルマー
クがついているかな？さがしてみよう。



しげんごみの流れ



5.人々のくらしをゆたかにする

(1)町にあるいろいろなしせつ

町に住んでいる人たちみんなのために、たくさんのしせつがあります。



会津坂下町役場



会津坂下町中央公民館



ごろびじゅつきねんかん
五浪美術記念館



埋蔵文化財センター



つるぬまきゅうじょう
ばんげひがし公園 BMI 鶴沼球場



子育てふれあい交流センター



ばんげ保育所



坂下南幼稚園



坂下東幼稚園



坂下南小学校



坂下東小学校



坂下中学校



学校給食センター



防雪サブセンター



坂下警察署



坂下消防署

(2)人々のくらしとコミュニティセンター

わたしたちの町には、中央公民館をはじめ、坂下・若宮・金上・
広瀬・川西・八幡・高寺のそれぞれの地いきにコミュニティセンター
がおかれ、その地いきの人たちの生活をゆたかにするため、さまざま
な活動に取り組んでいます。

各公民館の人たちは、地いきの人たちの希望や要望を取り入れなが
ら、地いきのくらしがいっそうゆたかになるように考えながら、計画
を立てています。

中央公民館



子ども料理教室
りょうり



青少年ボランティア「赤い羽根募金」
せいしょうねん ぼきん

坂下コミュニティセンター



お寺に泊まる
てら と



将棋教室
しょうぎ

若宮コミュニティセンター



若宮ガキ大将教室「お菓子づくり」

広瀬コミュニティセンター



くらしの講座「キムチづくり教室」

八幡コミュニティセンター



クリスマス会

金上コミュニティセンター



ばんげちびっこリレーマラソン大会

川西コミュニティセンター



宇内地区を歩こう

高寺コミュニティセンター



たばねまつどうげ
東松峠ウォーキング大会

(3) 公園と人々の暮らし

会津坂下町には、^{いなりづか}稲荷塚公園・中央公園・ばんげひがし公園など大小あわせてたくさんの公園があります。町の人たちは、この公園をいこいの場として活用しています。

公園では、^{ろうじん}老人クラブや^{ふじんかい}婦人会の人たちが草むしりや花のなえを植えたりして、町を花いっぱいになろうと活動しています。

コミュニティセンターの人たちも花の種^{たね}やなえを配り、力を合わせて花と緑の町づくりをしています。



花のなえ植え



みんなのための公園を、たくさんの人たちがきれいにしているんだね。

町の人たちは、公園をきれいにしようとして、小学生や中学生・高校生、また大人の人たちが、朝早くせいそう活動なども



子どもたちのせいそうのようす

おこな
行っています。

空きかん・空きびん・紙くずなどのごみひろいを行い、公園をきれいにしています。

公園をみんなできれいに使いましょう。

6.町のうつりかわり

(1)かわってきた人々の暮らし



これらの道具は何をするための道具かな？



石うす



せんばこき

①道具から昔を調べる

会津坂下町には、昔使っていたいろいろな道具が^{のこ}残されています。これらを見ると、昔の人々は工夫を^{くふう}こらして道具を使っていたことがわかります。また、昔の町のくらしぶりも知ることができます。

ア.生活の中で使われた道具

昔の生活に使った道具もいろいろなものが残っています。



わらぐつ

いなわらではきものを作りました。



みの

雨がふった時に使いました。ほかに荷物を背負うのに使うみのもあります。



あんか

すみび炭火を入れてふとんをかけて手足をあたためます。



かんじき

雪の上を歩く時に雪にふみ込んだり、すべったりしないように、くつの下にはきました。



たかばた

はたお機織りにつかいました。



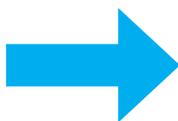
たばさみ

牛馬のせなかに置いて人や荷を乗せました。

いなさく イ.稲作に使った道具



今は、コンバインがあれば、いねかりからだっこくがかんたんにできますが、昔は、どんな道具を使っていたのだろうか？



左の写真は回転だっこく機によるだっこくです。どのように使うか調べてみよう。



三本ぐわ



まぐわ



田ころばし

まず、三本ぐわで田の土をほりおこし、次にまぐわでさらに土を細かくしました。まぐわは、田に水を入れてから代かきしろにも使いました。代かきでは、「はなどり」という、馬の口に竹ざおをつけて歩かせる仕事があり、おもに子どもが行いました。

代かきの後、田の表面ひょうめんを平らにするためにえんぶりを使い、田植

えがしやすいようにしました。田がぬかるんで馬が入れなかったり、田がせまかったりした場合は田ころばしを使いました。

このように昔の人々は、^{きかい}機械を使わず道具だけで仕事を行ったので、今よりも多くの時間をかけて^{はたら}働いていました。子どもたちも田や畑の仕事を行う、大切な働き手でした。

<米をしゅうかくするときに使った道具>

いねかりをした後、いねの穂を^ほぼうにかけてよくかんそうさせ、せんばこきでいねこきをします。次にとうみでごみやわらくずを取ってもみにしました。もみはするすでひいて^{げんまい}玄米にし、ばったりなどで米つきをして玄米を^{はくまい}白米にしてから^{まんごく}万石でふるいかけ、われた米などを取り除きました。



とうみ



まんごく
万石



と
すするす



私たちの身のまわりにある、古い道具をさがしてみましよう!!

② 暮らしのうつりかわり



国指定重要文化財 じゅうようぶんかざい 旧五十嵐家住宅 きゅういがらしけじゅうたく

この建物は今から約 300 年前の江戸時代に建てられました。会津地方の当時の農家の様子がよくわかります。

中は、どんなつくりになっていて、そこで、どのような生活を送っていたかを調べてみましょう。





ながしば



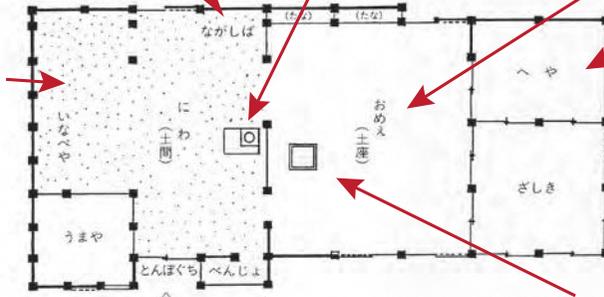
かまど



おめえ(土座)



お農具置き場



へや



うまや とんぼぐち



べんじょ
便所



いろいろ

家の中に入るとすぐ土間になっており、とんぼぐち（入口）のすぐわきに馬小屋があって、馬は家の中でかわれていました。土間のすみには、農具がおかれており、こわれたものはしゅうりして大切に使われていました。便所は、とんぼぐちのわきに作られていました。また、奥の方には、来客用のざしきがあり、それ以外はむしろをしいた簡単な作りでした。土間に面したところすべてが仕事場になるように作られており、農業を第一と考えた家でした。

③昔の食事

昔は、どんなものを
食べていたのかな？



ア.毎日の食事

畑を中心とする山間^{さんかん}地方では、あわ・そば・麦などのざっこくを主に食べていました。一方、稲作^{いなさく}を中心とする平地では、ざっこくとともに、米を多く食べることができました。

会津^{あいづ}の郷土料理^{きょうどりょうり}として、ざくざくにやいなごのつくだになどがあります。また、ぼうたらや干したにしん^{ほぞん}など海の魚で、長く保存できる乾物にしたものをとりよせて、食べていました。



ざくざくに



にしんのさんしょうづけ



ぼうたらに



いなごのつくだに

イ.お祝いの日の食事

お祝いの日の正式な主な食べものはもちでした。正月をはじめ、
せっく ひがん 節句やお彼岸などにつくられてふるまわれました。

また、そばもお祝いのときにふるまわれていました。



おそなえもち



そばうち

④昔の着物

どんな服そうをして
いたのかな？



ア.ふだんの服そう

ふだん家の中で着る着物きものは、“へいぜいきもの”“へいぜぎ”などとよばれ、それらは、主にもめんでできていました。

仕事の時ときは、“のらぎ”“かせぎじばん”などとよばれていました。



じばんとさっぱかま



のらぎ

イ.お祝いの服そう

婚礼こんれいや祝い事などに着る着物を“いいきもの”とよんでいました。



晴れ着



かくそで・かくおび

(2) 町に残る古いもの^{のこ}

どんなものが残っているのかな？



① 大昔のもの^{おおむかし}

住居^{じゅうきょ}の跡^{あと}や生活につかった道具などの発見から、約2万年前には、会津坂下町に人が住んでいたと考えられています。そのころは、まだ、米づくりが行われず、主に野山の動物や川の魚をとったり、木の実や山菜^{さんさい}などを採^とったりして、それを食料^{しょくりょう}にしていたと考えられています。

〈住居跡^{じゅうきょあと}やそこからでてきた土器^{どき}や石器^{せっき}〉



住居跡 (きたかわまえいせき)
(北川前遺跡)



複式炉 (ふくしきろ)
(北川前遺跡)

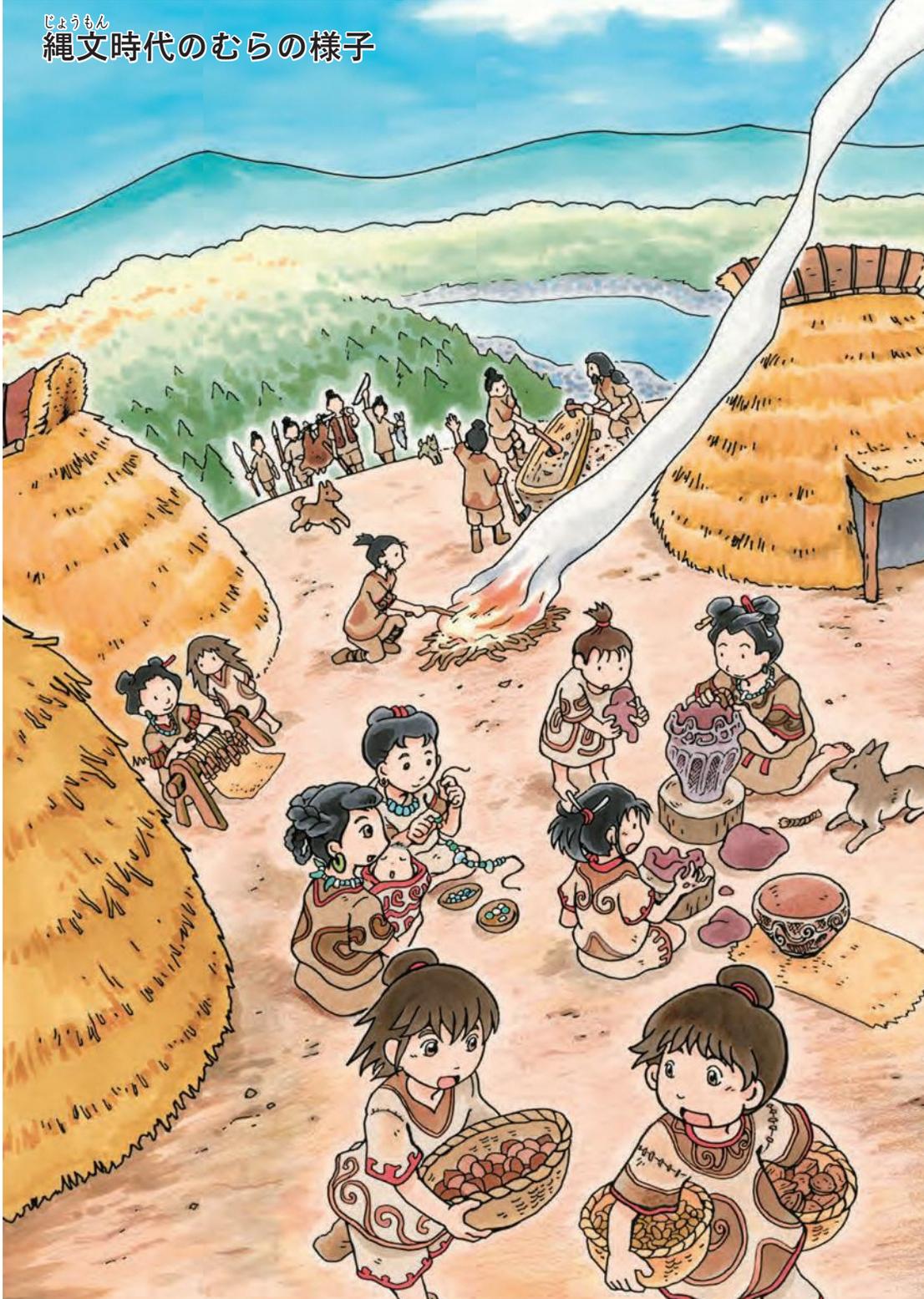


縄文土器 (じょうもん)
(ぬすつどざわいせき)
(盗人沢遺跡出土)



石器 (せっき)
(北川前遺跡出土)

じょうもん
縄文時代のむらの様子





(絵：やないふみえ)

② ^{こふん}古墳がつくられた時代のもの

米づくりが進むにつれ、むらの人の中から、むらの全体をまとめる^{ごうぞく}豪族があらわれました。そして、さらに、むら同士の争いも起こるようになり、むらとむらが大きくまとまり、小さいくになができました。その豪族のお墓として古墳が^{はか}あちこちにつくられました。会津坂下町にも有力な^{ごうぞく}豪族の古墳がいくつか見られます。



かめがもり ちんじゅもりこふん
亀ヶ森・鎮守森古墳



きねがもりこふん
杵ガ森古墳

このような古墳からは、はにわや^{どうきょう}銅鏡などがたくさん出てきています。
<古墳からの^{しゅつとひん}出土品の数々>



はにわ ^{きょうづかこふん}
(経塚古墳出土)



銅鏡 ^{もりきた ごうふん}
(森北1号墳出土)



どき
土器 (杵ガ森古墳出土)



土器 (杵ガ森古墳出土)

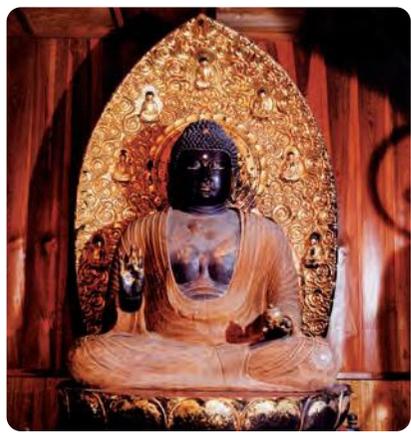
③ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

今から1200年ぐらい前の平安時代になると、磐梯山のふもと（現在の磐梯町）に、徳一という僧によって慧日寺が開かれました。

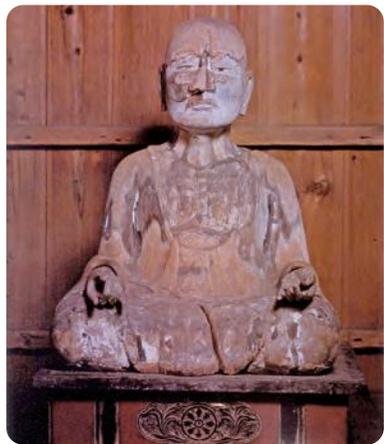
そして、そこから仏教が会津に広められました。会津坂下町でも上宇内の調合寺や塔寺の恵隆寺などが開かれたと伝わります。



しせきえにちじあと ふくげんこんどう
史跡慧日寺跡 復元金堂
(写真提供：磐梯町教育委員会)



やくしにょらい
木造薬師如来坐像（上宇内薬師堂）



もくぞうとくいつぼさつざぞう
木造徳一菩薩坐像
(写真提供：湯川村教育委員会)



えりゅうじかんのんどう たちきかんのんどう
恵隆寺観音堂（立木観音堂）

平安時代は、慧日寺が会津四郡（会津・耶麻・河沼・大沼）を支配していました。しかし、一方で、会津の豪族たちも活やくしていました。昔から、会津は、となりの越後の国（現在の新潟県）とも深い関係がありました。当時の越後の有力者である城氏が、会津にせめて

きて、あちこちに城を築いたという伝説があります。城氏は、会津坂下町には、陣が峯城（川西地区）や雲雀が城（高寺地区）などを築いたといわれています。

豪族たちは、農業をしながらも戦いにそなえて武芸にはげむようになりました。こうして会津にも武士が誕生しました。そして、源氏や平氏の勢力も会津にのびてきました。八幡地区の塔寺にある心清水八幡神社は、源氏と関係していたと伝えられています。



雲雀が城（舟渡城）跡



陣が峯城跡

④武士の力が強くなった時代

1500年代の戦国時代は、会津の大部分は、葦名氏がおさめていました。会津坂下町辺りは、家来の金上氏と栗村氏がおさめていました。特に、金上氏は、葦名氏に越後のそなえを命じられていました。



金上氏の館跡

⑤町のきそができてはじめて時代

1600年代のはじめ、江戸時代に入ると、会津の国と越後の国を結ぶ越後街道が整備され、人や物の行き来がふえて、街道沿いの坂下地区には多くの人々が住み、町並みができてきました。それと同時に月に6回、市(店)を開かれるようになり、商業の町になるきそができてあがりました。



当時の様子を残す町並み
(昭和46年頃の八幡地区)

⑥武士の時代の終わりと会津坂下町

武士の時代が終わろうとしていた江戸時代末期、それまで武士たちを束ねてきた江戸幕府とそれをたおそうとする天皇を中心とする軍との戦いがいろいろなところでおこりました。これを戊辰戦争といい、会津は、幕府の側につき、中心的な役割をはたしました。その戦いの中で有名になっているのが白虎隊ですが、そのほかにも、中野竹子が娘子軍をひきいて戦いました。現在、町内の法界寺にその墓があり、竹子が使用したとされるなぎなたが残されています。



竹子が使用したと伝えられるなぎなた

(3)残したいもの大切なもの

この仏像は、なんという仏像で、どこにあるのかな？

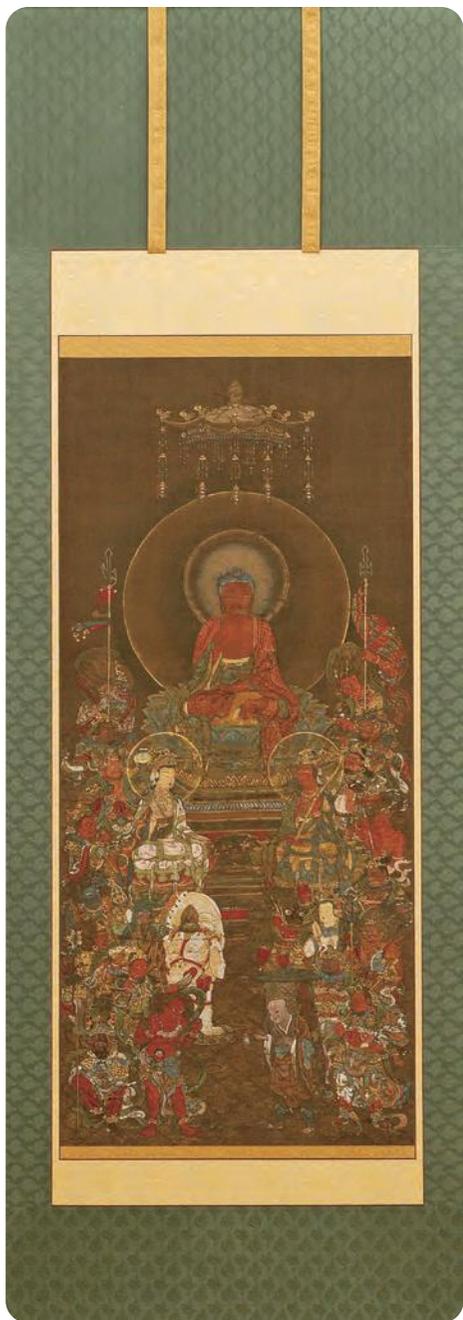


これは、やはた八幡地区とうでら塔寺のえりゅうじかんのんどう恵隆寺もくぞうせんじゅかんのんりゅうぞう観音堂にある木造千手観音立像です。かまくら鎌倉時代に建てられました。

せんじゅかんのん千手観音は一本の立木でつくられ、高さ8.5メートルもあります。



その他、会津坂下町には、残したい大切なものがたくさんあります。調べてみましょう。



けんぽんちゃくしよくじゅうろくぜんじんぞう ひろせ
絹本著色十六善神像（広瀬地区）

じゅうようぶんかざい
県指定重要文化財

だいほんにやきょう
※十六善神は、大般若経とそれをと
なえる人を守る神です。



もくぞうにじゅうはちぶしゅうりゅうぞう やはた
木造二十八部衆立像（八幡地区）

県指定重要文化財

せんじゅかんのん きょうじ
※千手観音につきしたがう協侍で、
病気・災害からの守り神です。

もくぞうやくしによらいざぞう かわにし じゅうようぶんかざい
木造薬師如来坐像(川西地区) 国指定重要文化財

高さ183センチメートル、ケヤキの一本づくりで平安時代へいあんの作品
です。



やくしによらいざぞう
薬師如来坐像

びょうく もうじゅう きなん いしよくじゅう み
※病苦・猛獣などの危難から身を守ったり、衣食住を充たしてくれる守り仏です。

てんや たばねまつ たかてら てんねんきねんぶつ
天屋の束松(高寺地区) 県指定天然記念物

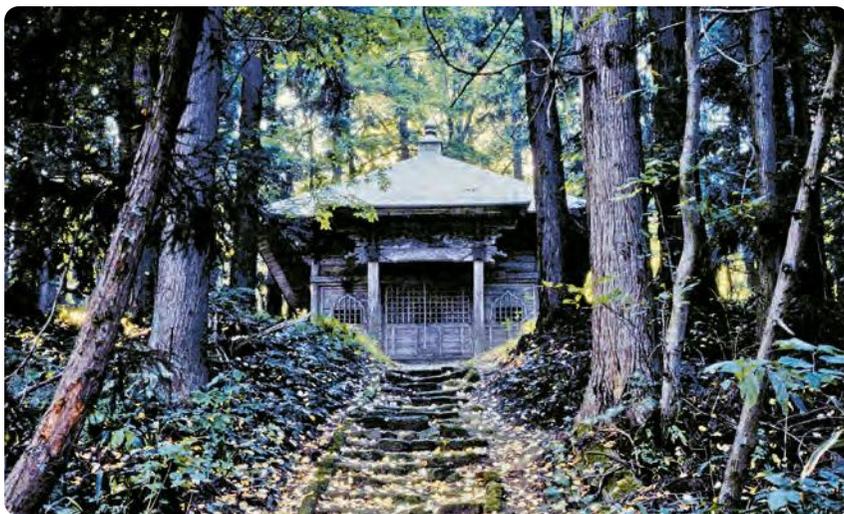
この松は、たくさんの枝がたばねたようになっているため、このよ
うな名前がつきました。昔、旅人が越後街道えちごかいどうを通るときに目じるしに
しました。



たばねまつ
ひこ束松

きゅうだいほういんやくしどう わかみや じゅうようゆうけいみんぞくぶんかざい
旧大法院薬師堂(若宮地区) 町指定重要有形民俗文化財

やまぶし しゅぎょう 山伏が修行に使ったお堂です。現在のお堂は江戸時代えどじだいに再建さいけんされた
といわれています。



旧大法院薬師堂

(4) 昔からの産業^{さんぎょう}

① しょう油^{つく}造り

坂下周辺の農家では、昔から、自家用の味噌^{じかよう みそ}やしょう油をつくる家が多くあります。これは、原料^{げんりょう}の大豆^{だいず}と米・麦などの生産がゆたかだったからと考えられています。

江戸時代^{えどじだい}には、しょう油屋^{しょうけん}が数件ほどあったことが確認^{かくにん}されています。



しょう油屋

② 酒^{さけ}造り

会津坂下町には、現在、酒造^{げんざい さけづく}りを行う造り酒屋^{つく さかや}が数か所あります。その始まりは、江戸時代にまでさかのぼることができます。



酒造り

(5) 昔さかんだった産業^{さんぎょう}

① 青木木綿^{あおきもめん}

昔の着物の原料は、かいこのまゆや綿^{わた}から作ったせんいなどでした。綿^{わた}はどの農家でも作っていました。そして、綿^{わた}から糸をつむぎ、糸から機織^{はたお}りをして布^{ぬの}を作りました。また、会津でさいばいのさかんだったあい^{げんりょう}を原料として、布^{ぬの}をそめることもしました。特に、青木区^{あおき}の木綿^{もめん}は、代表的なものでした。



青木木綿



はたお
機織り



あい畑



あいをついたうす



あいしぼり



ほし場

なたねあぶら
②菜種油

あおつ あおき なたね さんち
青津・青木区は菜種の産地で、昔から菜種油作りが行われていま
した。江戸時代のなか頃には、油しぼりを商売にする人もいました。
ここで作られた菜種油の多くは越後に送られました。

7. 郷土を開く

人々は昔から、安全でゆたかな暮らしをしたいと願っていました。あれ地を開いて田畑にしたり、用水路をつくって田畑を広げました。しかし、田畑を広げすぎたことで、水不足が発生し、あらいが起きました。人々は長い間大変な苦勞をして、今日の会津坂下町をきずきました。

(1) かんがい用水を開く

① 田畑に水を引く

みやかわかんせんようすいろ
宮川幹線用水路は、農業用の水を安定してきょう給するための用水路です。

しんみやかわ やく
新宮川ダムの約5.5キロメートル下流にある宮川頭首工を始点として、町内の津尻円筒分水工（宇内分水工）を終点とする、国と県が力を合わせて26.6キロメートルにもおよぶこのパイプラインは、と中に調整池3か所、水圧を調整する水そう3か所をかかえる、大変大がかりなしせつです。



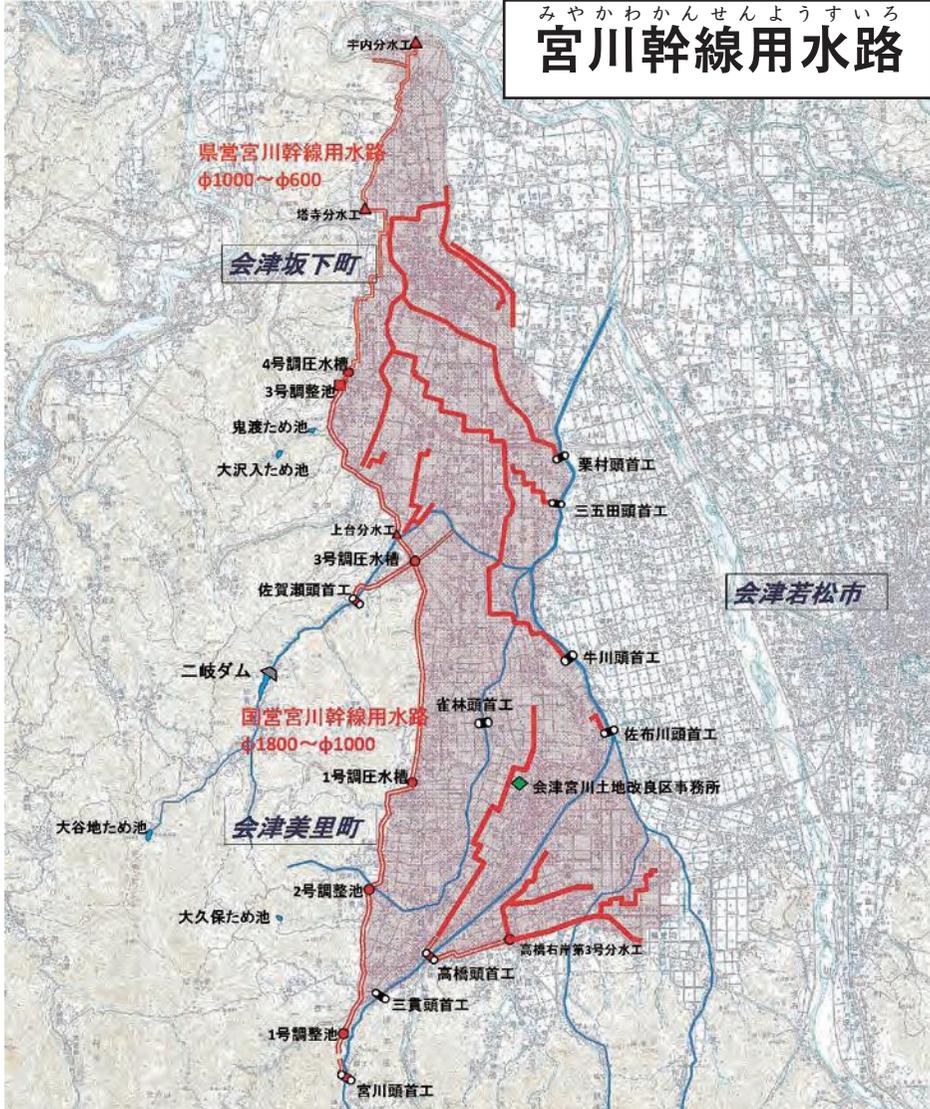
一号調整池（パイプライン始点）



ダムやパイプラインを管理する部屋

これにより、およそ2,000ヘクタールもの農地で耕作することができるようになりました。

みやかわかんせんようすいろ
宮川幹線用水路



(会津宮川土地改良区)

今はしせつやせつびが整って、農業をとりまくかんきょうは昔とくらべるとはるかによくなりました。

昔の人々には、どんな苦^{くろう}勞があったのかな？



②堰を造る(かんがい用水路)

【栗村堰】(今の栗村幹線用水路)

栗村堰は、鶴沼川から水を引き入れ、若宮地区の東部から町の南部をう回して、塔寺区から川西地区までの約13キロメートルにおよぶ用水路です。この栗村堰には、いろいろな説がありますが、どれもきちんとした記録が残っていないため、はっきりとしたことはわかっていません。

今から700年ほど前までは、栗村(今の定林寺付近)の土地は水りが悪いために田畑も少なく、民家もまばらでした。



そこで初代地頭であ

今の栗村頭首工の取水口

る栗村盛俊は、農民の生活の安定とはんえいを願って、鶴沼川から水を引き入れて新しく水田を開くことを考えました。途中、いくさで中断することがありましたが、この盛俊から子の盛満(盛光ともいう)、孫、ひ孫の5代にわたって完成したのが栗村堰です。1331(元弘元年)年に着工し、1346~1370(正平年間)年ごろに完成したといわれています。

その後200年ほどたった1536(天文5)年に会津地方に「白鬚の水」とよばれる大こう水がおき、鶴沼川の流がかわりました。そこで、取り入れ口を上流に変こうして行われた改しゅう工事は1570(元亀元年)年に完成し、今にいたっています。

うしざわしんぼりぜき かんせんようすいろ
【牛沢新堀堰】（今の牛川幹線用水路）

うしざわ ごうがしらく さわらみつしげ あわ むぎ
牛沢の郷頭役だった佐原光重は、田が少ないために農民が粟や麦、
だいず
大豆などを食べて苦しい生活をしているのを見て、何とかしたいと考
えていました。

そこで、水を引いて新田を開発する計画を立てました。しかし、光
しげ
重は病にたおれたために、息子むすこの光忠みつただにその願ねがいをたくしました。

みつただ めいれき あいづ
光忠は、1656（明暦2）年、田に水を引くための新田開発を会津
はん
藩に願ねがい出しましたが、正式にみとめられなかったため、自費じひで人をや
とって工事を進めました。工事はとてもむずかしく費用ひようがたくさんか
かり、ふたたび藩はんにえんじょもとを求め、1万人の人を使って工事を進め
ることができました。

1658（明暦4）年、ようやく約14キロメートルにもわたる水路
かんせい
が完成しました。

とみかわ か すいぜき とみかわかんせんようすいろ
【富川加水堰】（今の富川幹線用水路）

てんぶんねんかん とみかわぜき ぶんせい
天文年間に開かれた富川堰と、富川堰の水量をおぎなうために文政
年間に開かれた加水堰を合わせて「富川加水堰」とよびます。

今から480年ほど前、金上地区かながみの東部ひろせや広瀬地区ひろせの東部ひろせは鶴沼川つるぬまがわ
より高台になっていることで、水不足のために水田が少なくこまっ
ていました。そのため、年々住む人も少なくなっていました。何とか
したいと考えた人々は、東河原村ひしがわら（今の青木区あおきの一部）の赤井六郎左
衛門あかい りくろうざを中心として、1536（天文5）年2月、大川おおかわの水を引き入れて
れいぶち つかはら さいく な むらた おいけ あおづ
鈴渚から東原、細工名、村田むらたをおいけ御池、あおづ青津まで約12キロメー
トルにおよぶ水路を開く計画を立てました。

その熱意ねついが当時の領主りょうしゆにみとめられ、のべ約1万人にんぶの人夫と85両
ひよう
の費用があたえられました。

工事の完成を目前にして六郎左衛門は急死してしまいましたが、長男の六平が仕事を受けつぎ、完成させました。

富川堰の名前には、この地方が長く栄えることを願った人々の思いがこめられています。

米がたくさん取れるようになると、下流では水不足の問題が起きてきました。そこで、新たに富川堰に水をおぎなう水路をつくる計画があがり、1830(文政13)年に村民が力を合わせて工事を進めました。こうしてできたのが、加水堰です。

(2)新しいダムを造る

【新宮川ダム】

あいつみやかわ 会津宮川地区（会津
みさと 美里町、会津坂下町）
あいつぼんち の会津盆地に広がる約
4,500ヘクタールの
土地に水をきょう給す
ために建設された農
業用のダムです。



新宮川ダムの貯水池

1993（平成5）年から10年かけて工事を進め、2003（平成15）年に完成しました。新宮川ダムにより形成される湖は、関係する町村の住民から公募して、「会津美里湖」と命名されました。ダムの所在する町の名であり、また、ダムの水により地いきが水に育まれた美しいふる里となることを願って名付けられました。このダムでは、水を放流するさいの落差を利用して、発電も行っています。



ダムの管理施設



発電所の建屋

おおかわ
【大川ダム】



大川ダム

大川ダムは、会津若
まつ 松市から南会津郡下郷
あ 町にかけて広がる、阿
が の がわそうごう
賀野川総合開発事業の
いっかんとしてつくら
たもくてき
れた多目的ダムです。

1971（昭和46）年から1987（昭和62）年までの16年もか
けて完成しました。かんがい用水、水道用水工業用水として使われ
ており、※揚水式およびダム式発電も行っています。

大雨などでこう水のおそれがある場合にたくさんの水を調節でき
るように、11もの門があります。

利用目的	きょう給する量	きょう給先
かんがい用水	19.7立方メートル	4,400ヘクタール農地
水道用水	27,500立方メートル	会津坂下町、会津美里町、 会津若松市にきょう給
工業用水	72,500立方メートル	会津若松地区にきょう給
揚水式発電	最大100万キロワット	電源開発(株)下郷発電所
ダム式発電	最大2万1千キロワット	東北電力(株)大川発電所

※揚水式：夜間などの電力使用の少ない時間帯のあまった電力を利用して下池から貯水池へ
水をくみ上げておき、電力が必要となる昼間に下へ水を落とすことで発電を行う水力発電の
しくみ。

(3) 町にゆかりのある人々

わたしたちの町にゆかりのある人々の中には、^{あいづ}会津にとどまらず日本の歴史に名前を残している人が少なくありません。

板谷 まる(いたや まる) 旧姓 鈴木 1870～1958

明治から昭和にかけての教育家、とう芸家。町内のごふく店の三女として生まれました。

共立女子職業学校(今の共立女子大学)に入学、

※^{うりゅういわこ}瓜生岩子の内弟子となり、^{ほうしかつどう}奉仕活動を手伝うようになりました。

その後会津にもどり、1893(明治26)年、

^{あいづわかまつ}会津若松に会津女子職業学校(今の葵高校の前々身)をそう立しました。1895(明治28)年に

はとう芸家の^{いたやはざん}板谷波山と結婚し、^{おつと}夫の^や焼き物制作に協力するだけでなく、^か自分も日本画を描くなど^{げいじゅつかつどう}芸術活動を行いました。

※^{うりゅういわこ}瓜生岩子：^{ばくまつ}幕末から明治の^{こんらん}混乱した時代に^{しゃかいふくし}社会福祉に力をつくした。日本の^{ナイチンゲール}と言われる。^{きたかた}喜多方市生まれ。



板谷まる(右)と波山

茂原 次郎(もばら じろう) 1865～1930

^{ばんげこうがくどう}坂下講学堂の創始者。

1903(明治36)年、^{じどう}児童がふえたことによる学校の先生の不^ふ足をおぎなうため、先生を^{ようせい}養成する学校として今の^{ちややまち}茶屋町に「坂下^{こうがくどう}講学堂」をせつ立しました。

私立の教員養成学校としては、当時県内にただ一つのもので、ひょうばんも良く多くの卒業生を送り出しました。



講学堂の写真(円内は茂原次郎)

中野 友禮(なかの ともりのり) 1887～1965

おおぬま かわにし みしま たいしょう しょうわ
大沼郡川西村（今の三島町）に生まれた大正から昭和時代前半の実業家。

きゅうあいづはんし
旧会津藩士の家の次男として生まれ、おさないころに八幡地区の塔寺にあった中野家の養子となりました。

めいじ きょうとていだい
1908（明治41）年、京都帝大（今の京都大学）理学部助手となり、中野式食塩電解法などの特許をとりました。



中野友禮

にほん ソーダかぶしきがいしゃ りつ せんそう
その後、1920（大正9）年、日本曹達株式会社をせつ立し、戦争をきっかけとしていろいろなせい品を生産するようになりました。会社は関連するものをふくめると、42社にもなりました。

きゅうやはた たてももの きふ
1940（昭和15）年には、旧八幡小学校の土地と建物を寄付し、げんざい あとち ひ た
現在、旧八幡小学校跡地には中野友禮をたたえる碑が建てられています。

堀部 安兵衛(ほりべ やすべえ) 1670～1703

ちゅうしんぐら あこうろうし
忠臣蔵で有名な赤穂浪士47人の一人。

えちご しばたはんし
もともとの名字は中山で、越後の新発田藩士だった父の中山安太郎が町内（茶屋町）の貴徳寺の一室を借りて住むことになり、1670（寛文10）年に安兵衛が生まれたといわれています。

えど けん
その後、江戸に出て剣のうでまえて名をあげ、ほりべやへえ ようし やすべえ
堀部弥兵衛のむこ養子となり、堀部安兵衛と名前をか
変えました。



堀部安兵衛の銅像

どのさまのかたきを討つために、大石内蔵助らとともに吉良邸に討ち入り、見事吉良上野介を打ち果たしました。



名前が残る「安兵衛通り」

1703（元禄16）年2月4日、仲間とともに切腹しました。享年34歳。

安兵衛の両親のお墓が、今も貴徳寺にあります。

中野 竹子(なかの たけこ) 1850(1846や1847の説も)～1868

会津藩士の長女として江戸で生まれました。

書道となぎなたにすぐれており、1868（慶応4）年、会津戦争が始まる前に会津にもどり、坂下にある知り合いの玉木徳五郎という人物の所に身を寄せていました。

会津松平家の養女であった照姫を護衛するために、母、妹といっしょに若松に向かい、そのとちゅうでの戦いで銃弾を受け、亡くなりました。その亡きからは、今も町内の法界寺に埋葬されています。

「武士（もののふ）の猛き心にくらぶれば
数にも入らぬ我が身ながらも」
の辞世の句（亡くなるときに詠んだうた）は大変有名です。



中野竹子の肖像画

武田 惣角(たけだ そうかく) 1860～1943

惣角は、会津の宮相撲で大関（しこ名 白糸）だった武田惣吉の次男として町内の御池（現在の御池田）に生まれました。

目が見えない妹を守り世話をするやさしい兄でしたが、間違ってい

ることには、たとえ相手が大人でも「間違っている」という正義感の強い子どもでした。

10才のころから藩士佐藤金右衛門に剣術や護身術（柔術）を習いはじめ、20代で易者中川万之丞から修験道の医療技術・易学・気合術、真言密教などを修行しました。その結果、気の力を利用した独自の技をたくさん身につけ、惣角はこれ



武田惣角

を「合気」と呼びました。やがて「大東流合気柔術」を創始してたくさんの人々に教え、日本の近代武術に大きな影響をあたえました。

石田 和助(いしだ わすけ) 1853～1868

戊辰戦争のさいに飯盛山で自刃した白虎隊士の一人。

父親が金上地区の下開津（今の新開津）の農家に生まれながら努力して医者になったため、まわりの友達から「なり上がり者」と、悪口を言われていたそうです。



石田和助の肖像画

これに対して和助は、「たしかに自分の家は農家からのなり上がりだが、お前たちの先祖はりっぱな人だったと聞く。ならば、お前たちはご先祖に対してなり下がり者ではないか。」と言り返したそうです。

白虎隊士中二番隊の一員として戦っている最中、ものすごいけむりに囲まれた鶴ヶ城を見てお城が燃えて会津が負けたとかんちがいし、ほかの隊士とともに切腹して果てました。切腹のさいは、「手きずが苦しいのでお先に御免」と、真っ先に腹を切ったと伝えられています。

峯州上人(ぎゅうしゅうしょうにん) ?～1592

会津では昔から徳一大師、天海大僧正とともに、三傑僧の一人として知られています。

今の広瀬地区の青木に生まれ、おさないころは荒五郎という名前でしたが、10歳の時に仏門に入り、京都で学問の修業をしました。

その後、1558(永禄元)年に当時の天皇(正親町天皇)によばれて法話を行うなどして紫の衣を賜りました。紫の衣は天皇か身分の高い人しか着ることをゆるされませんでした。このような名声や信頼が高まり、知恩寺第30世大僧正をつとめました。

朝廷だけでなく、上杉謙信などの有名な武将とも深いつきあいがあったと伝えられています。

薄 新六(うすき しんろく) 1904～1988

会津坂下町名誉町民・事業家。

若宮地区の牛沢生まれで、上京した後、1924(大正13)年に薄商店をせつ立しました。

その後事業を広げ、1959(昭和34)年に東洋クラウン株式会社を作り、自ら発明した容器の金属キャップで注目を集めました。

1974(昭和49)年に勲四等瑞宝章を受け、

1977(昭和52)年3月4日名誉町民となりました。

発明されたキャップは改良され、今も清涼飲料水、栄養ドリンク、アルコール飲料などに広く使われています。



薄新六

齋藤 清(さいとう きよし) 1907～1997

会津坂下町名誉町民・版画家。

高寺地区くぼの窪さいに生まれ、4歳まで会津坂下町で過ごしました。その後は北海道ほっかいどうの夕張ゆうばりで子ども時代を送りました。

高等小学校卒業後、働きながらだれからも教わらず一人で絵を学びました。24歳さいで上京じょうきょうし、1942(昭和17)年には版画はんがの個展こてんを開き、「会津の冬」を発表しました。

世界各国に版画を出品するなど、国内はもとより世界的に活やくした業績ぎょうせきがみとめられ、紺綬褒章こんじゅほうしょう、勲四等瑞宝章こうろうしょうや文化功労賞を受けました。1977(昭和52)年3月4日、名誉町民めいよちょうみんとなっています。

柳津町には「やないづ町立齋藤清美術館びじゅつかん」が開館かいかんされており、柳津町の名誉町民にもなっています。



齋藤清

小林 五浪(こばやし ごろう) 1925～2005

会津坂下町名誉町民・画家。

本名は小林五郎こばやしごろう。

金上地区かながみの太田谷地おおた やちに生まれ、東京文化学院とうきょうぶんかがくいん美術科びじゅつかを卒業後、福島県展そつぎょうに初出品した作品ふくしまけんてん「村娘」が県知事賞を受賞しました。

1952(昭和27)年には当時の金上中学校の先生となり、1973(昭和48)年に会津若松市立第二中学校で退職するまで21年間、生徒の指導せいと しどうに力をつくしました。



小林五浪

その後は制作活動に専念し、日本美術院展などで数多くの賞を受賞しました。

1981（昭和56）年には、紺綬褒章を受けるとともに、会津坂下町名誉町民となりました。

2001（平成13）年、自ら五浪美術記念館を建て、そのしせつと多くの作品を町に寄付しました。

春日 八郎(かすが はちろう) 1924～1991

会津坂下町名誉町民・歌手。

本名は渡部實。

八幡地区の塔寺に生まれ、歌手を目指して上京し、東洋音楽学校を卒業後、本格的に歌手活動を始めました。

「赤いランプの終列車」・「お富さん」・「別れの一本杉」など、数多くのヒット曲を生み出した国民的歌手で、紫綬褒章も受けました。

会津坂下町民歌および会津坂下音頭を作曲し、自ら歌いレコーディングしました。旧坂下第二中学校の校歌および応援歌も作曲し、母校の旧八幡小学校にはグランドピアノも寄付しました。

1981（昭和56）年9月18日、会津坂下町の名誉町民となりました。

会津坂下駅前には銅像が建てられており、「別れの一本杉」の舞台となったところには、記念公園・おもいで館があり、多くの思い出の品が展示されています。



春日八郎

高橋 藤園(たかはし とうえん) 1903～2002

会津坂下町名誉町民・書家。

本名は高橋藤吉郎。

若宮地区の原に生まれ、福島県書写書道研究会
特別功労賞・福島県教育行政功労賞・福島県知事
表彰・福島県文化功労賞などたくさんの賞を受賞
しています。

勲五等双光旭日章も受けました。

藤園会を主催し、小中学校の書の向上に力を注
ぎました。

町内の小中学校、公民館などへたくさんの書を寄付しています。

1982(昭和57)年12月10日、会津坂下町名誉町民となりました。

これらの業績がみとめられ、町によって中央公民館前に銅像が建て
られました。



高橋藤園

星 扶(ほし たすく) 1901～1993

会津坂下町名誉町民・医師。

会津若松市に生まれ、1926(大正15)年に
会津坂下町に星医院を開業しました。

学校の校医や会津坂下警察署の警察医を長くつ
とめ、特に警察医の仕事では町内だけでなく金山
町や昭和村までの広いはん囲を手がけました。

1958(昭和33)年2月、両沼郡第2代医師
会会長になりました。

剣道連盟会津坂下支部長や会津坂下剣友会の会長もつとめ、町内の



星 扶

小中学生に剣道教室を開いて、健全育成にも力をつくしました。

それらの功績がみとめられ、1987（昭和62）年に勲五等双光旭日章を受けました。1990（平成2）年4月に名誉町民となっています。

大堀 勉(おおほり つとむ) 1925～2012

会津坂下町名誉町民・医師。

金上地区の新開津に生まれ、岩手医学専門学校を卒業後、泌尿器科を専門として東京の慈恵会医科大学や岩手医科大学につとめました。

1966（昭和41）年には、岩手医科大学の教授となり、多くの優秀な人材を育てました。

「切らずになおす」ちりょう法に取り組むとともに、じん臓の生体移植でも多くの成果をあげました。

1990（平成2）年からは岩手医科大学理事長として、力をつくしています。2000（平成12）年12月4日に名誉町民となりました。



大堀 勉



ここでしょうかいしたほかにも、たくさんの方が会津坂下町のために力をつくしました。

家の人に聞いたり、図書館などで調べたりしてみましょう。

調べた人の名前

町のためにしたこと(どんなことで有名になったかなど)

8. 地いきに伝わる伝統

(1) お祭り

① 初市と大俵引き

今から約400年前、会津坂下町は、たびたびこう水のひ害がにあっていました。また会津大地震あいつだいじしんもあり、新しい町づくりを始めました。そして、会津坂下町は商人の町となりました。

このころから、1年の初めはじの市は、1月14日に行われ「初市」として大ぜいの人でにぎわいました。

江戸時代、屋根から投げた俵を、人々が東西にわかれてうばいあったのが大俵引きの始まりです。大俵引きは一時中断しましたが、1955（昭和30）年に6つの町村が合併して会津坂下町ができたのをきっかけに、よく年またふっ活したのです。大俵引きで東が勝つと米のねだんが上がり、西が勝つとほう作になるのだそうです。

会津坂下町の初市と大俵引きの始まりはこうだったんだね。



昭和31年の大俵引きの様子

② お田植えと早乙女おどり

昔、今の定林寺あたりに栗村弾正くりむらだんじょうという武士ぶしが住んでいました。当時農家の人たちは、水不足みずぶそくで大変苦しんでいました。栗村弾正は、人々

を助けたいと思い、稲荷神社いなりじんじゃにおいのりをすると、ゆめにお告つげがありました。お告つるぬまがわげのとおりつるぬまがわに鶴沼川のほとりまで地面をほり進めていくと、川ができ、それから水が行きわたったそうです。その後、稲荷神社すわじんじゃけいだいは諏訪神社境内にまつられました。このくりむらいいなりじんじゃ栗村稲荷神社のお祭りがお田植え祭りとなりました。

毎年7月7日に行われるこのお田植え祭りでは、早乙女たちが田植え姿すがたでおどります。



みこしとぎよ
神輿渡御

神様を乗せた神輿うじこが氏子のいる町内をめぐる

昔は水不足で、人々はとても苦くろう勞したんだね。



③秋祭り(諏訪神社祭礼さいれい)

町の諏訪神社のお祭りで、今から約600年やくくらい前はじに始まりました。作物しゅうの収いかくを祝いわうお祭りでもあります。大正10年ごろからたいこ台を作って町の中を歩くようになりました。

その後かそうだし仮装山車を引き、コンクールも行おこなわれるようになったそうです。

○よい祭り

ちょうちん行列

ライトアップ仮装山車

○本祭り

みこしとぎょ
神輿渡御 ちご行列

かそうだし
仮装山車コンクール



昭和の初めごろの仮装の様子



秋祭りは、作物の収かくを祝う行事
なんだね。

す わ じん じゃ 諏訪神社って？

かまくらじだい しんしゅうす わ ながの わかまつ くらかわ
鎌倉時代に信州諏訪(長野県)から若松(当時は黒川といいました)



さいらい
諏訪神社祭礼の様子

に諏訪神社をうつす時、神様
を乗せた神輿がと中のところ
どころで休けいしました。休
けいした場所にあとから諏訪
神社が建てられました。坂下
の諏訪神社もそのひとつです。

(2) 伝統芸能^{でんとうげいのう}

① 今も続いているもの^{つづ}

今も続いている伝統芸能に牛沢甚句^{うしざわじんく}と青津甚句^{あおづじんく}があります。青津区では保存会^{ほぞんかい}をつくり、受けついできています。

牛沢甚句

江戸時代^{えどじだい}、牛沢^{うしざわ}にある大徳寺^{だいとくじ}が火事にあいました。新しくお堂^{どう}を建てるときの大工^{たいこう}さんは越後^{えちご}（新潟県）の人たちでした。大工さんたちは毎ばん仕事が終わるとふるさとの歌を歌ったり、ふるさとのおどりをおどったりしまし



牛沢甚句^{うしざわじんく}

た。牛沢の人たちもいっしょに歌ったりおどったりしているうちにおぼえて、大工さんたちが越後に帰ったあとも歌とおどりは牛沢に残^{のこ}ったと伝えられています。

牛沢甚句は今でも9月9日に行われ、亡くなった人の供養^{くよう}として歌いおどり続けられています。



牛沢甚句は、大工さんがふるさを思い出して歌ったのがはじまりだったんだね。

あおつじんく
青津甚句

青津甚句の由来はよく分かっていませんが、毎年8月14日に、牛沢甚句と同じように亡くなった人の供養のために行われてきました。今でも歌やはやしが青津の子どもたちへと伝えられ、受けつがれています。



青津甚句

②形をかえてつづいているもの
にいだてさおとめ
新館早乙女おどり

早乙女おどりは、その年の秋のほう作をおいのりするために、田植え姿のおどり子が、田植え歌にあわせながらおどるものです。昔の農作業や生活のようすがうかがえるなつかしいおどりです。新館で受けつがれてきましたが、人口



早乙女おどり (定林寺)



もへり、おどり子も少なくなってきたので、げんざいは会津農林高校の女子生徒が毎年お田植え祭りにおどり、伝統を守っています。

早乙女おどりは、ほう作をいのっておどったんだなあ。

③すでにとだえてしまった^{でんとうげいのう}伝統芸能

^{ばんげ だいかぐら}坂下の太神楽

太神楽はそれを仕事にしていた人が、農家を回って歩きました。獅子頭^{ししがしら}によるおどりが中心となっておどるものでした。獅子の力であくまを追いはらうという言い伝えがありました。病気やけががおこらないようにと、昔の人たちは、太神楽をととてもかんげいしていました。



^{だいりょうぎ えんもく おおながし}代表的な太神楽の演目「大長獅子」

^{にいだて あいづまんざい}新館の会津萬歳

新館は会津萬歳^{さいしよ}のととてもさかんなところでした。最初に萬歳をはじめた人は東海林^{しょうじ}さんという人でした。東海林さんは酒屋^{はたら}さんで働いていました。もともととても器用^{きよう}な人で、特に萬歳は天才^{とく}だったそうです。「年始萬歳^{ねん しまんざい}」のほかに「八百屋お七^{やおやしち}」「源義経^{みなものよしつね}」などの演目があったそうです。

また、多いときでは新館には20人くらい萬歳をやる人がいたそうです。

一時は数多くの方が萬歳をやっていましたが、昭和30年ごろからしだいにやる人もいなくなり、またできる人も年をとってきたので、この伝統芸能もしだいにすたれていったそうです。



会津萬歳の様子

(3) 伝説・伝承

仁王様の大げんか

会津五桜の一つで有名な杉の糸桜のある薬師堂は、小高い見晴らしの良い所にあります。

この境内に登る石だんの中ごろに仁王門があり、仁王様がいかめしい顔でにらみをきかせています。この仁王様は、昔、川上から大こう水の時に流されてきてここにたどり着きました。それからずっとここにいるのです。

それは、今から500年ほど前の大こう水の時の話です。それまで今の会津美里町新鶴の、田子薬師への登り口にありましたが、かつてない大こう水だったため、さすがの仁王様もおし流され、大目玉を開けたままどんどん流されてしまいました。

その時東風がふいとみられ、川下の杉村にたどり着きました。村の人たちはさっそく、どろを洗い流し、薬師堂境内にまつりました。そのうわさを聞いた新鶴の村人は、杉村に仁王様をもらいに行くと杉村の人々は「こんな大こう水で、せっかくさずかったのだから、だれが何と言ってもこの村から動かさない。」とがんばってききませんでした。

それ以来、杉の薬師堂を見守っているとのことです。

その後、杉の仁王様と塔寺の仁王様が大げんかをしたことがあったそうです。その取り組みの時、塔寺の仁王様が



どろ田に投げ飛ばされたそうです。そのため今でも体が黒いとか。また、杉の仁王様は乳首をかじられたので、それがなくなってしまったそうです。

だい みや や じゅうろう 台ノ宮の弥十郎きつね

台ノ宮の神社は今でこそきれいな公園ですが、昔は昼も暗くジャングルのように、お宮にお参りするときは日中でもちょうちんを下げていました。

ここにはきつねの巣がたくさんあり、その中に弥十郎という女に化けるきつねが住んでいました。男たちはよくだまされて頭をぼうずにされていました。

ある日、青年たちが、頭をぼうずにされなかった者には望みの品をくれるというかけをしました。しかし先に行った何人かは丸ぼうずにされてしまいました。そこで自分の番が来たある青年は、自分はだまされずに品をもらってやろうと決心して、きつねの出るのを待ちました。ほどなく、やぶの中で音がしたと思ったら、とつぜん美人があらわれ、*馬の沓をひょいとかたにかけたかと思うとそれが赤ん坊に変わりました。いよいよ自分をだます気かなと思いながら見ていると、化け女はある家に行き家の中で話し始めました。それをのぞき見た青年は「その女はきつねが化けたのだ。だまされないように。」と注意しました。すると親父さんは大變おこって、青年をつかまえて打ちのめしました。

その時、おぼうさんが通りかかり、じじょうを話した後弟子入りすることになりました。おぼうさんの弟子なのですぐに頭をそることに

※馬の沓:ひづめや足の裏を守るために馬にはかせたわらぐつ。

なりましたが、とてもいたくてたいへんでした。青年は頭をかくしながら仲間^{なかま}のところまで来て、きつねが女に化けたのを見やぶったが、男に打ちのめされたことを話しました。仲間がそっと青年の後ろに回って頭の手ぬぐいをとったら、でこぼこ頭の丸ぼうずで、所々にむしり^{のこ}残りの毛が残っていたそうです。



会津坂下町には、たくさんの言い伝^{つた}えがあるんだね。

なんで坂下^{ばんげ}なの

会津出身の人であれば、「坂下」と書いて「ばんげ」と自然^{しぜん}に読むことができますが、一^{いっ}ばん^{てき}的にはなかなかよむことができません。そこで、「坂下」の由来について調べてみました。

「ばんげ」とはアイヌ語で「ばっけ」「はけ」のなまったものではないかともいわれています。「ばっけ」とは、がけのような地形をさします。つるぬまがわ^{つるぬまがわ}は、やく^{やく}500年近く前まで大きな川でした。古坂下^{こばんげ}の台ノ宮公園^{だいみや}の東側^{ひがしがわ}を囲むように流れていたといひます。台ノ宮公園^{ふきん}付近はまさに半島のようながけであったと考えられます。また、「ばっけ」には「ふきのとう」という意味もあります。台ノ宮公園のがけ

は、春の初めにはふきのとうでおおわれていたかもしれません。

次に、「坂下」といつからよばれたかと資料で調べてみると、今から約500年近く前の書物に「坂下」と記されています。

いずれにせよ「坂下」の由来やいつからよばれるようになったかは、はっきり分かりません。

また、昔の書物を調べてみると、「ばんげ」を番下とも坂下とも書いたようです。その後「ばんげ」は全て坂下と書かれるようになったようです。

会津坂下町には、このほか高寺伝説などもあり、本当になぞめいたところでは、



わたしたちの会津坂下町

9. これからの会津坂下町と わたしたちの心がまえ

町の将来像^{しょうらいぞう}の「好き^す！すき！ばんげ」には、自分が好き、人が好き、地いきが好き、子どもからお年よりまで「ばんげ」を好きになれるような町にしたいという願い^{ねが}がこめられています。

その願いを実現^{じっげん}するためには、まず自分が住んでいる町を知ることが一番大事です。そうすると、今まで気づかなかった新しい発見が生まれ、昔から今までの歴史^{れきし}のつながり、人と人とのつながり、地いきと地いきのつながり、そして人と地いきのつながりがわかります。

いろんなつながりがわかることで、会津坂下町が大好きになると思います。また、わたしたちの町の将来^{しょうらい}をどうしなければならないのか、大好きな町を未来^{のこ}に遺すには何をしなければならないのか見えてくるはずです。

今後、わたしたちの生活は、時代とともに変化^{へんか}し、大きくうつり変わっていき、いく度となく問題が生じてくるはずです。問題をかい決するためには、一人一人しっかり考え、行動しおたがいに協力^{きょうりょく}し助け合うことが重要^{じゅうよう}となります。

もっともっと大好きな町にできるのは、きみたち、あなたたちです。自分の生まれ育った町にほこりを持ち、今何ができるのか、将来大人になったら何をすべきか、みんなで話し合ってみましょう。

会津坂下町の原始～近世のあゆみ

時代	会津坂下町の主な遺跡とできごと		日本や会津のおもなできごと		
約3万年前 約2万年前	旧石器時代	次郎坂遺跡 (ナイフ型石器) (川西)	日本に人が住み始める ナイフ形石器などを使用する ウルム氷期最寒冷期		
		鍛冶山遺跡 (荒屋型彫刻刀石器) (川西)			
約1万3000年前	縄文時代	早期 大村新田遺跡 (擦糸文土器) (若宮)	縄文時代の温暖期 (縄文海進)		
約5500年前		前期 出崎山遺跡 (常世式土器) (川西)		沼沢噴火	
		中期 次郎坂遺跡 (川西) 経塚遺跡 (八幡)			
		中期 勝負沢遺跡 (川西) 北川前遺跡 (複式炉) (川西) 花畑遺跡 (川西)			火炎系土器が造られる
		後期 大門遺跡 (八幡) 竈原遺跡 (川西)			
約2400年前	晚期 袋原遺跡 (川西) 鬼波A遺跡 (若宮)	亀ヶ岡文化が栄える			
	弥生時代	経塚遺跡 (八幡) 能登遺跡 (天王山式土器) (若宮) 細田遺跡 (若宮)	九州地方で米作りが始まる 鉄器や青銅器が使われる 239 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る		
約1700年前	古墳時代	前期 稲荷塚遺跡 (方形周溝墓) (坂下) 男壇遺跡 (広瀬) 杵方森古墳 (前方後円墳) (坂下) 森北1号墳 (舟形木棺) (川西) 宮ノ北遺跡 (管玉工房跡) (広瀬) 亀ヶ森・鎮守森古墳 (広瀬)	前方後円墳が造られる 会津地方で大型古墳が造られる		
		中期 長井前ノ山古墳 (合掌形石棺) (川西) 中平遺跡 (平地式住居跡) (川西)	須恵器が造られる 埼玉県稲荷山古墳鉄剣がつくられる		
		後期 経塚古墳 (形象埴輪) (八幡) 樋渡台畑遺跡 (若宮) 鍛冶山古墳 (横穴石室) (川西) 鬼波古墳群 (横穴墓) (若宮)			

時代		会津坂下町の主な遺跡とできごと	日本や会津のおもなできごと
約 1300 年前	飛鳥・奈良・平安時代	大江古屋敷遺跡（郷衙）（若宮） 四百刈遺跡（若宮） 萩ノ窪窯跡（須恵器窯跡）（川西） 仲丸遺跡（製鉄跡）（八幡） 北遠面遺跡（広瀬） 宮ノ北遺跡（川西） 陣が峯城跡（二重堀）（川西） 薬王寺遺跡（園池＝池跡）（八幡）	604 十七条の憲法 645 大化の改新 672 壬申の乱 701 大宝律令 710 都を平城京へ移す 794 都を平安京へ移す この頃徳一が慧日寺建立 935 平将門の乱 1051 前九年の役 この頃蟻河荘が成立 1181 横田河原合戦
約 800 年前	鎌倉・室町・安土桃山時代	中丸C遺跡（若宮） この頃恵隆寺観音堂が建てられる 古館遺跡（広瀬） この頃栗村堰が完成する 樋渡台畑墳墓群（若宮） 1350 塔寺八幡宮長帳の記載がはじまる 的場館遺跡（八幡） 1536 会津大洪水（白鬚の水）が起こる この頃富川堰が完成する 館ノ内遺跡（若宮） 金上城跡（金上） 1589 摺上原の戦いが起こる 金上盛備、栗村満盛が戦死する 1595 坂下・栗村大火が起こる 栗村と坂下を合わせて坂下村となる	1189 奥州合戦 1192 鎌倉幕府を開く 1336 南北朝動乱 1415 輩名氏、新宮城を攻める 1419 会津大洪水 1467 応仁の乱 1543 鉄砲伝来 1590 奥羽仕置
約 400 年前	江戸時代	大清水遺跡〔排水路〕（川西） 1625 坂下村に現在の街並みの基礎ができる（町割） 六斎市が開かれる 1658 牛沢新堀堰が完成する 1723 坂下村で大火（もぐら焼け）が起こる 御池田山ノ神遺跡（広瀬） 1728 坂下村で大火が起こる 1729 旧五十嵐家住宅（国重要文化財）が建てられる 真徳寺跡（高寺） 1748 坂下村で大火（四ツ屋火事）が起こる 1764 立川村に藍栽培始まる 杉窯跡（八幡） 1830 加水堰が完成する	1600 関が原の戦い 1603 江戸幕府を開く 1611 会津大地震 1643 保科正之が会津の領主となる 1809 「新編会津風土記」が完成する 1868 戊辰戦争

会津坂下町の近代・現代のあゆみ

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
明治元年 (1868年)	○坂下に民政局分局がおかれる。 ○西軍が坂下・塔寺・宇内に進む。坂下村で百姓一揆が起こる。片門・天屋・本名・杉山などで百姓一揆が起こる。	○明治維新。 ○戊辰戦争で鶴ヶ城が落城する。
明治2年 (1869年)	○坂下の民政局が廃止され、代わって若松県庁の取締所がおかれる。 ○中野竹子の墓が本町法界寺に建立される。	○版籍奉還。 ○若松県がおかれる。
明治4年 (1871年)	○若松県下が区に分けられ、現在の会津坂下町では、牛沢組十八区、坂下組十九区、青津組二十区、野沢組五十一区に分けられる。	○廃藩置県。 ○郵便制度施行。
明治5年 (1872年)	○坂下村に若松警察署坂下分署がおかれる。	○学制公布。 ○新橋―横浜間の鉄道開通式が行われる。 ○太陽暦を採用する。
明治6年 (1873年)	○坂下、若宮、金上、広瀬、川西、八幡、高寺の各地区に小学校ができる。	
明治7年 (1874年)	○坂下村に坂下郵便取扱所が開設される。	
明治9年 (1876年)		○若松・福島・磐前の3県がまとまり、今の福島県となる。
明治10年 (1877年)	○坂下村上町・同中町・同下町・横古町の4町村が合併して坂下町となる。	○西南戦争が起こる。
明治12年 (1879年)	○郡区編制により坂下町に河沼郡役所がおかれる。 ○坂下町新町から出火、ほとんど全町を焼く(ペコ屋火事と称す)	
明治13年 (1880年)	○若松警察署坂下分署が坂下警察署となる。	
明治14年 (1881年)	○坂下町に治安裁判所出張所がおかれる。 ○宮古橋(船橋)ができる。	
明治15年 (1882年)	○坂下町に製糸所が創業する。	○安積疎水が完成する。
明治17年 (1884年)	○藤橋(現藤大橋)ができる。	
明治21年 (1888年)		○磐梯山が噴火する。
明治22年 (1889年)	○若宮村・金上村・広瀬村・川西村が誕生する。	○大日本帝国憲法が公布される。 ○市制・町村制が施行される。
明治24年 (1891年)	○富川堰普通水利組合ができる。	
明治25年 (1892年)	○牛川新堀水利組合ができる。	
明治27年 (1894年)	○加水堰普通水利組合ができる。	○日清戦争が始まる。
明治29年 (1896年)	○坂下町に絹織物伝習所ができる。	○三陸地震津波が発生する。
明治30年 (1896年)	○坂下町大火。焼失住家182戸。半焼86戸の被害がある。	
明治31年 (1898年)	○坂下町内から出火(薬用人参乾燥場)住家など300戸が焼ける。	○若松町が若松市になる。 ○会津地方に赤痢が大流行する。
明治32年 (1899年)	○煙草製造業および葉煙草売買業が始まる。	○若松町が若松市になる。 ○会津地方に赤痢が大流行する。

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
明治 33 年 (1900 年)		○会津電力株式会社がつくられる。
明治 36 年 (1903 年)	○私立坂下講学堂・私立坂下幼稚園が設置される。 ○坂下郵便局となる。	
明治 37 年 (1904 年)	○恵隆寺観音堂が特別保護建造物(現国重文)に指定される。	○岩越鉄道(現磐越西線)若松―喜多方間の鉄道が開通する。 ○日露戦争が起こる。
明治 38 年 (1905 年)	○坂下町内から出火。184 棟が焼ける。	○ポーツマス条約を調印する。
明治 40 年 (1907 年)	○河沼郡立農業学校(現会津農林高等学校)が開校する。	○小学校の義務教育が6年となる。
明治 43 年 (1910 年)	○坂下町に特設電話が開通する。 ○若松一坂下間に県下で初めて乗合自動車が走る。 ○坂下町に絹糸の製糸工場ができる。	○韓国を併合する。
明治 44 年 (1911 年)	○坂下町字市中三番より出火。321 戸が焼ける。	
明治 45 年 大正元年 (1912 年)		○明治天皇没、大正と改元する。
大正 2 年 (1914 年)	○暴風雨により坂下町では宮川・只見川が洪水となり、浸水家屋 605 戸、床下 218 戸、流失家屋 3 戸。宮川の堤防も決壊する。	
大正 3 年 (1914 年)	○大雨で宮川の堤防が決壊する。浸水家屋 500 戸、田畑流失埋没の被害となる。	○岩越鉄道(現磐越西線)が全線開通する。 ○猪苗代発電所が完成する。 ○第一次世界大戦が起こる。
大正 4 年 (1915 年)	○私立坂下講学堂が廃止される。 ○塔寺村恵隆寺の木造千手観音立像が国宝(現国重文)に指定される。	
大正 6 年 (1917 年)	○広瀬村に綿織物工場ができる。	
大正 7 年 (1918 年)	○坂下町で米騒動が起こる。	○シベリア出兵。 ○富山県で米騒動が起き、全国へ拡大する。
大正 9 年 (1920 年)	○川西村(上宇内薬師堂)の本尊木造薬師如来坐像が国宝(現国重文)に指定される。	
大正 10 年 (1921 年)	○広瀬村にさらに綿織物工場が増える。	
大正 12 年 (1923 年)	○八幡村が誕生する。	○関東大震災が起こる。
大正 13 年 (1924 年)	○坂下町に初めて水道が引かれる。	
大正 15 年 昭和元年 (1926 年)	○会津線(現只見線)が会津若松駅―会津坂下駅まで開通する。 これにより会津坂下駅ができる。	○大正天皇没。昭和と改元。
昭和 2 年 (1927 年)	○大雨で湯川、阿賀川、鶴沼川の各川が出水する。坂下町は床下浸水 300 戸、水田埋没 10 町歩、橋流失 3ヶ所の大被害となる。	
昭和 3 年 (1928 年)	○会津線(現只見線)に塔寺駅・坂本駅ができる。	○会津線(現只見線)が会津坂下駅―会津柳津駅まで開通する。
昭和 4 年 (1929 年)	○心清水八幡神社の塔寺八幡宮長帳が国宝(現国重文)に指定される。	
昭和 5 年 (1930 年)	○広瀬村青木一堂島村大沢へ会青橋(船橋)が完成する。	

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
昭和9年 (1934年)	○会津線（現只見線）に若宮駅ができる。	○会津線（現会津鉄道）会津若松—会津田島間が開通する。
昭和13年 (1938年)		○喜多方—熱塩を結ぶ日中線が開通する。
昭和16年 (1941年)		○太平洋戦争がはじまる。 ○会津線（現只見線）が会津宮下駅までのびる。
昭和19年 (1944年)	○坂下保健所（のちの会津保健福祉事務所会津坂下支所）が開所する。	○学童集団疎開が東京から猪苗代・若松・坂下など会津地域へ来る。
昭和20年 (1945年)	○坂下町は坂下高等女学校校舎の一部を仙台陸軍幼年学校に貸付使用とする。	○広島・長崎に原子爆弾が落とされる。 ○太平洋戦争が終わる。
昭和23年 (1948年)	○市町村農業会は解散し、農業協同組合に改める。 ○若宮公民館が開設される。	○新制高等学校発足。
昭和24年 (1949年)	○金上、広瀬、川西、八幡の各地区に公民館が開設される。	
昭和25年 (1950年)	○坂下公民館が開設される	
昭和26年 (1951年)	○牛川堰普通水利組合は牛川新掘土地改良区に組織変更する（現在は会津宮川土地改良区）。 ○栗村堰普通水利組合は栗村土地改良区に組織変更する。 ○坂下町に保育所ができる。	○サンフランシスコ講和会議で対日平和条約・日米安全保障条約調印。
昭和28年 (1953年)	○片門・柳津・沼沢沼・宮下発電所合同竣工式を実施する。 ○心清水八幡神社の鉄鉢が県重要文化財に指定される。	○会津線（現会津鉄道）荒海（現会津荒海）—会津滝ノ原（現会津高原尾瀬口）間が開通する。 ○テレビの本放送が始まる。 ○会津まつりが始まる。
昭和29年 (1954年)	○坂下警察署が会津坂下警察署と名称をかえる。 ○福島県立会津農業高等学校より通常課程普通科を分離して福島県立坂下高等学校が開校する。 ○高寺村・片門村・東松村が合併して高寺村となる。	○喜多方町が喜多方市になる。
昭和30年 (1955年)	○坂下町・若宮村・金上村・広瀬村・川西村・八幡村の1町5か村が合併して会津坂下町となる。高寺村は、耶麻郡高郷村（現喜多方市高郷町）に編入される。 ○町長選挙が行われる。 ○会津坂下町立坂下幼稚園が開園する。 ○福島県立坂下高等学校が、福島県立会津農林高等学校から移転する。 ○高寺公民館が開設される。	○柳津町・会津高田町など6町3村が誕生する。 ○若松市が会津若松市になる。
昭和31年 (1956年)	○第1回町議会議員選挙が行われる。 ○豪雨により坂下・若宮地区に大きな被害がある。 ○初市の依引きが復活する。	○会津地方に大水害が起こる。（被害5億円）
昭和32年 (1957年)	○町営住宅の建設が始まる。 ○第1回町民体育祭が開かれる。 ○第1回町産業文化祭が開かれる。	○湯川村が誕生する。
昭和33年 (1958年)	○坂下第一中学校が開校する。 ○坂下厚生病院が開院する。 ○広瀬・川西地区が水害により大きな被害を受ける。	
昭和34年 (1959年)	○若宮・金上・広瀬・川西・八幡の各地区に町立幼稚園が開園する。 ○町内大通りにネオンアーチができる。 ○心清水八幡神社の鯛口が国重要文化財に指定される。	○田子倉発電所が送電を始める。 ○磐梯吾妻スカイラインが開通する。
昭和35年 (1960年)	○高郷村（現喜多方市高郷町）高寺地区が会津坂下町に編入される。	○背炭山にNHKテレビ中継局ができる。 ○カラーテレビ放送が始まる。
昭和36年 (1961年)	○町役場庁舎が改築される。 ○坂下第二中学校が開校する。 ○町立片門幼稚園が開園する。	

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
昭和37年 (1962年)	<ul style="list-style-type: none"> ○片門地区重門治原開田事業に着手する。 ○上宇内薬師堂の古絵馬が県重要有形民俗文化財に指定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○奥只見ダムが完成する。 ○三森トンネルが開通する。
昭和38年 (1963年)	<ul style="list-style-type: none"> ○西部広域簡易水道事業が着工する。 ○記録的な豪雪により自衛隊を要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津線(現只見線)会津若松―只見間が開通する。 ○新潟水保病が発生する。
昭和39年 (1964年)	<ul style="list-style-type: none"> ○北裏バイパス(現国道49号線)が開通する。 ○新潟地震がおきる。町の被害総額は1億8,000万円となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新潟地震が起こる。 ○鶴ヶ城天守閣の再建工事が始まる。 ○東京オリンピックが開催される。
昭和40年 (1965年)	<ul style="list-style-type: none"> ○町章が制定される。 ○町消防団に常備消防部ができる。 ○西部広域簡易水道が完成する。 ○農協が合併(若宮・金上・川西・八幡・高寺)し、会津坂下町農協ができる。 ○大雨で各川が決壊、氾濫する。住家床下浸水400戸の被害となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鶴ヶ城再建工事が完了する。
昭和41年 (1966年)	<ul style="list-style-type: none"> ○北裏バイパスが舗装開通する。 ○坂下電報電話局が自動化となる。 ○塔寺立木観音境内に春日八郎の「別れの一本杉」歌碑を建立する。 ○青木区正徳寺の絹本著色十六善神像、茶屋町光照寺の絹本著色光明本尊が県重要文化財(絵画)に指定される。中政所区定徳寺の木造薬師如来坐像が県重要文化財(彫刻)に指定される。 	
昭和42年 (1967年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町民体育館が完成する。 ○喜多方市、会津坂下町ほか2町2か村による清掃センター業務が始まる。 ○天屋束松群が県天然記念物に指定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○磐越西線郡山―喜多方間の電化が完成する。
昭和43年 (1968年)	<ul style="list-style-type: none"> ○国道49号線七折峠(現旧国道)が舗装改良され開通する。 ○旧五十嵐家住宅が県重要文化財に指定される。 	
昭和44年 (1969年)	<ul style="list-style-type: none"> ○集中豪雨で高寺地区に被害がある。被害総額1億2,300万円となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国道49号線藤トンネルが開通する。
昭和45年 (1970年)	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食センターが新築される。 ○上水道第三次拡張事業が始まる。 ○中央公民館が開設される。 	
昭和46年 (1971年)	<ul style="list-style-type: none"> ○旧五十嵐家住宅が国重要文化財に指定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津線と只見線が統合し、只見線が全線開通
昭和47年 (1972年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津若松地方広域市町村圏整備組合がスタートする。 ○常備消防部が広域消防所坂下出張所となる。 ○西部水道第二次拡張事業が始まる。 ○上開津橋が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○沖縄が日本に返還される。 ○札幌冬季オリンピックが開催される。
昭和48年 (1973年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下税務署が若松税務署に統合し廃止される。 ○蒸気機関車が坂下小学校(現坂下南小学校)に保存展示される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○西吾妻スカイバレーが開通する。 ○国道252号が全線開通する。
昭和49年 (1974年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津農業センターが開設される。 ○会津坂下町老人福祉センターがオープンする。 ○会津坂下町農協と広瀬農協が合併する。 ○第一回歩行者天国を実施する。 ○緑町公園が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○猪苗代で国体スキー競技会が開催される。 ○只見線でSL最後の運転がされる。
昭和50年 (1975年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町農協会館(現パストラルホール BANGE)が完成する。 ○商工会館が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○母成グリーンラインが開通する。 ○野口英世誕生100年祭。
昭和51年 (1976年)	<ul style="list-style-type: none"> ○町営スキー場がオープンする。 ○亀ヶ森・鎮守森古墳が国の指定史跡となる。 ○防雪会津坂下サブセンターが完成する。 ○諏訪公園が完成する。 	

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
昭和52年 (1977年)	<ul style="list-style-type: none"> ○薄新六・齋藤清が名誉町民となる。 ○第一回町民スキー大会が開かれる。 ○桜ヶ丘公園が完成する。 ○富川加水土地改良区が阿賀川土地改良区と名称変更をする。 ○広域消防会津坂下出張所が広域消防会津坂下分署となる。 	
昭和53年 (1978年)	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食で米飯給食を実施する。 ○津尻・真木バイパスが開通する。 ○中央公園が完成する。 ○広域消防会津坂下分署が会津坂下消防署となる。 	○宮城県沖地震が起こる。
昭和54年 (1979年)	<ul style="list-style-type: none"> ○稻荷塚公園が完成する。 ○『会津坂下町史』全3巻が完成する。 	
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ○袋原大橋が開通する。 ○塔寺バイパスが開通する。 ○高寺運動場が完成する。 ○牛沢公園が完成する。 ○町営スキー場の全施設が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津地方に豪雪。 ○冷夏で稲作に大被害。 ○国道121号線山王トンネルが開通する。
昭和56年 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町民歌・会津坂下音頭が完成する。 ○福島県会津少年自然の家（現会津自然の家）が開所する。 ○春日八郎・小林五浪が名誉町民となる。 ○会津坂下町老人生きがいセンターが完成する。 	○会津宮川地区国営かんがい排水事業に着工する。
昭和57年 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> ○夏祭に「二万人の流し踊り」が登場する。 ○福祉電話を設置する。 ○高橋藤園が名誉町民となる。 ○会津坂下町農業協同組合が会津坂下農業協同組合となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○駒止トンネルが開通する。 ○東北・上越新幹線の一部が開通する。
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ○県道会津坂下一塩川線の立川橋が開通する。 ○塔寺いこいの森が完成する。 ○会津坂下警察署がバイパスに新築移転する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○喜多方プラザがオープンする。 ○東京ディズニーランドが開業する。
昭和59年 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> ○坂本工業団地の第一期が完成する。 ○高寺公民館「婦人の家」が完成する。 ○塔寺山いこいの森が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日中線がなくなる。 ○野岩線の呼称を会津鬼怒川線と決定する。
昭和60年 (1985年)	○町民憲章と町の花（菊）、木（桜）、鳥（うぐいす）が決定する。	○会津大橋が開通する。
昭和61年 (1986年)	○坂下郵便局が新築移転する。	<ul style="list-style-type: none"> ○会津鬼怒川線が開通する。 ○福島県立博物館が開館する。
昭和62年 (1987年)		<ul style="list-style-type: none"> ○大川ダムが完成する。 ○国鉄がJRとなる。
昭和63年 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町中央・坂下公民館（現会津坂下町中央公民館）が完成する。 ○鶴沼緑地公園が完成する。 	○本郷大橋が開通する。
昭和64年 平成元年 (1989年)	○花ちゃん公園を建設する。	<ul style="list-style-type: none"> ○昭和天皇没、平成と改元される。 ○土湯トンネルが開通する。 ○国道49号線中山トンネルが開通する。
平成2年 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町健康管理センターを建設する。 ○星扶が名誉町民になる。 ○坂下一東原線が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津鉄道電化完成し、東京浅草へ直行運行となる。 ○馬越じょう水場が完成する。
平成3年 (1991年)	○ばんげひがし公園内に鶴沼球場を建設する。	<ul style="list-style-type: none"> ○磐越自動車道磐梯熱海一猪苗代間が開通する。 ○東北新幹線が東京駅に乗り入れをする。

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ステーションばんげ南公園を建設する。 ○ふるさと創生事業の一環として海外派遣事業が始まる。 ○船窪区に故春日八郎の「別れの一本杉」歌碑を建立する。 ○磐越自動車道猪苗代一会津若松一会津坂下間が開通する。 ○カントリーエレベーターが完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○喜多方一米沢間大峠トンネルが開通する。 ○月1回の学校週5日制が始まる。
平成5年 (1993年)	<ul style="list-style-type: none"> ○公共下水道の一部供用が始まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県立会津大学が開学する。 ○福島空港が開設される。
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> ○湯トピアばんげ（現系桜里の湯ばんげ）がオープンする。 ○ばんげひがし公園町民プールがオープンする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津若松市に会津風雅堂が開館する。
平成7年 (1995年)	<ul style="list-style-type: none"> ○春日八郎記念公園・おもいで館が完成する。 ○国民体育大会秋季大会デモンストレーション行事の綱引き競技が開催される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第50回国民体育大会（ふくしま国体）が開かれる。 ○阪神・淡路大震災が起こる。 ○月2回の学校週5日制が始まる。
平成8年 (1996年)	<ul style="list-style-type: none"> ○農村環境改善センターが完成する。 ○安兵衛通りが開通する。 ○磐越自動車道の会津坂下一西会津間が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勝常寺の薬師三尊が国宝に指定される。
平成9年 (1997年)	<ul style="list-style-type: none"> ○中央公民館図書館にパソコンが設置される。 ○ばんげひがし公園の多目的広場遊具が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○磐越自動車道が全線開通する。
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> ○森北古墳群発掘調査により前方後方墳から東北初の銅鏡が発見される。 ○河沼郡と大沼郡の9農協が合併し会津みどり農業協同組合（JA 会津みどり）となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長野冬季オリンピックが開催される。
平成11年 (1999年)		<ul style="list-style-type: none"> ○会津若松市で地域文化サミットが開催される。
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> ○大堀勉が名誉町民になる。 ○町内の全小学校にパソコン整備が完了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○九州・沖縄サミットが開催される。
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> ○記録的な豪雪となる。 ○五浪美術記念館がオープンする。 ○中平遺跡で東北初の平地式住居跡が発見される。 ○長井前ノ山古墳から県内初の合掌形石室が発見される。 ○「町のイメージキャラクター」バンビができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○うつくしま未来博が開催される。
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> ○森北1号古墳出土遺物が県重要文化財に指定される。 ○国道49号線坂本バイパス（七折峠トンネル）が開通する。 ○坂下南幹線の牛沢街道－高田街道間が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日韓共催のサッカーワールドカップが開催される。 ○完全学校週5日制が始まる。
平成15年 (2003年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町まちづくり基本条例を施行する。 ○「スポーツイベント全国チャレンジデー」に初参加する。 ○ふれあいプラザばんげがオープンする。 ○名誉町民の故春日八郎のブロンズ像除幕式がJR会津坂下駅前で行われる。 ○会津坂下町・柳津町・三島町・金山町・昭和村の両沼5町村合併検討協議会が発足する 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民基本台帳ネットワークが本格稼働する。 ○十勝沖地震が起こる。 ○新宮川ダムが完成する。
平成16年 (2004年)	<ul style="list-style-type: none"> ○両沼5町村合併協議会が設置される（同年破綻）。 ○自主公民館がスタートし、生涯学習推進員が配属される。 ○ばんげファミリーサポートセンターがオープンする。 ○公共下水道東処理区の一部供用を開始する。 ○坂下東浄化センター通水式を行う。 ○「2004 ふくしまふるさとCM大賞」で大賞を受賞する。 ○大雨により住居26世帯、非住居8ヶ所が床下浸水する。樋渡・水島区に避難勧告が出される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新潟県中越地震が起こる。 ○北会津村が会津若松市に編入される。

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
平成 17 年 (2005 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○資源ごみのプラスチック回収を開始する。 ○第 7 回全日本ジュニア綱引き選手権大会中高中生部門(ユース 480 キロ以下)で若宮スピリッツが優勝する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津高田町、会津本郷町、新鶴村が合併して会津美里町となる。 ○河東町が会津若松市に編入される。
平成 18 年 (2006 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○見明山町営スキー場の営業を休止する。 ○町指定可燃ごみ袋と不燃ごみ袋が新しくなる。 ○坂下南幹線が全線開通する。 ○都市計画道路坂下南幹線が全線開通する。 ○農業集落排水陣が峯城浄化センターの通水を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○喜多方市、塩川町、山都町、高郷村、熱塩加納村が合併して喜多方市となる。 ○田島町、伊南村、館岩村、南郷村が合併して南会津町となる。 ○「会津ナンバー」がスタートする。
平成 19 年 (2007 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○農地・水・環境保全向上対策事業を開始する。 ○陣が峯城跡が国史跡に指定される。 ○小学生までの医療費が無料化される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○郵政民営化。 ○新潟県中越沖地震が起こる。
平成 20 年 (2008 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○川西・八幡・片門小学校および幼稚園を坂下小学校・坂下幼稚園に統合する。 ○早乙女踊りが会津農林高校生徒と地域の人達により復活する。 ○資源ごみとして紙パック・てんぶら廃食油の収集を開始する。 ○町道中村線が開通する。 	
平成 21 年 (2009 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○医療費無料化が中学 3 年生まで拡大される。 ○会津保健福祉事務所会津坂下支所が会津保健福祉事務所(本所)に統合される。 	
平成 22 年 (2010 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○史跡陣が峯城跡から出土した遺物約 400 点が、県重要文化財に指定される。 ○家庭系ごみの有料化を開始する。 ○川西公民館が旧川西小学校へ移転する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東北新幹線が全線開通する。
平成 23 年 (2011 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災の発生によって、町内では家屋・土蔵など全壊・半壊等 170 件以上多大な被害がでる。 ○町内に被災地の葛尾村、南相馬市等から川西公民館、農業改善センター、会津自然の家、一般家庭などへ約 1000 名が避難する。 ○只見川水系が大洪水となる。町内では、片門・舟波・和泉・平井で避難勧告が出される。 ○学校給食センターを移転・改築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災が発生する。地震、津波および福島第一原子力発電所から放射性物質が放出される。 ○洪水により只見線会津坂下駅-小出駅(新潟県)が不通となる。
平成 24 年 (2012 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○坂下第一中学校・第二中学校を統合し、坂下中学校が開校する。 ○大雨により樋渡区に避難勧告が出される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○北太平洋上を中心に金環日食が観測される。 ○東京スカイツリーが開業する。 ○只見線只見駅-大白川駅(新潟県)の運転を再開する。不通区間の会津只見駅-会津川口駅は代行バスの運行が続けられる。
平成 25 年 (2013 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○坂下小学校の一部・若宮小学校および坂下幼稚園の一部・若宮幼稚園を統合し坂下南小学校・坂下南幼稚園が開校・開園する。 ○坂下小学校の一部・金上・広瀬小学校および坂下幼稚園の一部・金上・広瀬幼稚園を統合し、坂下東小学校・坂下東幼稚園が開校・開園する。 ○各地区公民館がコミュニティセンターになる。 ○国道 49 号線-高田街道入口間の坂下羽林線が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○福島県の子育て支援策により 18 歳以下の県民の医療費が無料化になる。 ○富士山が世界遺産に登録される。 ○「和食」が世界無形文化遺産に登録される。
平成 26 年 (2014 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○「道の駅あいつ 湯川・会津坂下」がオープンする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長野県・岐阜県にまたがる御嶽山が噴火。57 人の死者をだした。
平成 27 年 (2015 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域おこし協力隊 1 名が移住する。 ○「ふくしま本の森図書館」がオープンする。 ○会津坂下町の除染作業が終了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○常磐自動車道が全線開通する。 ○中間貯蔵施設への搬入が始まる。 ○北陸新幹線が開業する。

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
平成 28 年 (2016 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○広瀬コミュニティセンターがリニューアルオープンする。 ○坂下南幼稚園新園舎が完成する。 ○会津農林高校の「早乙女踊り保存クラブ」、「人と種を繋ぐ会津伝統野菜専攻班」が全国表彰を受賞する。 ○「会津の三十三観音めぐり」が日本遺産に選出される。 ○坂下南小学校のプールが完成する。 ○境ノ沢古墳群より銅鏡が出土する。 ○除染土のう全量の搬出を完了する。 ○高砂屋商店が全国醤油品評会で農林水産大臣賞を受賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マイナンバーカード交付を開始する。 ○選挙権年齢 18 歳に引き下げられる。 ○県内 16 の JA が再編し、4 つの JA が誕生する。 ○福島県沖でマグニチュード 7.4 の地震が起こる (最大震度 5 弱)。
平成 29 年 (2017 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○環境省に除染措置完了を登録する。 ○「2016 ふくしまふるさと CM 大賞」で県知事賞を受賞する。 ○阿賀川の洪水情報 (エリアメール) を配信開始する。 ○子育てふれあい交流センターが開所する。 ○タイ・マレーシアで会津みしらず柿を販売する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○九州北部豪雨により、死者・行方不明者 41 人となる。 ○東北自動車道福島大笹生 IC - 米沢北 IC (山形県) が開通する。 ○川俣町山木屋地区、浪江町、飯館村、富岡町の避難指示が解除される。
平成 30 年 (2018 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○「2017 ふくしまふるさと CM 大賞」で町村会会長賞を受賞する。 ○ばんげ読み聞かせの会が文部科学大臣賞を受賞する。 ○JR 只見線にて「うたごえ列車」が運行される (会津坂下 - 会津川口間)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○戊辰戦争 150 周年により各地で式典が行われる。 ○南相馬市で全国植樹祭が行われ、両陛下がご出席される。 ○西日本豪雨により、死者 220 人以上となる。
令和元年 (2019 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町埋蔵文化財センター常設展示室がオープンする。 ○会津坂下消防署庁舎が完成する。 ○早乙女踊り幻の舞「扇舞」が約 70 年ぶりに復活する。 ○健康増進法改正により町有施設敷地が全面禁煙となる。 ○プレミアム付商品券が販売される (消費税・地方消費税率 10% への引き上げの影響の緩和と消費喚起)。 ○葛尾村と地域間交流協定を締結する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成天皇退位。令和と改元される。 ○消費税率が 10% へ引き上げされる。 ○台風 19 号の記録的大雨で甚大な被害が出る。 ○福島第二原発の廃炉が決定される。 ○J ヴォレジが 8 年ぶりに全面再開する。 ○沖縄の首里城が焼失する。
令和 2 年 (2020 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策本部が設置される。 ○新型コロナウイルス感染症対策により町内小・中・高校が臨時休校となる。町主催の大規模イベントなどは中止・延期となる。 ○新型コロナウイルス感染症対策のため、緊急事態宣言が発令される (のちに解除)。 ○小・中学校の分散登校を開始する。のちに通常登校が再開する。 ○坂下コミュニティセンターが町役場東分庁舎北側へ移転する。 ○高寺山遺跡より奈良時代の土器が出土する。 ○プレミアム付商品券を販売する (新型コロナウイルス感染症の経済への影響対策のため)。 ○鶴沼球場の愛称「ばんげまち みんなでいこう 鶴沼球場」略称「B M I 鶴沼球場」に決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策のため、緊急事態宣言が出される。 ○東京 2020 オリンピック・パラリンピックが延期となる。 ○JR 常磐線が全線再開する。 ○郡山市で飲食店が爆発し、300 棟以上の建物に被害が出る。
令和 3 年 (2021 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○各祭りを縮小して開催する (夏祭りは中止)。 ○糸桜里の湯ばんげが閉館する。 ○東京オリンピック 2020 聖火ランナーとして会津坂下町から 2 名が参加する。 ○新型コロナ感染症対策のため、成人式が延期される。 ○JR 会津坂下駅前公衆トイレが新しくなる。 ○会津坂下町テレワークセンター (若宮コミュニティセンター) が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催される (福島県では野球とソフトボールの試合を実施)。 ○新型コロナワクチンの接種が開始される。 ○静岡県熱海市で土石流が発生し、死者・行方不明者が 27 名となる。
令和 4 年 (2022 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○各祭りが三年ぶりにほぼ従来どおり開催される。 ○延期されていた令和 3 年度成人式を開催する。 ○令和 4 年度 20 歳のつどいを開催する。 ○(株)若宮ばくさくが農林大臣賞を受賞する。 ○旧五十嵐家住宅 (国指定重要文化財) の保存修理工事が完了する。 ○只見線が全線開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○成年年齢が 18 歳に引き下げられる。 ○安倍元首相が銃撃される。 ○大雨により JR 磐越西線の濁川橋梁の一部が崩落する。 ○只見高校が春のセンバツ甲子園に 21 世紀枠で出場する。
令和 5 年 (2023 年)	<ul style="list-style-type: none"> ○町営駐車場内にみんなのトイレが完成する。 ○県下一の消防団をたたえる「民報金ばれん」が会津坂下町消防団に贈られる。 ○「東北映像フェスティバル 2023 映像コンテスト」の「地域振興コンテンツ部門」で特別賞を受賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが 5 類感染症となる。 ○福島第一原発処理水の海洋放出が開始される。

おもな見学しせつ

令和5年現在

	施設名	住所等	電話番号
1	会津坂下町役場	会津坂下町字市中三番甲 3662 番地	84-1503
2	会津坂下町中央公民館	会津坂下町字五反田 1310 番地 3	83-3010
3	会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町大字福原字殿田 34 番地 BMI 鶴沼球場、町民プール併設	83-3755
4	埋蔵文化財センター	会津坂下町大字青木字青木 139 番地	83-1421
5	ばんげひがし公園	会津坂下町大字福原字殿田 34 番地 BMI 鶴沼球場、町民プール併設	84-1530
6	子育てふれあい交流センター	会津坂下町大字福原字福川原 913 番地	84-1784
7	春日八郎記念公園・おもいで館	会津坂下町字台ノ下 842 番地	84-1233
8	会津坂下町立学校給食センター	会津坂下町大字船杉字村中甲 554 番地	82-4254
9	(社) 会津坂下町観光物産協会	会津坂下町大字青木字青木 139 番地	83-1421
10	子育てふれあい交流センター	会津坂下町字館ノ下 311 番地	84-1784
11	会津坂下警察署	会津坂下町字館ノ下 111 番地 1	83-3451
12	会津坂下消防署	会津坂下町字上柳田 2210 番地 1	83-4100
13	坂下厚生総合病院	会津坂下町字上柳田 2210 番地 1	83-3511
14	介護老人保健施設なごみ	会津坂下町字上柳田 2210 番地 1	83-7530
15	坂下中央浄化センター	会津坂下町字館ノ下 97 番地 1	83-0185
16	会津乗合自動車(株) 坂下営業所	会津坂下町字大道 2408 番地	83-0979
17	JR 会津坂下駅	会津坂下町字五反田 1270 番地	82-3972
18	会津よつば農業協同組合	会津坂下町字東南町裏甲 3985 番地 1	83-2424
19	COOP BESTA ばんげ	会津坂下町字館ノ下 218 番地	83-1391
20	リオン・ドール坂下店	会津坂下町字館ノ下 18 番地	83-5111
21	会津中央乳業(株)	会津坂下町大字金上字辰巳 19 番地 1	83-2324
22	太郎庵(本社工場)	会津坂下町字館ノ下 218 番地	83-3267
23	会津若松地方広域市町村圏整備組合 環境センター	会津坂下町字館ノ下 18 番地	27-9004
24	会津若松地方広域市町村圏整備組合 用水供給課	会津美里町大字穂馬字宮ノ上乙 1010 番地	56-4192
25	福島県会津農業総合センター会津地域研究所	会津坂下町大字見明字南原 881 番地	82-4411
26	国土交通省 北陸地方整備局 阿賀川河川事務所 大川ダム管理支所	会津若松市大戸町大字大川字李平乙 121 番地	92-2839
27	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	湯川村大字佐野日字五丁ノ目 78 番地 1	(0241) 27-8853

発行・編集にたずさわった人々

○監	修	会津坂下町教育委員会教育長	佐藤	玄
○企画・立案	前同		堀幸一	一郎
○校	閱	会津坂下町立若宮小学校長	松原	実
	同	金上小学校長	大沼	辰雄
	同	広瀬小学校長	山口	健
○編集・執筆委員				
委員	長	会津坂下町立坂下小学校長	滝沢	玲子
前委員	長	同	五十嵐	長孝
副委員	長	会津坂下町立坂下小学校教頭	長澤	健治
委員		同 教諭	久保田	義春
委員		同 教諭	佐藤美	智枝
委員		同 教諭	渡部	寿之
委員		同 若宮小学校教諭	田中	英人
委員		同 金上小学校教諭	浅川富	美子
委員		同 広瀬小学校教諭	横田	恵一
委員		同 坂下小学校教諭	岩橋	恵子
○人物イラスト・絵				
		イラストレーター	やないふみえ	
			(会津坂下町出身)	
○事務局				
		会津坂下町教育委員会教育部長	山内茂夫	
		前同	日下亮	
		同 教育部文化振興班長	大堀一仁	
		同 教育総務班学校教育担当	五十嵐隆裕	
		同 文化振興班町史編さん担当	高畑吉一	
		前同	佐藤暢一郎	
		同 専門員	長尾修	
		同 主任調査員	園城泉	
		同	酒井彰子	
		前同 調査員	齋藤哲子	

本書を編集するにあたり、町内の各官公署・事業所をはじめ、数多くの方々からたくさんの資料を提供していただきましたこととお知らせいたしますと共に、厚くお礼申し上げます。

○第二次改訂監修	会津坂下町教育委員会教育長	鈴木	茂雄
○第二次改訂事務局	会津坂下町教育委員会教育課長	上谷	圭一
	同 教育総務班長	水野	孝之
	同 学校教育係長	荒井	茜樹
	同 主事	吉田	直樹

発行者 福島県河沼郡会津坂下町教育委員会
 発行年月日 平成24年10月31日
 第二次改訂 令和6年3月31日